

府中市地域公共交通計画

(素案)

令和4(2022)年12月

府中市

冒頭文

目次

1. 序論	1
1 - 1 地域公共交通計画の意義	2
1 - 2 府中市地域公共交通計画の概要	4
1 - 3 府中市地域公共交通計画の全体像	6
2. 上位計画と国・東京都の方針	7
2 - 1 府中市の上位計画における都市像	8
2 - 2 国や東京都の地域公共交通に関する方針	12
3. 府中市の地域公共交通の現状	15
3 - 1 府中市の現状	16
3 - 2 公共交通の現状	17
3 - 3 コミュニティバス事業の評価・検証	20
3 - 4 市民の移動実態	22
4. 府中市の公共交通の課題	27
4 - 1 府中市の地域公共交通の課題	28
4 - 2 市中心部への移動に関する問題点と課題	30
4 - 3 地区内の移動に関する問題点と課題	32
4 - 4 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題	34
4 - 5 公共交通の利用環境に関する問題点と課題	36
5. 基本的な方針	39
5 - 1 基本的な方針の意義	40
5 - 2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針	40
5 - 3 府中市地域公共交通のあるべき姿イメージ(仮)	41
6. 目標・評価指標	43
6 - 1 計画目標	44
6 - 2 計画目標ごとの評価指標	46
目標1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する	46
目標2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする	48
目標3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する	50
目標4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする	53
目標5 誰もが安心・快適に移動できるようにする	55
目標6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする	58
7. 施策・事業	61
7 - 1 施策展開の基本的な考え方	62
7 - 2 施策一覧	64
7 - 3 施策展開図	65
7 - 4 階層による施策・事業の組み合わせ	68
7 - 5 事業一覧	70

7 - 6 事業内容	72
施策1 バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上	72
施策2 複数交通モードの接続性の向上	74
施策3 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	75
施策4 特定の需要に対応した快適な移動手段の検討	76
施策5 地区内交通を支える最適な移動手段の検討	76
施策6 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上	77
施策7 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	78
施策8 デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	79
施策9 公共交通を利用しやすい環境の整備促進	80
施策10 市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議	82
施策11 自家用車からの段階的な転換と公共交通等による移動の促進	83
施策12 公共交通の脱炭素化の促進	84
8. 推進体制・評価方法	85
8 - 1 計画の推進体制	86
8 - 2 PDCA サイクルによる評価・検証	86
8 - 3 評価指標・数値目標	88
参考資料	95
1 策定の経緯	95
2 実態・ニーズ調査の実施概要	95
3 データ分析結果	95
4 用語解説	95

1. 序 論

1 - 1 地域公共交通計画の意義

(1) 策定の背景

人口減少の本格化に伴い、公共交通の維持確保が厳しくなる一方、高齢者の移動手段の確保が課題となっていることを踏まえ、地方公共団体が交通事業者などと協議しながら公共交通の改善などに資する取り組みを推進するため、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(以下「活性化再生法」といいます。)が改正され、原則として、全ての地方公共団体で地域公共交通計画の策定が努力義務化されました。

地域公共交通とは、活性化再生法において「地域住民の日常生活若しくは社会生活における移動または観光旅客その他の当該地域を来訪する者の移動のための交通手段として利用される公共交通機関」と定義されています(地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第2条第1号)。

現在、多くの地域で人口減少の本格化に伴い、バスをはじめとする公共交通サービスの需要の縮小や経営の悪化、運転者不足の深刻化などにより地域の公共交通の維持・確保が厳しくなっています。

他方、高齢者の運転免許の返納が年々増加している等、受け皿としての移動手段を確保することがますます重要な課題になっています。

このような状況を踏まえ、原則として全ての地方公共団体において地域交通に関するマスタープランとなる計画(地域公共交通計画)を策定した上で、交通事業者をはじめとする地域の関係者と協議しながら公共交通の改善や移動手段の確保に取り組める仕組みを拡充するとともに、特に過疎地などでは、地域の輸送資源を総動員して移動ニーズに対応する取組を促すため、持続可能な運送サービスの提供の確保に資する取組を推進するための地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律が、令和2年11月27日に施行されました。(国土交通省ホームページ「公共交通政策:地域公共交通の活性化及び再生に関する法律について」より抜粋)



国土交通省「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き(第3版(令和4年3月))」より抜粋

(2) 計画の定義

地域公共交通計画とは、活性化再生法に基づき、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにするマスタープラン(ビジョンと事業体系を記載するもの)としての役割を果たすものです。

地域の移動手段を確保するためには、住民の移動ニーズにきめ細かく対応できる地方公共団体が中心となり、交通事業者や住民などの地域の関係者と協議しながら、マスタープランとなる地域公共交通計画を作成することが必要となります。

地方公共団体は、国が定める「地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本方針」に基づき、地域公共交通計画を作成します。計画においては従来のバスやタクシーといった既存の公共交通サービスを最大限活用したうえで、必要に応じて自家用有償旅客運送やスクールバス、福祉輸送などの既存の民間事業者による送迎サービス、物流サービス等の

地域の多様な輸送資源についても最大限活用する取り組みを盛り込むことで、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保することを求めています。その際は、キャッシュレス化、Wi-Fiの整備といった最新の技術や MaaS や AI による配車、自動運転などの技術も最大限活用して生産性を向上しつつ、使いやすいサービスを目指すことが必要です。

(国土交通省「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き(第3版(令和4年3月))」より抜粋)

地域公共交通計画の法定の記載事項

法第5条第2項

- (1) 地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針
- (2) 地域公共交通計画の区域
- (3) 地域公共交通計画の目標(第5条第4項において、定量的な目標が必要(施行規則第10条の2:地域旅客運送サービスの利用者の数、収支、費用に係る国又は地方公共団体の支出の額))
- (4) 前号の目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項
- (5) 地域公共交通計画の達成状況の評価に関する事項

▼地域公共交通計画と従来の計画の違い

	地域公共交通計画 (令和2年～)	網形成計画 (平成26年～)	連携計画 (平成19年～)
計画の対象	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの確保・充実に加え、ダイヤや運賃などの面からもサービスを総合的に捉え改善や充実に取り組む 地域の輸送資源を総動員する具体策を盛り込むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> バス路線などの専ら公共交通のネットワークの確保・充実(主に路線の再編や新規整備)を対象とする 	<ul style="list-style-type: none"> バス交通などの活性化・再生を目的としており、特定の交通機関に特化した計画の作成も可能
位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体による作成を法的に努力義務化 基本的に全ての地方公共団体において計画の作成や実施に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体による作成が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村による作成が可能(ただし、複数市町村での作成も可能)
実効性確保	<ul style="list-style-type: none"> 定量的な目標の設定や毎年度の評価などの仕組みを制度化 定量的なデータに基づくPDCAの取組を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り具体的な数値指標を明示 原則として計画期間の終了時・計画の見直し時に達成状況を評価 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り具体的かつ明確な目標を設定

国土交通省「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き(第3版(令和4年3月))」より抜粋

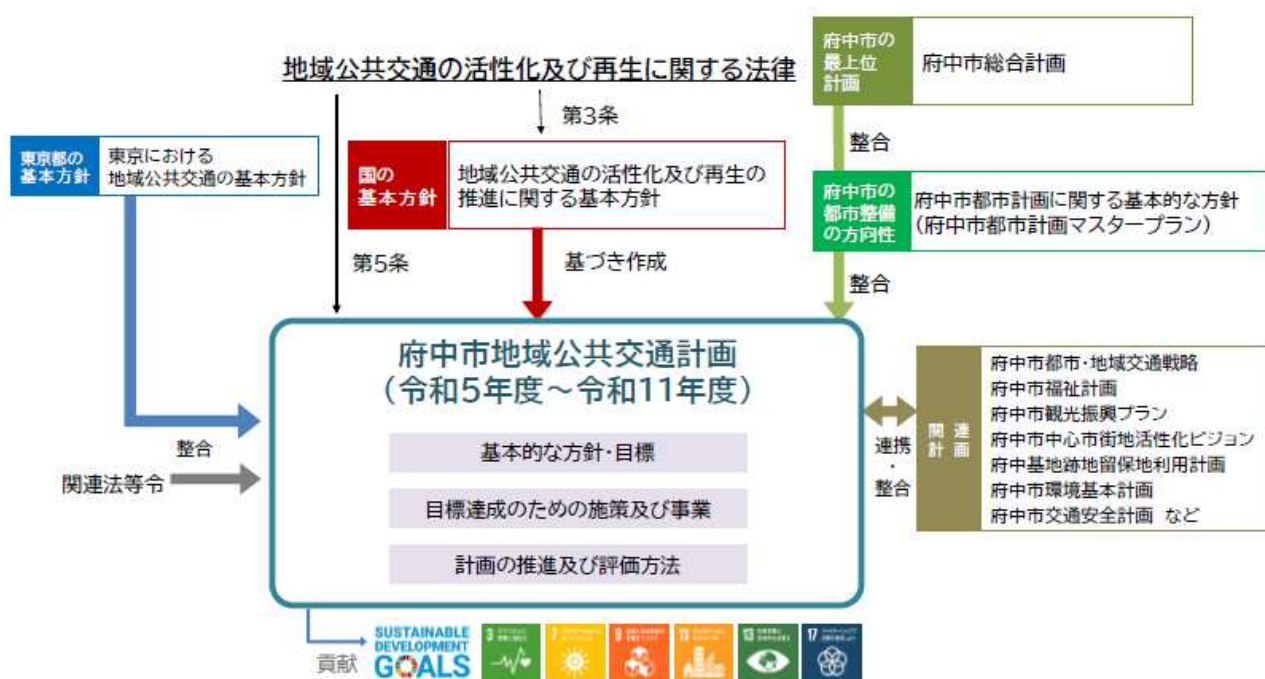
1 - 2 府中市地域公共交通計画の概要

(1) 計画の目的

府中市地域公共交通計画(以下「本計画」といいます。)の目的は、行政、公共交通事業者、市民などが一体となり、本市の地域公共交通のあるべき姿を示す「地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針」(以下「基本的な方針」といいます。)の決定と、その達成のための目標などについて定めることです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、国の定める「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」に基づき作成するほか、本市の上位計画である「第7次府中市総合計画(以下「総合計画」といいます。)」や「府中市都市計画に関する基本的な方針(府中市都市計画マスタープラン)(以下「都市計画マスタープラン」といいます。)」の施策等に位置付けられています。また、東京都が作成した「東京における地域公共交通の基本方針」との整合や関連計画との連携も必要となります。



<コンパクトシティ・プラス・ネットワーク>

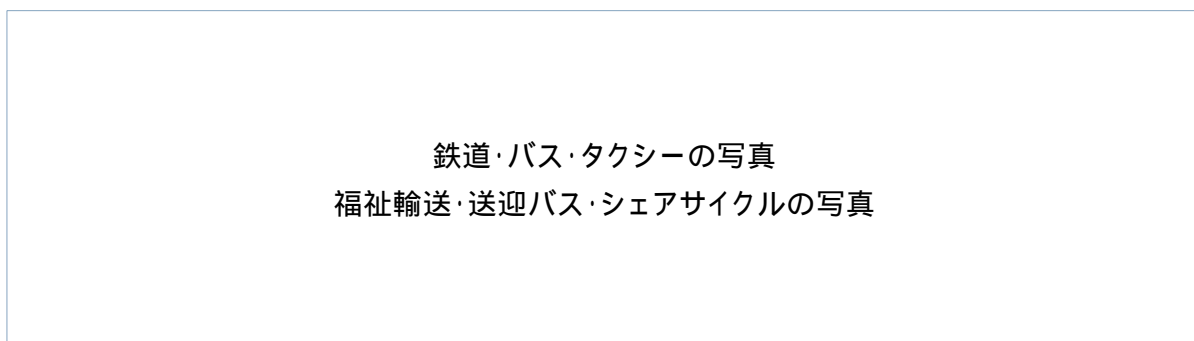
近年、全国的に急激な人口減少と少子高齢化の進行により、低密度に拡散した市街地においては、住民の生活を支える医療・福祉・商業棟の生活サービスの提供が、将来的には困難になりかねない状況にあり、持続可能な都市経営を実現することが大きな課題となっています。

こうした状況の中、医療・福祉・商業等の各種施設や住居棟がまとまって立地し、高齢者を始めとする住民が公共交通により、これらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直す『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』の考えが重要となっています。

このようなことから、地域公共交通計画の作成にあたっては、都市機能の増進に必要な施設の立地の適正化に関する施策との連携を図ることが求められています。

(3) 計画の対象

本計画は、原則として、鉄道、バス、タクシー等の公共交通を対象とします。ただし、福祉輸送や施設送迎バス、シェアサイクル等の多様な輸送資源についても、必要に応じて検討の対象とします。



(4) 計画の期間

本計画の期間は、総合計画との整合を踏まえ、令和5(2023)年度から令和11(2029)年度までの7年間とします。

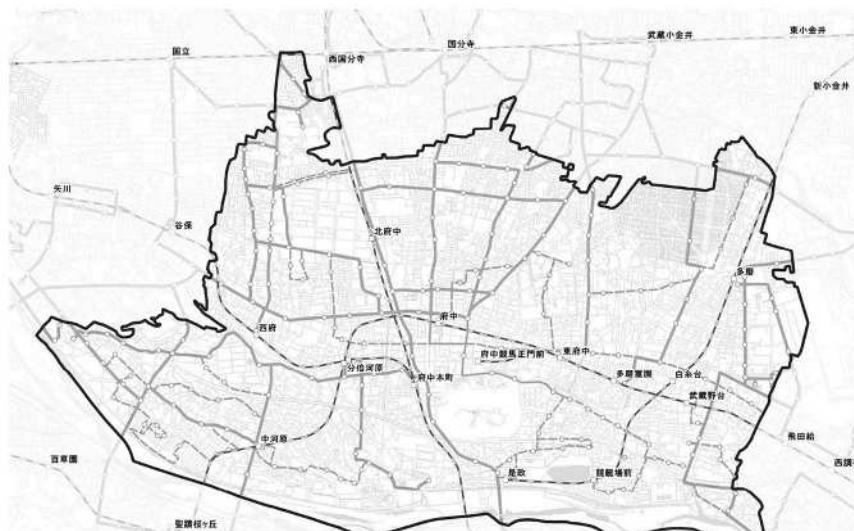
ただし、基本的な方針は、中長期的な観点から、現在の都市計画マスタープランの計画期間である令和23(2041)年度までを見据えた方針とします。

なお、社会情勢の変化や法制度の変更など、新たな対応が生じた場合は、適宜見直しを検討します。

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	...	R23	
府中市地域公共交通計画		計画期間	→										
		基本的な方針	→										
総合計画		→											
都市計画マスタープラン		→											

(5) 計画の区域

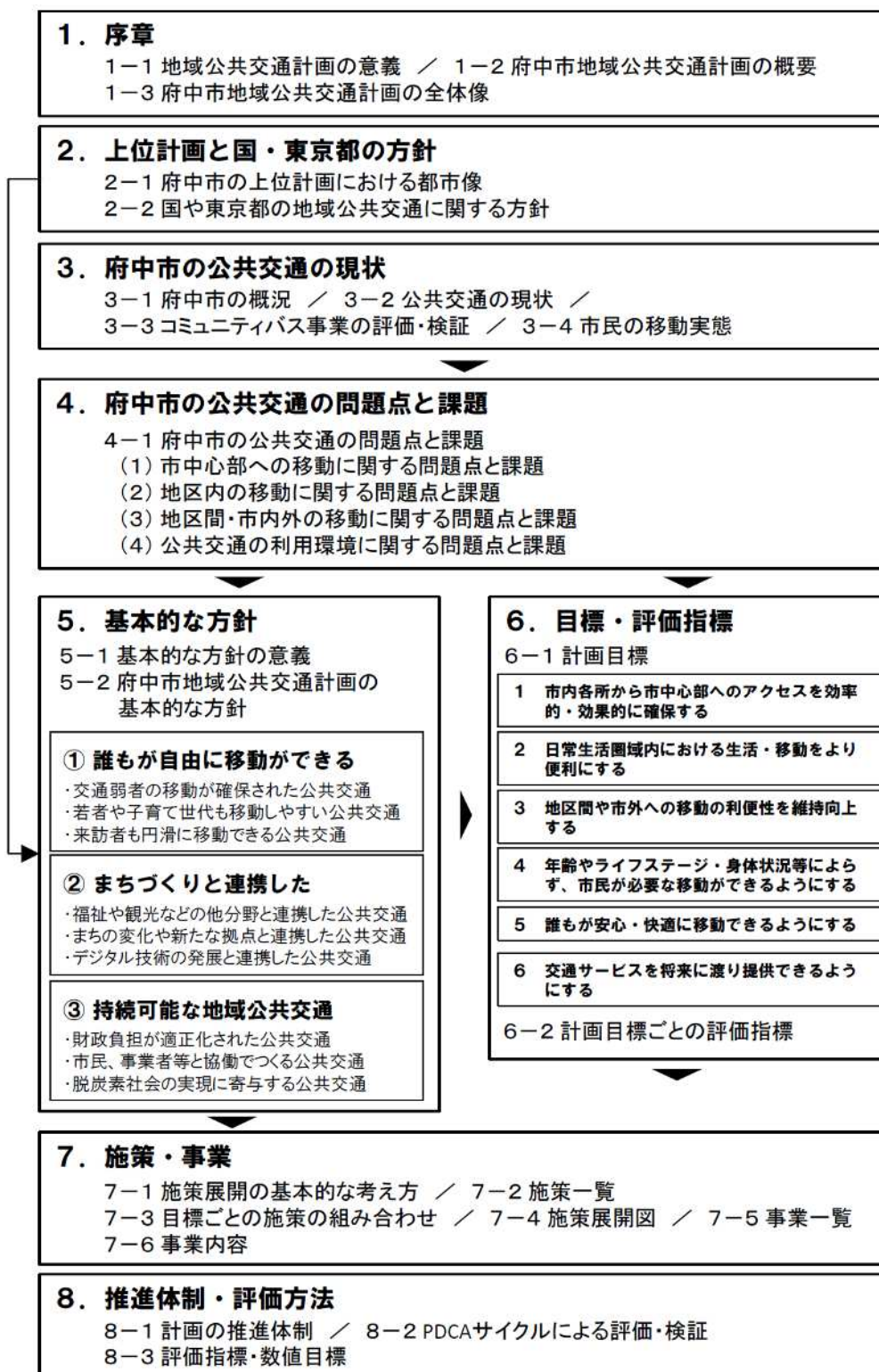
本計画の対象となる区域は、府中市の全域とします。ただし、他市の地域において施策を進める場合は、近隣自治体との連携に係る個別の協議を行うものとします。



1 - 3 府中市地域公共交通計画の全体像

本計画では、次章以降において、地域公共交通に関し、上位計画などの都市像と現状を比較し、現状の問題点から課題を設定したうえで、基本的な方針として、本市の地域公共交通のあるべき姿を示すとともに、その実現に向けた課題解決のための目標と、目標達成のための施策、事業等を示しています。

< 本計画の全体像 >



2. 上位計画と国・東京都の方針

1. 序章 1-1 地域公共交通計画の意義 / 1-2 府中市地域公共交通計画の概要 1-3 府中市地域公共交通計画の全体像
2. 上位計画と国・東京都の方針 2-1 府中市の上位計画における都市像 2-2 国や東京都の地域公共交通に関する方針
3. 府中市の地域公共交通の現状 3-1 府中市の概況 / 3-2 地域公共交通の現状 / 3-3 コミュニティバス事業の評価・検証 / 3-4 市民の移動実態
4. 府中市の地域公共交通の問題点と課題 4-1 府中市の地域公共交通の問題点と課題 (1) 市中心部への移動に関する問題点と課題 (2) 地区内の移動に関する問題点と課題 (3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題 (4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題
5. 基本的な方針 5-1 基本的な方針の意義 5-2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針 ① 誰もが自由に移動ができる ・交通弱者の移動が確保された公共交通 ・若者や子育て世代も移動しやすい公共交通 ・来訪者も円滑に移動できる公共交通 ② まちづくりと連携した ・福祉や観光などの他分野と連携した公共交通 ・まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通 ・デジタル技術の発展と連携した公共交通 ③ 持続可能な地域公共交通 ・財政負担が適正化された公共交通 ・市民、事業者等と協働でつくる公共交通 ・脱炭素社会の実現に寄与する公共交通
6. 目標・評価指標 6-1 計画目標 1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する 2 日常生活圏内における生活・移動をより便利にする 3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する 4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする 5 誰もが安心・快適に移動できるようにする 6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする 6-2 計画目標ごとの評価指標
7. 施策・事業 7-1 施策展開の基本的な考え方 / 7-2 施策一覧 7-3 目標ごとの施策の組み合わせ / 7-4 施策展開図 / 7-5 事業一覧 7-6 事業内容
8. 推進体制・評価方法 8-1 計画の推進体制 / 8-2 PDCAサイクルによる評価・検証 8-3 評価指標・数値目標

2 - 1 府中市の上位計画における都市像

本市の地域公共交通のあるべき姿の検討にあたっては、最上位計画である「府中市総合計画」と本市の都市整備の方向性を示す基本計画である「府中市都市計画に関する基本的な方針(府中市都市計画マスタープラン)」に掲げる都市像との整合を図る必要があります。

(1) 総合計画の“まちづくりの基本理念、都市像及び基本目標”

総合計画では、「きずなを紡ぎ 未来を拓く 心ゆたかに暮らせるまち 府中」を都市像として掲げ、4つの基本目標を定めています。このなかで、公共交通に関する基本目標は、都市基盤・産業を対象とした4の「魅力あふれる うるおいと活力のあるまち」です。

基本構想

1 はじめに～基本構想とは～

府中市のまちづくりにおける基本的な理念を明らかにし、都市像(まちの将来像)と基本目標(目指すまちの状態)を掲げるとともに、その実現に向けた基本施策の方向性などを示すものです。
なお、令和4年度(2022年度)から令和11年度(2029年度)までの8年間で計画期間とします。

1 第1章 まちづくりの基本理念、都市像及び基本目標

1 まちづくりの基本理念

わたしたちのまち府中は、地名が武蔵国の国府の設置に由来し、誇りを持てる歴史と文化が現在にも息づいており、緑を始めとする豊かな自然環境と、商業や交通における利便性といった都市機能が調和する、魅力的で住みよいまちとして発展してきました。

わたしたちは、先人から受け継いだ貴重な財産を礎としながら、これからも市民が主役となり、誇りと愛着を持ってこのまちに住み続けることができるよう、まちづくりを進めます。また、時代や環境の大きな変化にも柔軟に対応し、お互いが連携・協力して地域の課題解決に取り組む、協働によるまちづくりを推進していきます。

2 都市像

わたしたちは、まちづくりの基本理念を踏まえ、

「人と人とのつながりを紡いで『きずな』という力にして」
「未来を拓く強い意志で何事にも取り組み」
「誰もが心ゆたかに日々の生活を送ることができるまち」

を目指して、

「きずなを紡ぎ 未来を拓く 心ゆたかに暮らせるまち 府中」

を都市像として掲げます。

基本目標1

人と人との支え合い 誰もが幸せを感じるまち

保健 福祉

基本目標2

緑とともに暮らせる 快適で安全安心なまち

生活 環境

基本目標3

多様性を認め合い 人と文化が磨かれるまち

文化 学習

基本目標4

魅力あふれる うるおいと活力のあるまち

都市基盤 産業

(2) 総合計画における公共交通に関する施策

基本目標4の「魅力あふれる うるおいと活力のあるまち」を実現するための基本施策のうち、基本施策4-1として「快適で住みやすいまちづくりの推進」が掲げられています。

この基本施策によってめざすまちの姿のうち、公共交通に関するものは、「鉄道やバス、タクシーなど公共交通ネットワークが形成され、環境保全に配慮した利便性の高いまちになって」いること、「バリアフリー化と情報化が進み、誰もが公共交通を利用しやすい環境が整って」いることの2つです。

また、基本施策4-1を実現するための、より具体的な施策のうち公共交通に関するものは、「施策58 公共交通の利便性の向上」です。

前期基本計画

第4章 分野別の施策

4 都市基盤 産業

魅力あふれるうるおいと活力のあるまち

基本施策4-1 快適で住みやすいまちづくりの推進

施策58

公共交通の利便性の向上

■めざす姿(施策の目的)


鉄道やバス、タクシーなどの公共交通ネットワークが形成されるとともに、バリアフリー化や情報化が進むことにより、誰もが公共交通を快適に利用することができる環境が整っています。

■現状と課題

コミュニティバスの運行により、市内の交通不便地域についてはおおむね解消している状況がありますが、年々運行事業に要する経費は増加しているため、受益者負担の観点も踏まえて効率的な運行手法を検討する必要があります。また、鉄道事業者やバス事業者に対しては、更なる安全性の確保や利便性の向上を図るため、バリアフリー施設の整備等を継続して要望することが求められています。さらには、少子高齢化の進行により労働人口の減少が見込まれる中、公共交通ネットワークの在り方について、将来を見据えた視点で整理することが必要です。

■施策の方向性

- コミュニティバスについては、その運行を補助しつつ、社会情勢の変化や都市基盤の整備状況、市民ニーズや利用状況を把握した上で、他の交通手段との役割分担を検証するなど、持続可能な事業運営や利便性の向上に向けた検討を行います。
- 鉄道やバスなどの更なる安全性の確保や利便性の向上を図るため、ホームドア^{*50}等のバリアフリー施設の整備等について交通事業者に対して要望し、バリアフリー化に要する費用の一部を助成するとともに、多摩都市モノレール事業及びJR中央線複々線化事業についても、関係市と連携を図り、関係機関に対して引き続き、事業の促進を要請します。
- 持続可能な公共交通ネットワークの形成に当たっては、現行の公共交通機関のみならず、シェアサイクル^{*51}など様々な交通手段との連携を含めて検討した上で、各種取組を進めていきます。



コミュニティバス「ちゅうバス」

186

(3) 都市計画マスタープランの“まちづくり方針”

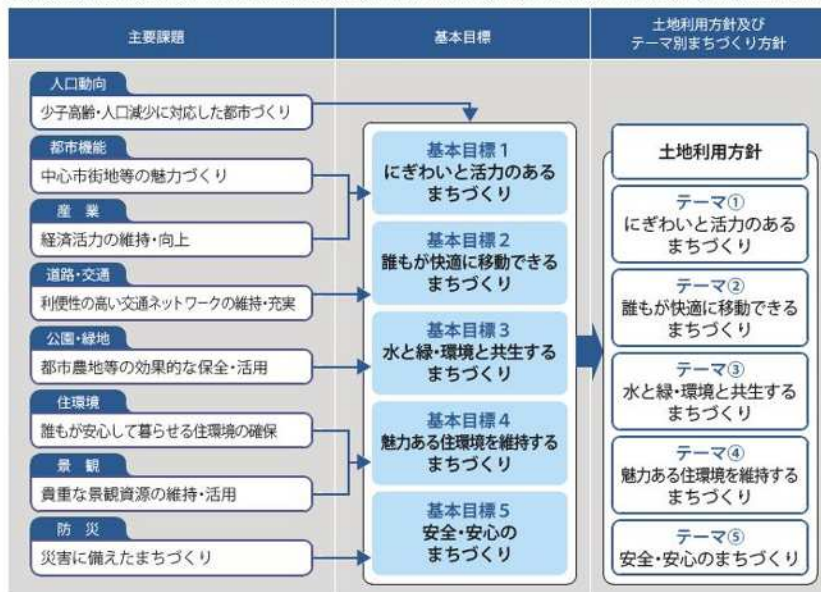
都市計画マスタープランでは、総合計画と同じく「**きずなを紡ぎ** 未来を拓く **心ゆたかに暮らせるまち 府中**」を将来都市像として掲げ、5つの基本目標を定めています。このなかで、公共交通に関する基本目標は、2の「**誰もが快適に移動できるまちづくり**」です。

2 まちづくり方針 (全体構想)

(1) 将来都市像、基本目標

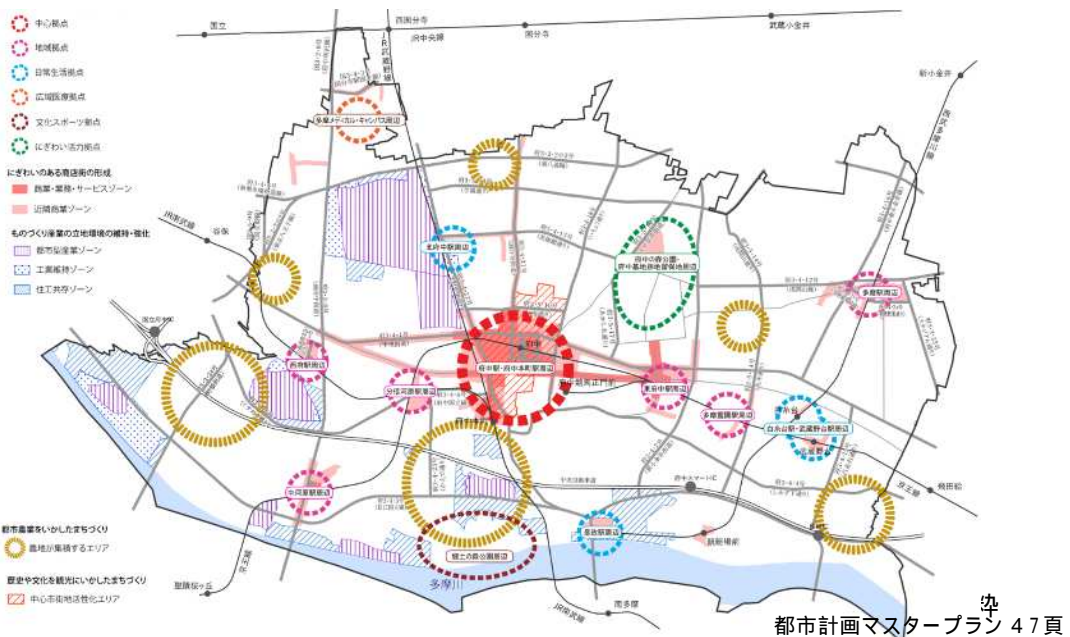
都市計画マスタープランでは、将来都市像及び基本目標を以下のように設定します。5つの基本目標を実現するため5つのテーマ別まちづくり方針を定めました。なお、土地利用方針は5つのテーマ別まちづくり方針に関する包括的な方針としています。

将来都市像 **きずなを紡ぎ 未来を拓く 心ゆたかに暮らせるまち 府中**



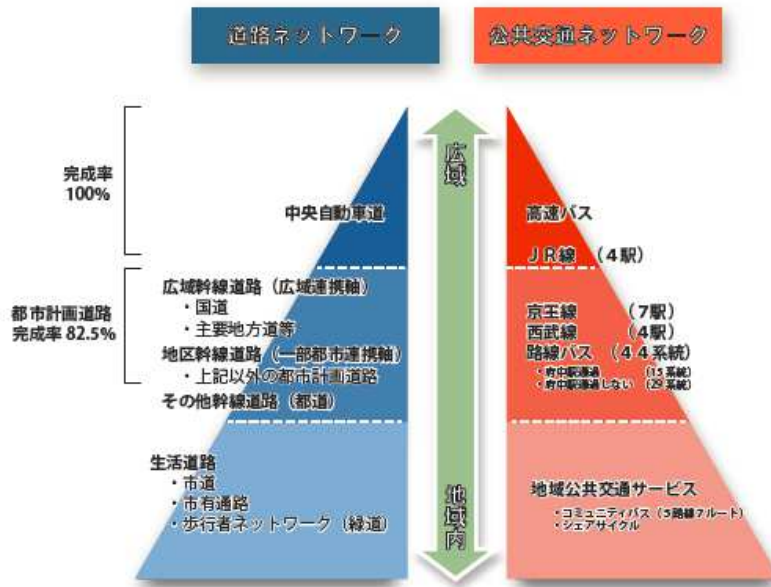
府中市都市計画に関する基本的な方針(府中市都市計画マスタープラン)概要版 2 頁抜粋

基本目標1 にぎわいと活力のあるまちづくり方針図



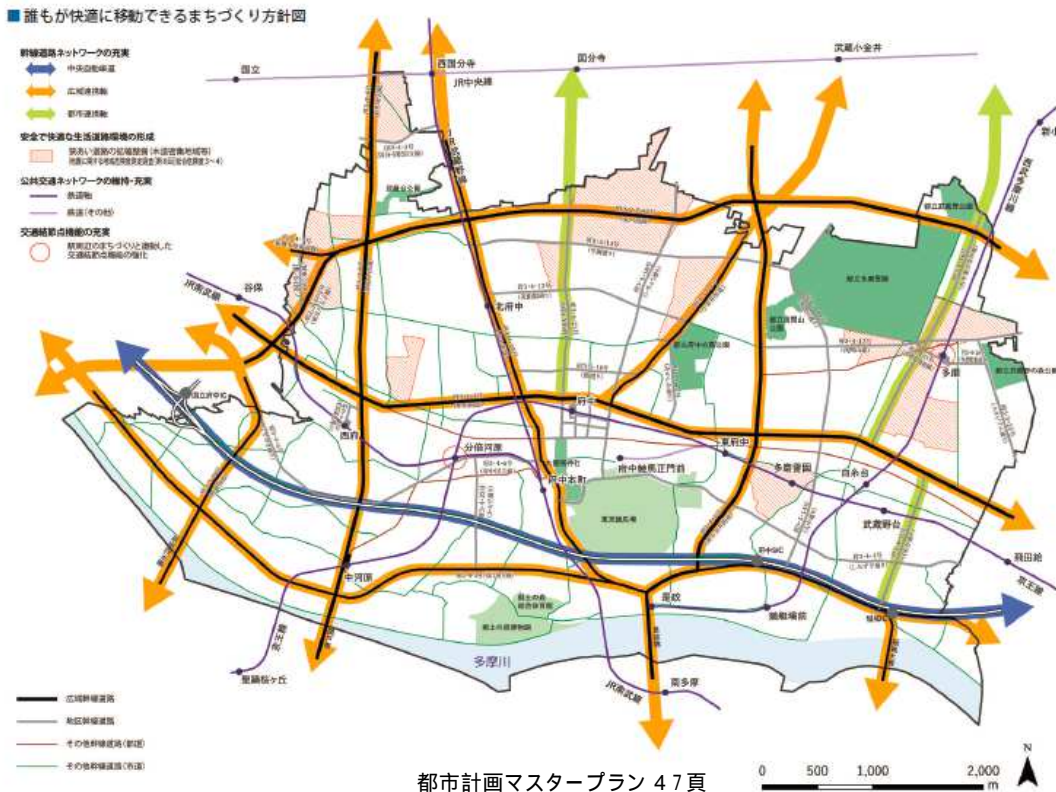
(4) 都市計画マスタープラン「誰もが快適に移動できるまちづくり」の基本的な考え方

「誰もが快適に移動できるまちづくり」に向けた基本的な考え方では、公共交通に関するものとして、「誰もが快適に移動できるように、バスや鉄道などの公共交通ネットワークの維持・充実を促進するとともに、自転車の利用環境の充実を推進」すること、「鉄道駅を中心に、各種交通の乗換えなどの交通結節機能の充実、駅周辺のバリアフリー化を進め」ることなどを掲げています。



府中市の都市基盤(道路・公共交通)の階層的なネットワーク

基本目標2 誰もが快適に移動できるまちづくり方針図



2 - 2 国や東京都の地域公共交通に関する方針

地域公共交通計画は、国の定める基本方針に基づき作成することとされているほか、東京都は、東京の地域公共交通が目指すべき姿の実現に向けた取組の方向性を示す基本方針を策定していることから、本計画の策定に当たっては、国や東京都の地域公共交通に関する方針との整合を図る必要があります。

(1) 地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針(国)

国が定める基本方針は、活性化再生法第3条第5項の規定に基づき、「地域のニーズや課題に最も精通した地方自らによる地域公共交通の在り方についての主体的な検討と、それに基づく地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する取組を推進するための基本的な方針」として定められています。

国の基本的方針の概要

(2) 東京における地域公共交通の基本方針(東京都)

東京都の定める基本方針は、「『未来の東京』戦略」、「都市計画区域マスタープラン」及び「都市づくりのグランドデザイン」で掲げた都市像の実現に向け、東京都として取組の方向性を示し、関係者間でビジョンを共有することを目的として定められています。

(地域公共交通の理念)

多様な主体の参画と、まちづくりとの連携により、
地球環境と調和し、様々なニーズにきめ細かく対応できる、
持続可能な地域公共交通サービスを実現

本格的な少子高齢・人口減少や新しい日常の浸透、気候危機の顕在化等、社会経済情勢が大きく変化する中、その時代にふさわしい移動手段を実装するとともに、集約型の地域構造への再編を進める必要がある。加えて、新しい価値を創造し続ける場として人々から選択される、個人の嗜好に合う豊かな生活が享受できる都市・東京の形成に向けて、ライフスタイルに応じた多様な活動を支える高質な移動環境を確保することも重要である。

その際、安全で誰もが使いやすく、脱炭素社会の実現に資する、地球環境との調和がとれた持続可能な移動手段を実装し、「ゼロエミッション東京」を実現することが不可欠である。

このため、 unnecessary 交通需要の回避 (AVOID)、自家用車から公共交通への利用転換 (SHIFT) によりエネルギー消費総量を減らすとともに、それでも削減できない部分は、輸送エネルギー消費効率の改善や再生可能エネルギーへの転換 (IMPROVE) により対処する、統合的交通政策の導入を図る。

また、ポストコロナ社会においても、シェアリングサービスの提供や自動運転技術等の導入による活発な移動の促進、データを活用した交通政策・計画の立案など、交通分野における最先端技術の活用について、東京がトップランナーの地位を確立し、我が国の取組を牽引する。

これらにより、多様な主体の参画の下、地域自らのデザインにより民間の輸送資源等を含めたあらゆるリソースをフル活用し、様々なニーズにきめ細かく対応できる、持続可能な地域公共交通サービスを実現する。

東京における地域公共交通の基本方針 22 頁抜粋

同基本方針の中で、府中市は「新都市生活創造域」、「多摩広域拠点域」に分類されています。

✧ 主に新都市生活創造域のイメージ



- ・身近な中心地となる、主要なバス停と端末交通との結節点において、地域のインフラストラクに適した輸送モードの導入等により、きめ細やかな移動サービスが充実するとともに安全で快適な歩行者空間が生まれ、生活利便性が向上している。
- ・交通結節点には多様なモビリティが集まり移動の選択肢が広がるとともに、平時・発災時間問わず、まちや交通の情報が集まる場として機能している。
- ・城内の多数の居住者の、通勤・通学移動、身近な公園・自然地や商業施設への移動手段が、利用者目線で検討がなされ、行政界を感じることなく快適・便利に移動できるようになっている。

✧ 主に多摩広域拠点域のイメージ



- ・団地広場等の身近な中心地にシェアオフィスや交通結節機能等が付加され、コミュニティ形成の場としても機能している。
- ・多様な主体の協力の下、グリーンスローモビリティ等を用いて運営される移動サービスが、高低差を抱える地域でも気軽な外出を支えている。
- ・身近な地域内の移動や、リニア、モノレール等と生活の場との移動が充実し、多様な世代が快適に暮らしている。

東京における地域公共交通の基本方針 25、26 頁抜粋

3. 府中市の地域公共交通の現状

1. 序章 1-1 地域公共交通計画の意義 / 1-2 府中市地域公共交通計画の概要 1-3 府中市地域公共交通計画の全体像
2. 上位計画と国・東京都の方針 2-1 府中市の上位計画における都市像 2-2 国や東京都の地域公共交通に関する方針
3. 府中市の地域公共交通の現状 3-1 府中市の概況 / 3-2 地域公共交通の現状 / 3-3 コミュニティバス事業の評価・検証 / 3-4 市民の移動実態
4. 府中市の地域公共交通の問題点と課題 4-1 府中市の地域公共交通の問題点と課題 (1) 市中心部への移動に関する問題点と課題 (2) 地区内の移動に関する問題点と課題 (3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題 (4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題
5. 基本的な方針 5-1 基本的な方針の意義 5-2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針 ① 誰もが自由に移動ができる ・交通弱者の移動が確保された公共交通 ・若者や子育て世代も移動しやすい公共交通 ・来訪者も円滑に移動できる公共交通 ② まちづくりと連携した ・福祉や観光などの他分野と連携した公共交通 ・まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通 ・デジタル技術の発展と連携した公共交通 ③ 持続可能な地域公共交通 ・財政負担が適正化された公共交通 ・市民、事業者等と協働でつくる公共交通 ・脱炭素社会の実現に寄与する公共交通
6. 目標・評価指標 6-1 計画目標 1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する 2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする 3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する 4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする 5 誰もが安心・快適に移動できるようにする 6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする 6-2 計画目標ごとの評価指標
7. 施策・事業 7-1 施策展開の基本的な考え方 / 7-2 施策一覧 7-3 目標ごとの施策の組み合わせ / 7-4 施策展開図 / 7-5 事業一覧 7-6 事業内容
8. 推進体制・評価方法 8-1 計画の推進体制 / 8-2 PDCAサイクルによる評価・検証 8-3 評価指標・数値目標

3 - 1 府中市の概況

本市は、令和2年時点で高齢者人口の割合が22%を超える超高齢社会となるなか、市民が多く利用する医療施設や商業施設については、市内に広く分布しており、高い利便性が確保されています。

(1)人口動向

本市の将来人口は、令和12年頃に26.2万人でピークを迎え、その後微減傾向に転じると予想されています。

また、65歳以上の高齢人口は、令和2年に高齢化率が22%を超え、超高齢社会に突入しており、特に75歳以上の後期高齢者の割合は、年々増加傾向にあります。

一方、20代までの若年層についても転入が増加傾向にあります。



※実績値は各年4月1日時点の住民基本台帳に基づく
平成17年(2005年)、平成22年(2010年)は住民基本台帳と外国人登録の合算値

図 府中市の将来人口の見通し
資料：第7次府中市総合計画 序論 p15

(2)施設の分布

公共施設は、市役所が市中心部に立地しているほか、市内11箇所に文化センターが設置されています。

商業施設は、府中駅周辺に大規模商業施設が集積するほか、食品スーパーは、鉄道駅周辺に多く立地しており、徒歩圏域(半径800m)で概ね市全域がカバーされています。

医療施設は、病院、診療所が徒歩圏域で概ね市全域をカバーしているほか、多摩総合医療センターが市域北西部に立地しています。(参考資料 ページ)

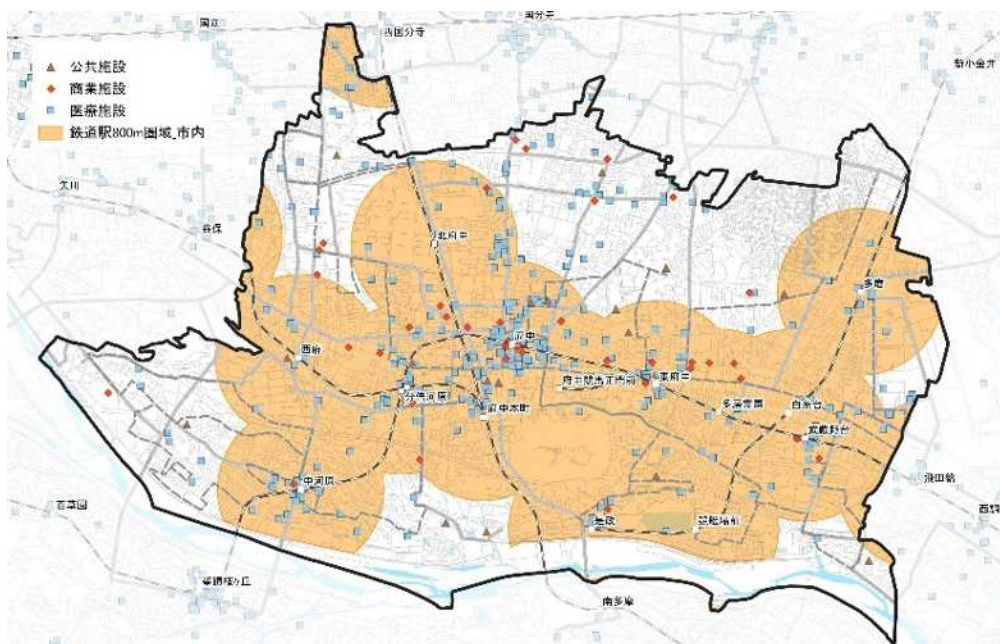
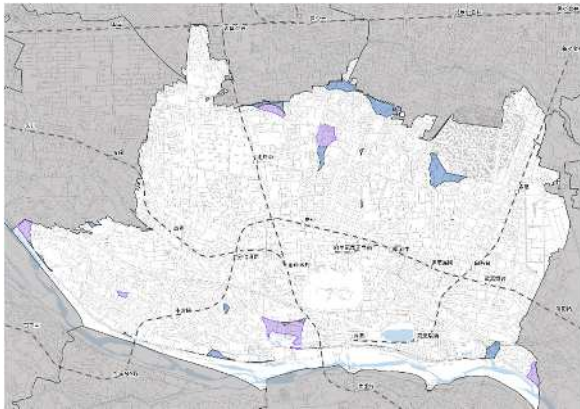


図 施設分布と鉄道駅徒歩圏(駅から800m圏)

3 - 2 地域公共交通の現状

府中市の地域公共交通は、市内に14駅ある鉄道により、東西南北へのアクセスが確保されているほか、市の北側については、府中駅と中央線各駅をつなぐ高頻度の路線バス網が整備されている一方、市の南側には、市のコミュニティバスにより交通不便地域の解消が図られており、市の中心部への充実した公共交通ネットワークが形成されています。また、タクシーや福祉有償運送の活用やシェアサイクルの増加により、個別の移動ニーズに対応しやすい環境が形成されています。



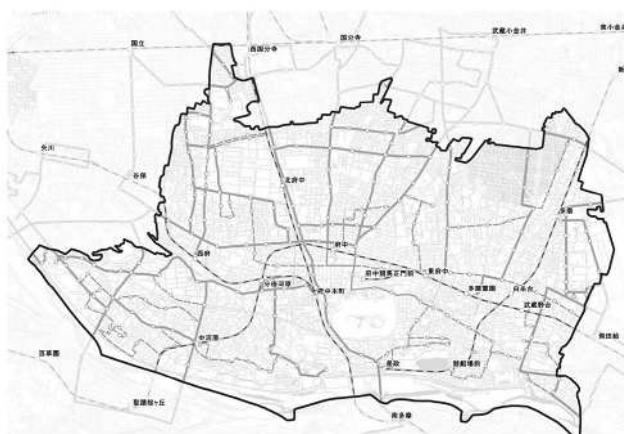
図：公共交通空白・不便地域

青：公共交通空白地域(鉄道 800m・バス停 300m以遠)
紫：公共交通不便地域(鉄道 800m 以遠・片道 30 本未滿)

(1) 鉄道

市内には、南北と東西に鉄道が運行しており、14の鉄道駅を中心とした生活圏が形成されています。また、鉄道は、市内4路線(JR 武蔵野線・JR 南武線・京王電鉄京王線・西武鉄道多摩川線)のほか、JR中央線が市周辺を運行しており、東京23区、立川・八王子、川崎、埼玉方面へのアクセスを支えています。

市内各駅の鉄道の利用者数については、乗換等が多い分倍河原駅、府中駅の利用者が多い状況ですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全駅合計利用者数の令和元年度比で、令和2年度の利用者数が約27.4%減少し、令和3年度時点で元年度比約21.7%の減少となっています。

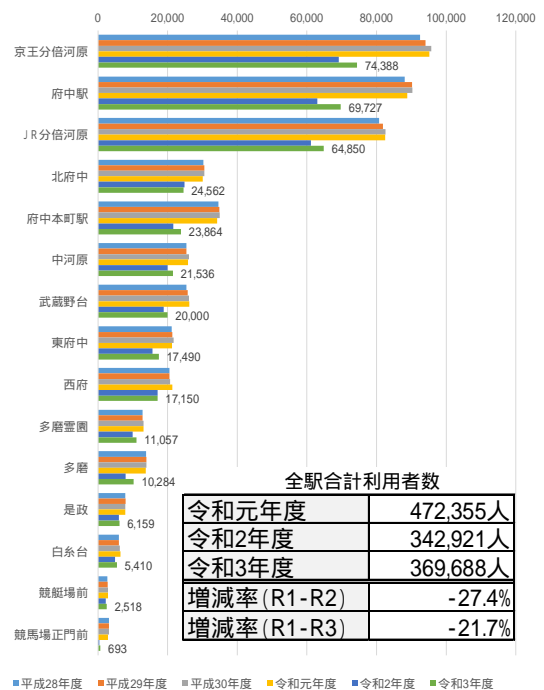


図：市内の鉄道網

京王電鉄写真

JR写真

西武鉄道写真



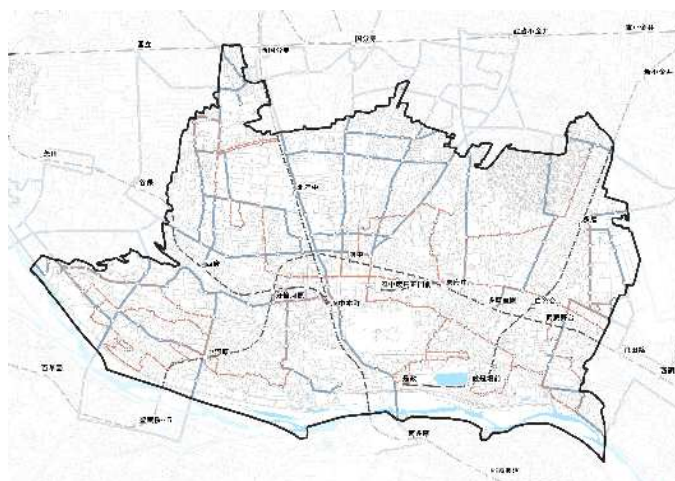
図：駅利用者数

全駅合計利用者数	
令和元年度	472,355人
令和2年度	342,921人
令和3年度	369,688人
増減率(R1-R2)	-27.4%
増減率(R1-R3)	-21.7%

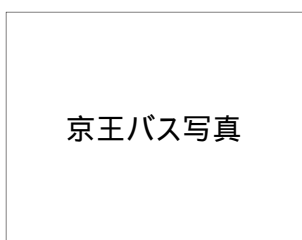
(2) 路線バス

府中駅を中心に放射状に路線バスが運行しており、特に府中駅から中央線沿線の各駅に対して多くの路線が運行しています。路線バスは、40以上の系統が市内を運行しており、府中駅へのアクセス、近隣自治体へのアクセスを支えています。

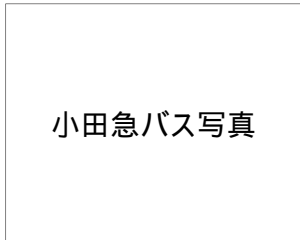
一方、路線バスの市内のカバー率については、路線バスのバス停から300m以上離れているエリアが一定程度存在しているほか、南側のエリアにおいては、運行本数が片道30本未満のエリアが多く存在しています。



図：市内のバス網(青：路線バス、赤：ちゅうバス)



京王バス写真



小田急バス写真

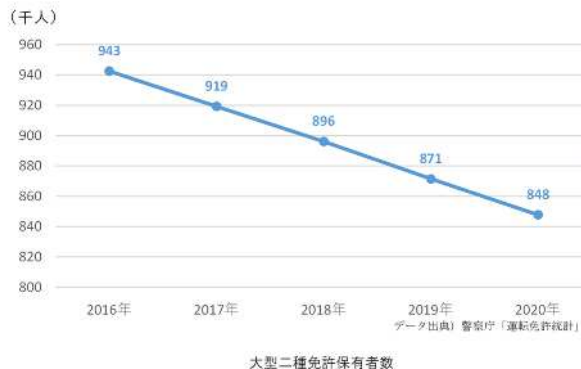
表：路線バス系統の一覧

行き先	系統番号
武蔵小金井駅	武 66、武 71、武 73、武 84、武 85、武 91、武 93、武 94、武 95
国分寺駅	寺 83、寺 85、寺 91、寺 92
西国分寺駅	西国 01、西国 44、西国 45
国立駅	国 01、国 02、国 03、国 17、国 18、西府 01
調布駅	調 33、調 51、飛 01、飛 02、武 91、武 93
三鷹駅	鷹 51、鷹 52
聖蹟桜ヶ丘駅	桜 08、桜 18、桜 19
稲城市立病院	府 61
日野駅	分 53
府中市内	磨 01、府 02、府 21、府 42、府 46、府 52、分 52、分 54、中 02、中 03

< [全国的な動向] バス事業における現状 >

バスドライバーの不足が見込まれている。

大型二種免許保有者数が減少傾向にあることから、今後、バスドライバーが不足していくと考えられる。



バスの運行経費の増加が見込まれている。

人件費や燃料費の高騰などにより、バスの運行経費が増加することが見込まれる。



(3) コミュニティバス

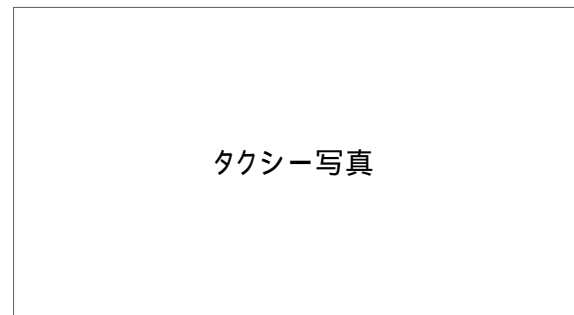
本市のコミュニティバス「ちゅうバス」は、路線バスが運行していない地域を中心に運行されており、5路線7ルート中6ルートが府中駅を起終点としており、各地域から府中駅までのアクセス性を確保しています。運行本数としては、30分に1本のペースで運行しており、日中の市内の移動を支えています。＜詳細は、3-3コミュニティバス事業の評価検証を参照＞



図：ちゅうバス(ポンチョ)

(4) タクシー

市内のタクシーは、東京都北多摩地区の営業エリアに該当します。令和4年4月1日現在、初乗り500円(～1.2km)で、法人のタクシー事業者は6社、個人のタクシー事業者は、33名となっています。



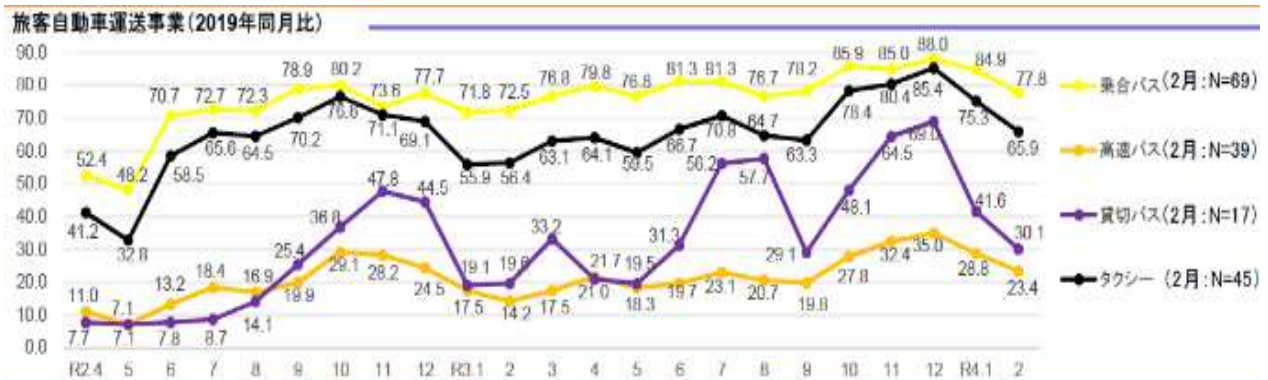
(5) その他の移動手段

市内には、鉄道やバスなどの公共交通以外の交通手段として、道路運送法第78条第2項に基づく福祉有償運送や、シェアサイクルなどが利用できる現状となっています。



図：市周辺のシェアサイクルポート

< [全国的な動向] 新型コロナウイルス感染症に伴う輸送収入の減少 >



3 - 3 コミュニティバス事業の評価・検証

「ちゅうバス」は、市内の交通不便地域の解消を行うとともに、3つの導入目的をもって、平成15年12月に本格運行を開始しました。導入効果の検証や問題点・課題の整理のため、利用者へのアンケート等を行ったところ、当初の導入目的については、概ね達成できていると評価できる一方で、一部ネットワークに関する問題が生じています。



<ちゅうバスの導入目的>

利用したくなるバスを導入することにより公共交通機関の利便性を向上させる
移動に制約を伴っている方々の社会活動機会の増大に寄与する

市中心部の買物施設・公共施設へのアクセス性を高め、まちづくりに寄与する



路線・ルート名	延長(km)	府中駅～終着 所要時間	車両数(台)
多磨町ルート	13.50	30分	3
押立町・朝日町循環 (朝日町ルート)	15.84	32分	3
押立町・朝日町循環 (押立町ルート)	16.83	36分	3
是政循環	8.08	20分	2
南町・四谷循環 (よつや苑西ルート)	16.74	45分	3
南町・四谷循環 (四谷六丁目ルート)	5.75	11分	1
北山町循環	11.88	25分	3
計	88.62	-	18

車両数は予備2台を含めて合計20台
四谷六丁目ルートの府中駅～終着所要時間は、中河原駅～四谷六丁目の区間の所要時間

導入目的 : 利用したくなるバスを導入することにより公共交通機関の利便性を向上させる

市民アンケート結果における公共交通等への満足度を見ると、「満足」と「やや満足」を合わせると約 54%、「不満」と「やや不満」を合わせると約 17%となっており、公共交通等の満足度は相対的に高い結果となっています。

導入目的 : 移動に制約を伴っている方々の社会活動機会の増大に寄与する

ちゅうバスの利用者の多くは、高齢者、免許非保持者となっており、ちゅうバスは移動制約者等の移動手段を確保しており、社会活動機会の増大に寄与している状況が伺えます。

残された課題: 移動ニーズと運行のミスマッチの発生

- ・ 高齢者や免許非保有者等の移動制約者の日常生活の移動実態をみると、全ての移動が府中駅周辺へ向かっているわけではありません。例えば、日用品の買い物では、区内や自宅近くの施設や最寄り駅(武蔵野台駅、東府中駅、中河原駅など)周辺への移動が見られます。
- ・ ちゅうバスの運行ネットワークは、基本的には府中駅(一部、中河原駅)に向いているため、最寄りの目的地に移動したいというニーズと運行内容にミスマッチが生じています。
- ・ ただし、ちゅうバスを利用して、同一区間から最寄りの鉄道駅と府中駅にそれぞれ移動している実態も見られます。

導入目的 : 市中心部の買物施設・公共施設へのアクセス性を高め、まちづくりに寄与する

ちゅうバスの利用目的や目的地を見ると、府中駅及び府中駅周辺の中心部への買物等のニーズに対応できており、市中心部へのアクセス性の向上及びまちづくりに寄与している状況が伺えます。

残された課題: ルートの長大化による利便性の低下

- ・ 一方で、細かなルート設定により、運行ルートが長大となっており、市中心部への遠回りが発生しています。
- ・ 現在のちゅうバス利用者は、市中心部にアクセスしやすい市民等が多く利用しており、市中心部にアクセスしづらい市民等は利用していない実態が見られます。(一部ルートについては市中心部から遠方の利用は少ない)

新たな課題 : 鉄道・路線バス等の交通手段との重複

ちゅうバスと路線バス及び鉄道の利用区間が重複し、運賃が安いちゅうバスに利用者が流れることで、路線バス(多い区間では60人/日や100人/日程度)や鉄道(5人/日)の利用者を奪っている状況が発生しています。

新たな課題 : 市内のバス交通のサービス水準及び運賃に格差が発生

ちゅうバスは一律100円で利用できるため、路線バスとの運賃格差が発生しています。一方、ちゅうバスのみが運行しているエリアについては、路線バスが運行しているエリアに比べるとサービス水準が低く、利便性が低い状況です。

新たな課題 : ちゅうバス運行経費の増加

ちゅうバスの利用者は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けるまで増加傾向にありましたが、感染拡大後に減少し、あわせて運行経費も増加傾向にあり、収支率が低下しています。

運行経費の増加要因は、人件費、燃料費などの値上がりによるもので、全国的なドライバー不足、原油価格の高騰が背景にあることから、ちゅうバス事業の安定的な運行にあたり、運賃体系を含めた検討が必要となっています。

3 - 4 市民の移動実態

市民の移動実態について、アンケート調査をもとに分析したところ、多くの地域で、日用品の買い物や通院は、概ね自宅の最寄り駅の範囲で行われている一方、その他の買物等については、市中心部や近隣他市への移動が見られるなど、地域ごとの差異が見受けられます。

公共交通の現状及び市民の移動実態図





市民アンケート調査 概要

調査対象
市内在住の16歳以上の
市民3,000人(無作為抽出)
調査時期
令和2年11月27日(金)
～令和2年12月18日(金)
調査方法
郵送配布・回収
回収数
有効回収数 1,532票
有効回収率 51.1%

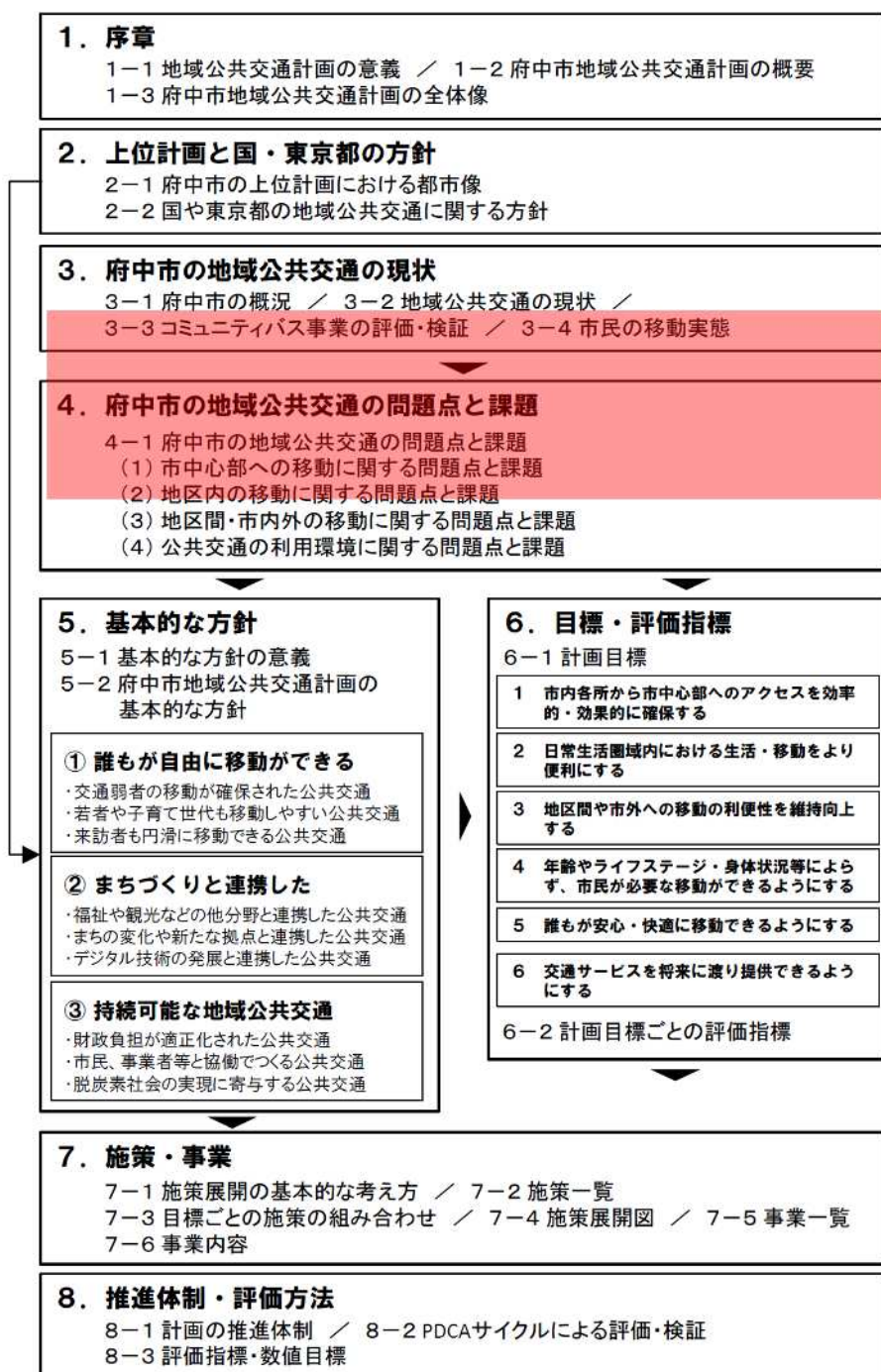
< 市民の移動実態 地区別カルテ総括表 >

		中央エリア	白糸台エリア	西府エリア	武蔵台エリア	新町エリア	
地区現況	高齢化率 平均21.9%	やや低い(20.0%)	やや低い(19.6%)	低い(18.4%)	高い(27.7%)	高い(25.8%)	
	路線バス(1日10便以上)	多数	3路線(3路線)	6路線(5路線)	6路線(4路線)	7路線(5路線)	
	ちゅうバス	6ルート (四六以外)	3ルート (多磨町・朝日町・押立町)	2ルート (北山町・四六)	1ルート (北山町)	1ルート (多磨町)	
	交通空白地域 鉄道駅800m・バス停300m以遠	幸町2丁目一部	なし	日新町4丁目一部 (国立市境・農地)	武蔵台2丁目一部 (国分寺市境・公園)	新町3丁目・栄町2・3丁目一部(国分寺市境)・幸町3丁目一部	
利用状況	路線バス・ちゅうバス利用 平均:9.1%	6.6%	5.7%	5.5%	13.6%	4.1%	
	ちゅうバス利用 平均:9.3%	5.8%	12.9%	10.0%	4.9%	2.3%	
	路線バス利用 平均:16.5%	21.2%	6.4%	18.2%	29.6%	47.4%	
	路線バス・ちゅうバス未利用 平均:59.5%	60.2%	70.7%	64.5%	48.1%	40.4%	
公共交通に対する満足度	満足 平均:53.8%	63.5%	58.5%	47.3%	48.2%	52.1%	
	不満足 平均:16.7%	10.8%	9.2%	17.2%	24.6%	18.1%	
	満足点	駐輪場(27.5%)	バス本数(27.5%)	バス本数(36.5%)	バス本数(35.0%)	バス本数(25.3%)	
	不満点	自転車走行環境 (22.5%)	自転車走行環境 (19.6%)	目的地までのバス (36.5%)	目的地までのバス (32.5%)	駐輪場(21.3%)	
移動特性	買い物(日用品)	府中駅周辺: 60.6% 東府中駅周辺: 8.3%	東府中駅周辺: 14.3% 武蔵野台駅周辺: 12.1% 若松町内: 11.4% 府中駅周辺: 10.7%	西府駅周辺: 20.9% 西原町内: 17.3% 府中駅周辺: 9.1%	西原町内: 16.0% 国分寺市: 16.0% 府中駅周辺: 11.1%	府中駅周辺: 21.1% 浅間町内: 15.2% 小金井市: 5.8%	
	買い物(日用品以外)	府中駅周辺: 40.2%	府中駅周辺: 25.0% 調布市: 10.7% 都内: 7.1%	府中駅周辺: 20.9% 多摩市: 7.3%	府中駅周辺: 11.1% 国分寺市: 9.9%	府中駅周辺: 28.7% 国分寺市: 7.6%	
	通院	府中駅周辺: 32.4%	府中駅周辺: 7.9% 白糸台内: 7.9% 武蔵野台駅周辺: 7.1%	府中駅周辺: 11.8% 西府駅周辺: 7.3% 分倍河原駅周辺: 6.4%	府中駅周辺: 7.4% 国立市: 6.2%	府中駅周辺: 20.5% 新町内: 9.9% 武蔵台内: 5.3%	
	買い物(日用品)	交通手段(徒歩) 平均:52.6%	70.6%	60.4%	51.0%	53.8%	39.4%
		交通手段(自転車) 平均:50.5%	43.7%	44.0%	56.7%	55.1%	58.1%
		交通手段(路線バス) 平均:6.8%	5.6%	0.7%	8.7%	12.8%	22.5%
		交通手段(ちゅうバス) 平均:7.7%	1.7%	7.5%	6.7%	5.1%	4.4%
		交通手段(鉄道) 平均:9.2%	5.2%	16.4%	10.6%	3.8%	3.8%
	交通手段(マイカー利用) 平均:31.5%	21.2%	29.1%	35.6%	29.5%	39.4%	
	通勤状況	通勤頻度(週1回以上) 平均:52.8%	61.8%	46.4%	57.2%	50.6%	50.3%
通勤頻度(週3回以上) 平均:58.8%		53.5%	52.1%	64.5%	56.8%	56.7%	
通勤頻度(未通勤) 平均:23.5%		22.8%	25.7%	20.0%	23.5%	24.6%	
市内通勤 平均:32.6%		27.5%	28.9%	29.1%	41.7%	33.7%	
都内通勤 平均:41.7%		54.4%	59.2%	54.4%	47.9%	51.0%	
鉄道	日常利用駅	府中駅: 43.6% 東府中駅: 6.6% 北府中駅: 4.1%	武蔵野台駅: 27.9% 多摩層園駅: 12.9% 東府中駅: 10.7%	西府駅: 30.0% 分倍河原駅: 15.5%	西国分寺駅: 25.9% 府中駅: 13.6% 国立駅: 9.9%	府中駅: 17.0% 国分寺駅: 13.5% 武蔵小金井駅: 11.1%	
傾向	・路線バスが充実し、利用も多い ・交通空白地域の一部は東京農工大の敷地 ・公共交通への満足度が高い ・買い物は府中駅が中心 ・マイカー利用率が低い	・鉄道利用が多い ・公共交通への満足度が少し高い ・買い物は東府中駅・武蔵野台駅・府中駅が中心 ・マイカー利用率が低い ・都内通勤者が多い	・高齢化率が低い ・公共交通への満足度が低い ・バス本数・目的地までのバスへの不満が多い ・買い物は地区内・西府駅が中心 ・マイカー利用率が少し高い	・高齢化率が高い ・路線バス利用が多い ・ちゅうバス利用が少ない ・公共交通への満足度が低い ・バス本数・目的地までのバスへの不満が多い ・買い物は地区内・国分寺市が中心 ・マイカー利用率が少し低い	・高齢化率が高い ・路線バスが充実し、利用も多い ・交通空白地域の一部は東京農工大の敷地 ・自転車利用が多い ・買い物は府中駅が中心 ・マイカー利用率が高い		

		住吉エリア	是政エリア	紅葉丘エリア	押立エリア	四谷エリア	片町エリア	
地区現況	高齢化率 平均21.9%	やや高い(23.3%)	やや高い(22.6%)	やや低い(20.5%)	高い(28.5%)	やや低い(20.9%)	やや低い(20.9%)	
	路線バス(1日10便以上)	4路線(2路線)	1路線(0路線)	6路線(5路線)	2路線(1路線)	6路線(1路線)	7路線(3路線)	
	ちゅうバス	2ルート (よつや苑西・四六)	2ルート (是政・押立町)	2ルート (朝日町・多磨町)	1ルート (押立)	2ルート (よつや苑・四六)	2ルート (北山町・よつや苑西)	
	交通空白地域 鉄道駅800m・バス停300m以遠	南町4・5丁目一部 (多摩川沿い)	南町6丁目・小柳町6 丁目一部(多摩川沿い)	多磨町3・4丁目一部 (小金井市境・公園・ 霊園)朝日町3丁目一 部(調布市境)	押立町4・5丁目一部 (多摩川沿い・調布市 境)	四谷5丁目一部 (多摩川沿い)	矢崎町3丁目一部	
利用状況	路線バス・ちゅうバス利用 平均:9.1%	11.8%	12.9%	20.0%	7.4%	13.4%	5.0%	
	ちゅうバス利用 平均:9.3%	4.4%	23.5%	8.3%	19.1%	12.2%	8.5%	
	路線バス利用 平均:16.5%	10.3%	3.8%	9.2%	5.9%	13.4%	5.7%	
	路線バス・ちゅうバス未利用 平均:59.5%	68.4%	51.5%	57.5%	57.4%	58.5%	72.3%	
公共交通に対する満足度	満足 平均:53.8%	47.8%	47.8%	45.0%	55.9%	50.0%	62.5%	
	不満足 平均:16.7%	22.0%	27.3%	20.0%	20.5%	18.3%	10.6%	
	目的地までのバス (32.8%)	バス本数(62.9%)	バス本数(47.5%)	バス本数(48.3%)	バス本数(53.8%)	目的地までのバス (23.5%)		
	不満点	バス本数(26.6%) 自転車走行環境 (26.6%)	駐輪場(30.6%) バス停までの移動 (19.4%)	バス停までの移動 (22.0%) 駐輪場・走行環境 (22.0%)	目的地までのバス (27.6%) 駐輪場(24.1%)	バス停までの移動 (23.1%) 目的地までのバス (23.1%)	バス本数・駐輪場 (23.5%) 自転車走行環境 (23.5%)	
移動特性	買い物(日用品)	中河原駅周辺:39.7% 分倍河原駅周辺: 11.0% 府中駅周辺:5.9%	府中駅周辺:15.9% 東府中駅周辺:15.2% 是政内:9.8%	若松町内:17.5% 府中駅周辺:9.2% 東府中駅周辺:7.5%	武蔵野台駅周辺: 18.2% 調布市:16.2% 白糸台内:13.2%	中河原駅周辺:35.4% 四谷内:15.9% 西府中駅周辺:9.8%	府中駅周辺:22.7% 分倍河原駅周辺: 17.7% 美疋町内:7.8%	
	買い物(日用品以外)	府中駅周辺:17.6% 多摩市:14.7% 中河原駅周辺:10.3%	府中駅周辺:25.8% 武蔵野市:8.3%	府中駅周辺:20.8% 武蔵野市:10.0%	調布市:29.4% 府中駅周辺:10.3%	多摩市:17.1% 府中駅周辺:7.3% 都内(23区):6.1%	府中駅周辺:28.4% 都内(23区):7.1% 分倍河原駅周辺:5.7%	
	通院	中河原駅周辺:14.7% 府中駅周辺:8.1% 多摩市:4.4%	府中駅周辺:11.4% 東府中駅周辺:6.1% 是政内:5.3%	府中駅周辺:7.5% 東府中駅:5.8% 朝日町内:3.3% 若松町内:3.3%	武蔵野台駅周辺: 10.3% 調布市:8.8%	中河原駅:15.9% 四谷内:13.4% 府中駅周辺:7.3%	府中駅周辺:17.0% 分倍河原駅周辺:6.4% 都内(23区):5.7%	
	買い物(日用品)	交通手段(徒歩) 平均:52.6%	56.6%	50.4%	33.3%	36.9%	32.1%	65.1%
		交通手段(自転車) 平均:50.5%	45.0%	49.6%	56.1%	46.2%	57.7%	52.7%
		交通手段(路線バス) 平均:6.8%	1.6%	2.4%	6.1%	3.1%	7.7%	1.6%
		交通手段(ちゅうバス) 平均:7.7%	6.2%	20.0%	15.8%	16.9%	14.1%	1.6%
		交通手段(鉄道) 平均:9.2%	11.6%	13.6%	14.9%	18.5%	3.8%	7.0%
	交通手段(マイカー利用) 平均:31.5%	29.5%	26.4%	36.0%	44.6%	44.9%	28.7%	
	通勤状況	通勤頻度(週1回以上) 平均:52.8%	57.3%	46.2%	51.6%	50.0%	59.7%	56.0%
通勤頻度(週3回以上) 平均:58.8%		61.0%	51.5%	55.8%	55.9%	65.7%	64.5%	
通勤頻度(未通勤) 平均:23.5%		22.8%	23.5%	24.2%	25.0%	24.4%	21.3%	
市内通勤 平均:32.6%		40.4%	38.7%	28.2%	15.0%	39.3%	33.7%	
都内通勤 平均:41.7%		41.6%	48.0%	54.9%	80.0%	42.9%	52.0%	
鉄道	日常利用駅	中河原駅:44.9% 分倍河原駅:11.6%	是政駅:12.9% 東府中駅:10.6% 多磨霊園駅:8.3% 競艇場前駅:8.3%	多磨駅:29.2% 多磨霊園駅:11.7% 武蔵野台駅:8.3% 東府中駅:6.7%	武蔵野台駅:50.0% 飛田給駅:14.7%	中河原駅:39.0% 西府中駅:8.5%	分倍河原駅:32.6% 府中本町駅:12.8% 府中駅:12.1%	
傾向	・バス利用が少ない ・交通空白地域の大半は企業用地 ・公共交通への満足度が少し低い ・目的地までのバスへの不満が多い ・買い物は区内・分倍河原駅が中心 ・マイカー利用が少し低い	・路線バスがない ・ちゅうバス利用が多い ・交通空白地域の大半は郷土の森公園など非居住区 ・公共交通への満足度が低い ・バス本数への不満が多い ・買い物は府中駅・東府中駅が中心 ・マイカー利用が少し低い	・バス利用が多い ・公共交通への満足度が少し低い ・バス本数への不満が多い ・買い物は地区内が中心 ・マイカー利用率が少し高い	・高齢化率が高い ・路線バスが少ない ・ちゅうバス利用が多い ・バス本数への不満が多い ・買い物は武蔵野台駅や調布市が中心 ・マイカー利用率が高い	・ちゅうバス利用が多い ・公共交通への満足度が少し低い ・バス本数への不満が多い ・買い物は中河原駅・四谷内が中心 ・マイカー・自転車利用が高い	・バス利用が少ない ・交通空白地域の一部は企業用地 ・公共交通への満足度が高い ・バス本数・目的地までのバスに不満が多い ・買い物は地区内・府中駅が中心 ・マイカー利用が少し低い		

4. 府中市の地域公共交通の

問題点と課題



4 - 1 府中市の地域公共交通の問題点と課題

本市の地域公共交通の現状、コミュニティバス事業の評価・検証、市民の移動実態等を踏まえ、本市の地域公共交通に関する問題点と解決すべき課題を、次のとおり整理しました。

なお、問題点と課題については、公共交通の特性に鑑み、市中心部、地区内、地区間・市内外への移動と公共交通の利用環境の4つの視点に分類し、整理しています。

(1) 市中心部への移動に関する問題点と課題

課題1 鉄道・路線バス・ちゅうバスの重複解消に向けた役割分担が必要

課題2 移動ニーズに合わせたちゅうバスの見直しが必要

課題3 中心市街地内の回遊性を高めるための検討が必要

(2) 地区内の移動に関する問題点と課題

課題1 日常生活圏内の公共交通の利便性が低い地域が存在

課題2 交通弱者の日常生活を支える交通サービスが必要

課題3 市縁辺部を中心に公共交通空白地域・不便地域が点在

(3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題

課題1 最寄り駅まで公共交通で便利に移動しにくい地域が存在

課題2 市縁辺部において、隣接市の商業施設までの交通サービスが不十分

課題3 広範囲から利用が見込まれる施設が市中心部以外にも立地

(4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題

課題1 鉄道駅のバリアフリーやバスの待合環境などの改善が必要

課題2 利便性向上に向けた情報集約やデジタル技術活用の検討が必要

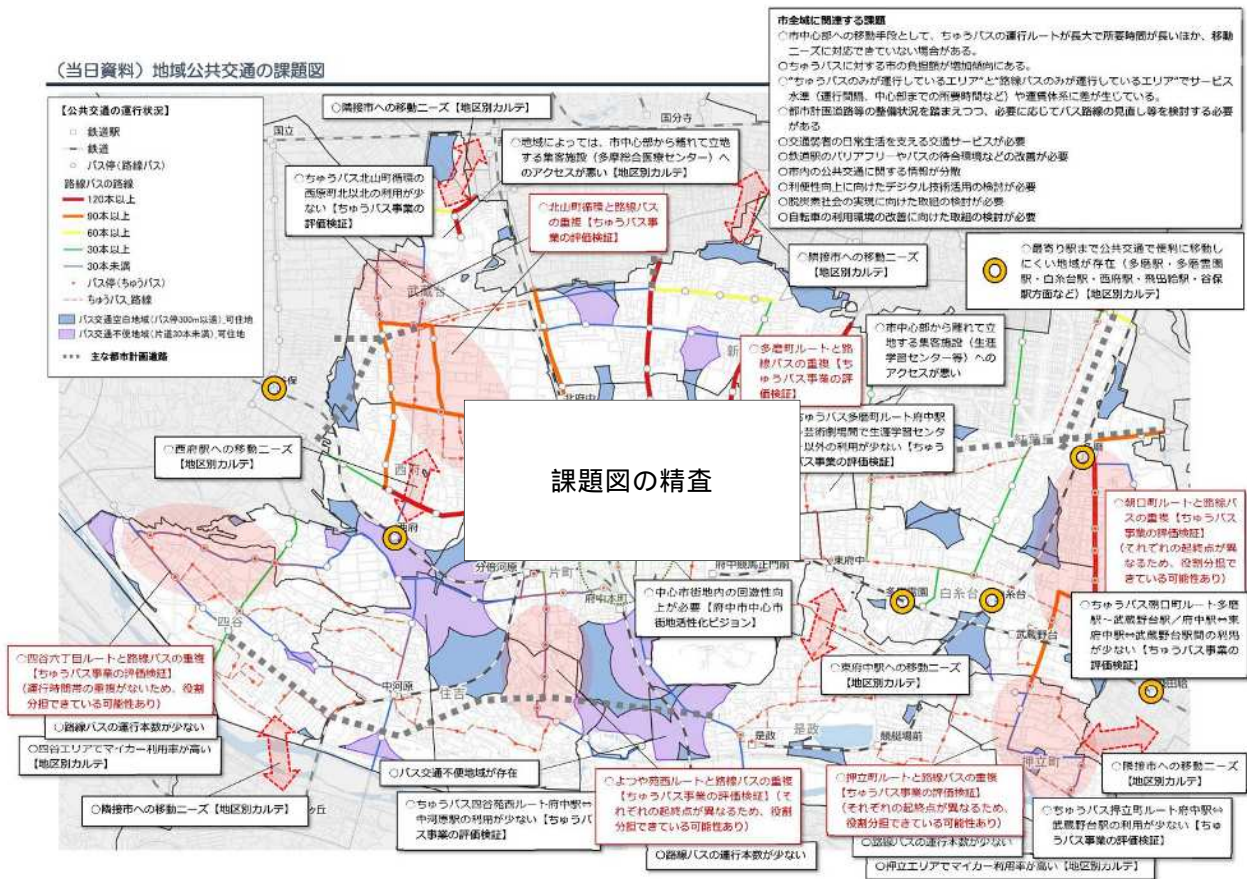
課題3 脱炭素社会の実現に向けた取組の検討が必要

課題4 自転車の利用環境の改善に向けた取組の検討が必要

< 移動態様の区分 >

区分	市中心部への移動	地区間の移動	地区内の移動
説明	市内外 市の中心部	市内のある地区 市内の別の地区	地区内のある場所 地区内の別の場所
例	新町文化センター圏域 府中駅・府中本町駅周辺	武蔵台文化センター圏域 西府文化センター圏域	府中市役所 中央文化センター

＜ 府中市地域公共交通の課題図 ＞



(1) 市中心部への移動に関する問題点と課題

課題1 鉄道・路線バス・ちゅうバスの重複解消に向けた役割分担が必要

(問題点)

市内には多くの交通サービスが展開されている一方で、一部、鉄道・路線バスとちゅうバスの運行区間が重複している箇所が見られます。(頁参照)

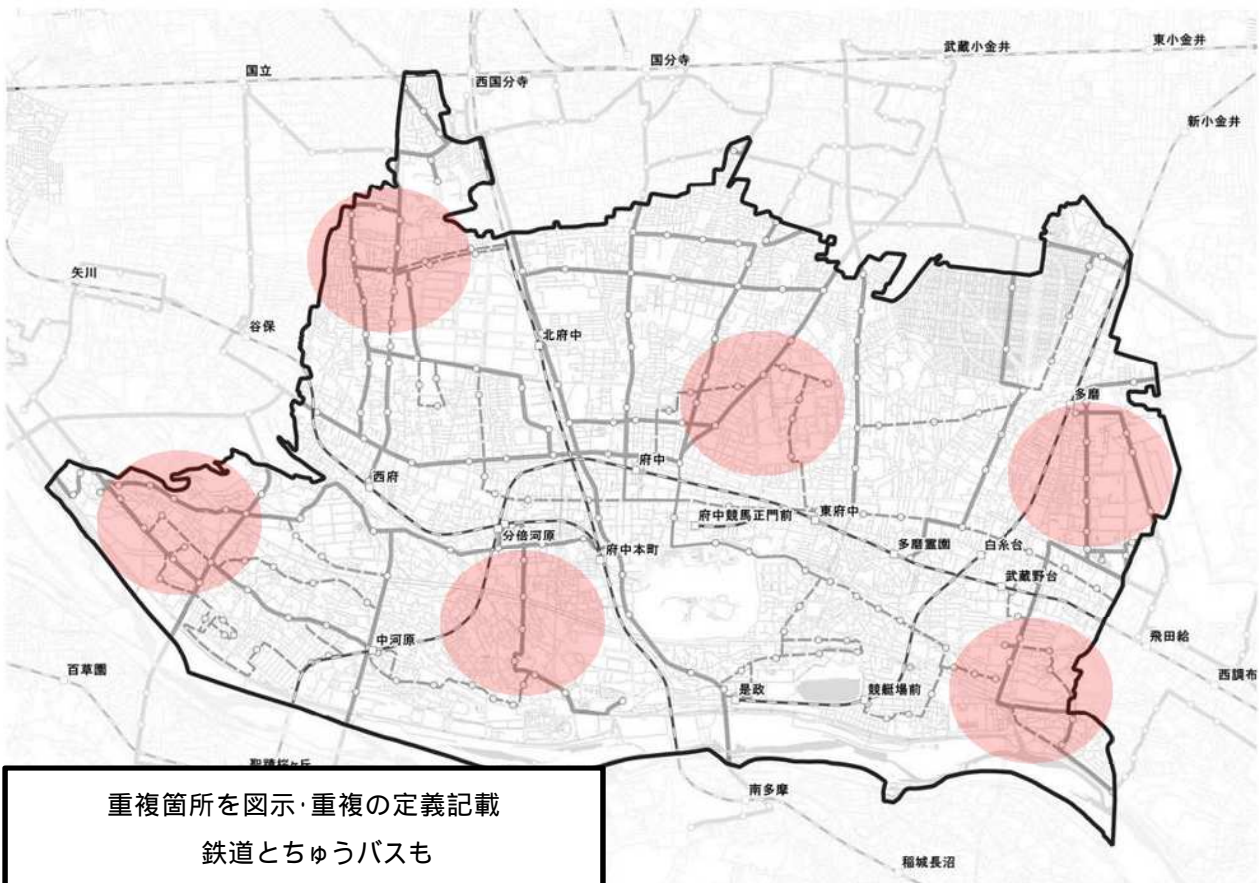
また、路線バスとちゅうバスの運賃体系が異なるため、路線バス利用者をちゅうバスが奪ってしまうなど、交通ネットワークとしての持続性に課題がある運行となっています。(頁参照)

さらに、ちゅうバスのみ運行しているエリアと路線バスのみ運行しているエリアを比較すると、サービス水準(運行間隔、中心部までの所要時間など)や運賃体系に差が生じています。(頁参照)

(課題)

路線バスとちゅうバスという区別ではなく、市内各所から中心部への公共交通サービスとしてのサービス水準や運賃の設定の検討が必要です。

一部の区間ではちゅうバスと路線バスが同区間を走行している状況もあります



課題2 移動ニーズに合わせたちゅうバスの見直しが必要

(問題点)

府中駅周辺には多様な都市機能が集積しており、府中駅にアクセスすることで様々な用事を済ませることができる都市構造となっています。(頁参照)

一方で、ちゅうバスにおいては、住宅地を細やかに運行していることから遠回りが生じ、中心部への速達性が低下しているルートもみられます。(頁参照)

また、ちゅうバスは、府中駅発着を基本としていますが、府中駅周辺を日常的に利用していない地域もあります。(頁参照)

さらに、ちゅうバスに対する市の負担額は、増加傾向にあり、人件費・燃料代の高騰などにより今後も運行費用が高まることが予想されます。(頁参照)

(課題)

ちゅうバスが、一部移動ニーズとの乖離が生じていることから、府中駅発着の必要性を検証するほか、鉄道や路線バスとの役割分担を行い、ちゅうバス運行の効率化が必要です。

ちゅうバスに対する市の負担額が増加しています

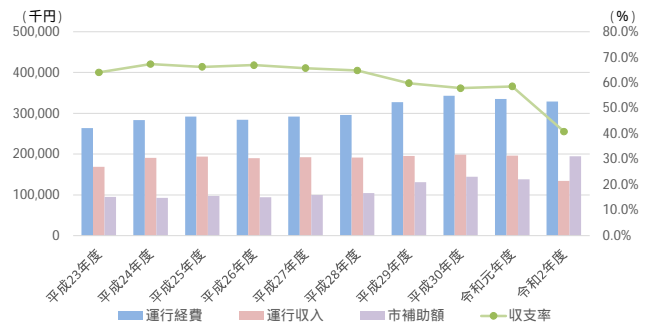
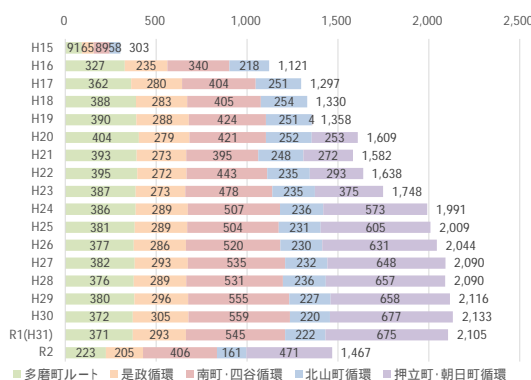
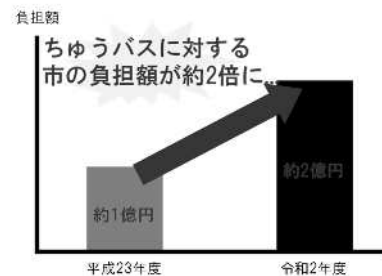


図 収支状況の推移

課題3 中心市街地内の回遊性を高めるための検討が必要

(問題点)

府中市では、市全体の活力の向上を図るとともに、その核として魅力とにぎわいを創出する府中市の「顔」にふさわしい中心市街地を形成するため、「府中市中心市街地活性化ビジョン」を策定しています。(頁参照)

(課題)

中心市街地活性化に向けた課題として、「回遊性の創出」があげられていることから、中心市街地内の移動の利便性向上に向けた取組の検討が求められます。



府中市中心市街地
活性化ビジョン

中心市街地の活性化に向けて
「回遊性の向上」が必要!

(2) 地区内の移動に関する問題点と課題

課題1 日常生活圏内の公共交通の利便性が低い地域が存在

(問題点)

日用品の買物や通院等については、日常生活圏域内での移動が多く見られ、鉄道駅周辺が生活の中心となっている実態があります。

(頁参照)

一方で、日常生活圏域内の買物先・通院先までの公共交通の利便性が低い地域が存在しています。(頁参照)

また、市民の移動手段は「徒歩」「自転車」が大半を占めていますが、今後、高齢化が進行するとこれらの移動手段が使えない方の増加が懸念されます(頁参照)。

(課題)

各地区内において、スーパーや医療施設までの移動を支える交通サービスの検討が必要です。

高齢化が進むと駅までの

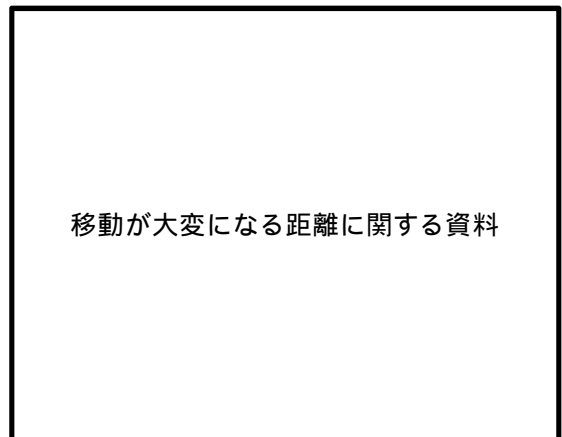
交通サービスの検討が必要になります



表:バス利用者のバス停までの距離(75歳以上のみ)

距離	回答件数
後期高齢者の回答内容 反映予定	

データ:市民アンケート調査



課題2 交通弱者の日常生活を支える交通サービスが必要

(問題点)

市民の大半は、日常生活で徒歩や自転車による移動をしており、自由に移動することができていますが、交通弱者(高齢者、障害のある方等)は、近所のスーパーへの移動が困難等の状況があります。(頁参照)

(課題)

交通弱者の買い物や通院を支える交通サービスの検討が必要です。

高齢者や子育て世代・障害者の方にとっては、近所の移動も難しい状況もみられます。



課題3 市縁辺部を中心に公共交通空白地域・不便地域が点在

(問題点)

市縁辺部において、公共交通空白地域・不便地域が点在しており、買い物などで自家用車の利用割合が高い傾向にあります。(頁参照)

(課題)

公共交通空白地域・不便地域の移動ニーズを見極めた上で、交通サービス提供の検討が必要です。

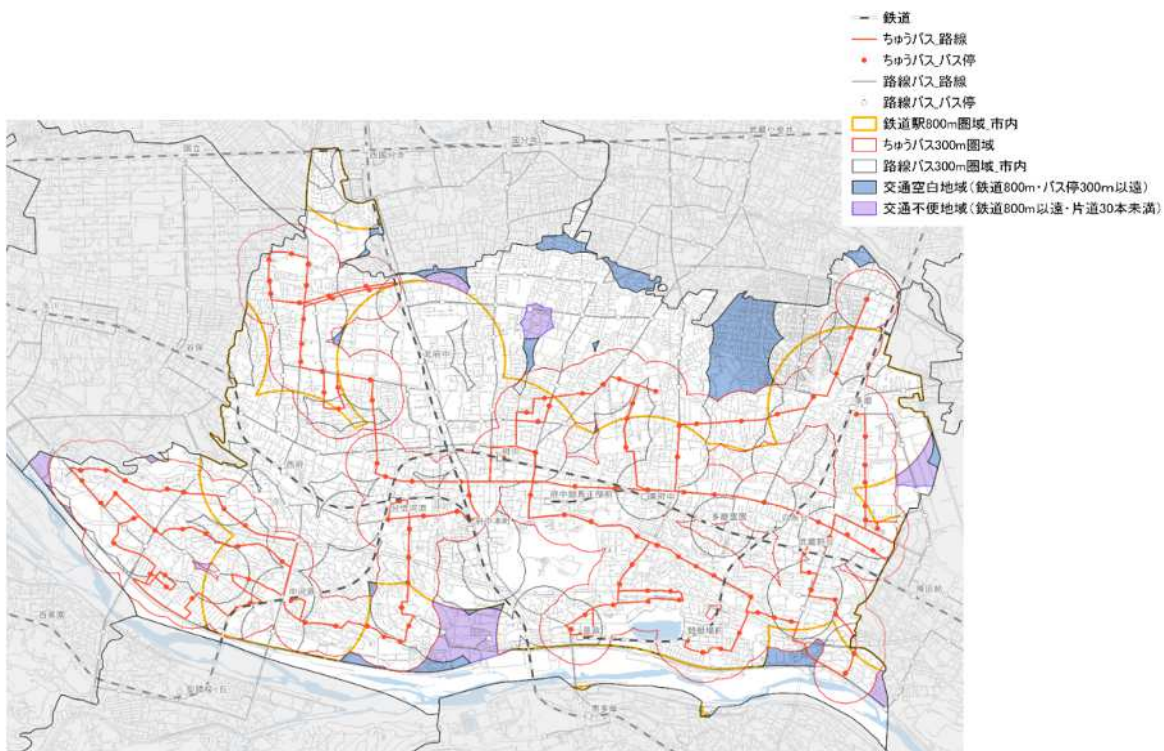


図: 公共交通空白地域・不便地域

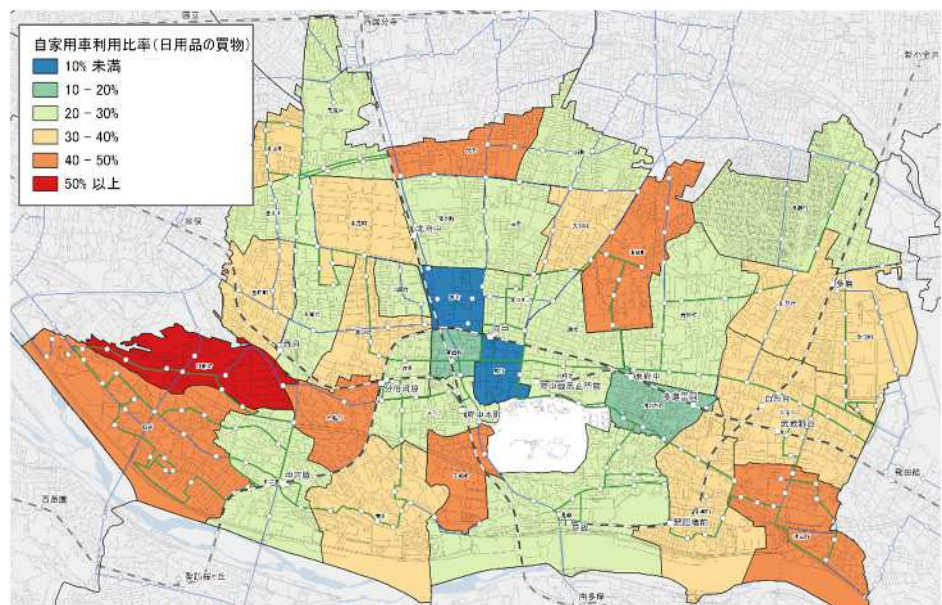


図: 自家用車利用率(日用品の買物)

(3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題

課題1 鉄道駅まで公共交通で便利に移動しにくい地域が存在

(問題点)

市外への移動手段は、鉄道利用が主となっていますが、自宅から最寄り駅まで、路線バスやちゅうバスがアクセスしていない、運行本数が少ない地区も見られます(頁参照)。

(課題)

鉄道駅への移動の利便性を検討する必要があります。



図: 鉄道駅へ公共交通で移動しにくいエリア(例)

課題2 市縁辺部において、隣接市の商業施設までの交通サービスが不十分

(問題点)

市の縁辺部では、買い物のため隣接市へ移動している動きも見られますが、隣接市まで移動するための交通サービスが不十分である地域が存在しています。(頁参照)

また、隣接市で策定を予定している地域公共交通計画と調整しながら、府中市と隣接市間の公共交通の利便性向上を検討する必要があります。(頁参照)

(課題)

府中市周辺を運行している他市のコミュニティバスなどで、市域を越えた交通サービスの検討や協議を行う必要があります。

一部エリアでは、市外への買物移動に対応する公共交通サービスが不足しています



課題3 広範囲から利用が見込まれる施設が市中心部以外にも立地

(問題点)

市内には、市内外含めて広範囲からの利用が見込まれる施設(多摩総合医療センター、生涯学習センターなど)が市中心部以外にも点在しており、市内各所からそれら施設への移動ニーズが一定程度見られます。(頁参照)

一方、多摩総合医療センターと府中駅間は、高頻度で路線バスが運行していますが、その他の地区からは、需要が分散するため、アクセス性が高くない状況です。(頁参照)

(課題)

市中心部以外の主要な拠点に対するアクセス性の向上と需要に応じた交通サービスの検討が必要です。



図 東京都立多摩総合医療センター

表: ちゅうバス多磨町ルートの利用区間(ちゅうバス利用者アンケート)

	降車バス停																						合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	府中駅	中央文化センター	幸町二丁目	ルミエール府中	府中三郵便局	富士見通り東	天神町二丁目	府中市美術館	生涯学習センター	府中の森公園	市民聖苑前	芸術劇場	東府中駅	府中工業高校	人見街道入口	浅間山公園入口	若松防災センター	紅葉丘文化センター	多磨霊園表門	霊園東通り南	多磨霊園表門	多磨霊園表門	
1 府中駅			1	5			5	5	36	3		2	2	3	3	5	12	13	8	5	6	4	118
2 中央文化センター														1		1		1	2				5
3 幸町二丁目																							
4 ルミエール府中																							
5 府中三郵便局		2																					
6 富士見通り東		5																					7
7 天神町二丁目		2																	1				4
8 府中市美術館		2																					2
9 生涯学習センター		37																					37
10 府中の森公園		2																					2
11 市民聖苑前																							0
12 芸術劇場		2											1										3
13 東府中駅		3	1	1		2		1				1			3	1	8	1	3		1	2	28
14 府中工業高校		1																1				1	3
15 人見街道入口		2											3										6

府中駅で乗車した 118 人のうち、
36 人(約 3 割)が生涯学習センターで降車している。

(4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題

課題1 鉄道駅のバリアフリー化やバスの待合環境などの改善が必要

(問題点)

令和4年度末時点でホームドアが整備された鉄道駅は、1駅2線のみであることや、公共交通におけるバリアフリー化の必要性が高まっている状況があります。また、住宅地等のバス停においては、利用者が快適に待てる環境が不足しています。(頁参照)

(課題)

公共交通利用者のさらなる安全で安心な利用環境の整備を推進することが求められます。



課題2 利便性向上に向けた情報集約やデジタル技術活用の検討が必要

(問題点)

市内の公共交通の時刻表や運行ルート等は、各事業者のホームページ等で見ることができますが、市の公共交通として捉えた際には、情報が分散しています。

また、労働人口の減少などを踏まえ、公共交通分野においてもDX(デジタルトランスフォーメーション)が進み、それらを活用し、公共交通の利便性を高める取組が進められています。

(課題)

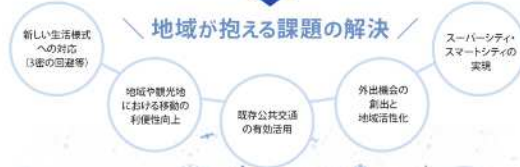
オープンデータ化を推進し、MaaS(マース)や自動運転など新たな技術を活用した方策を調査研究しながら、公共交通の利便性の改善を図る必要があります。

< MaaS(マース) >

地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスです。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。



地域が抱える課題の解決



課題3 脱炭素社会の実現に向けた取組の検討が必要

(問題点)

府中市は、令和3年11月にゼロカーボンシティを表明し、脱炭素社会の実現に向けて具体的な取組の検討を行っています。

一方で、市の縁辺部では自家用車の利用率が高くなっています。(頁)

さらに、電気自動車などの次世代環境配慮車が普及し始めていますが、インフラ整備等の問題が生じています。

(課題)

鉄道やバスなどの公共交通は、一度に多くの人を輸送できるとともに、比較的 CO2 排出が少ない交通手段です。

段階的に自家用車から公共交通利用へ転換を図るとともに、交通事業者による次世代環境対応車導入などの検討が必要です。

課題4 自転車の利用環境の改善に向けた取組の検討が必要

(問題点)

市民の約半数が日用品の買い物において「自転車」を利用しています。

一方で、市民アンケート調査では、回答者の約2割が「自転車の走行環境が悪い」と回答しているほか、都内で発生した交通事故で自転車が関与している割合が年々増加しています。(頁)

(課題)

自転車の安全な利用環境の実現に向けた検討が必要であるほか、自転車の交通ルール、マナーに関する啓発が必要です。

< 次世代環境対応車などの記事 >

5. 基本的な方針

1. 序章 1-1 地域公共交通計画の意義 / 1-2 府中市地域公共交通計画の概要 1-3 府中市地域公共交通計画の全体像
2. 上位計画と国・東京都の方針 2-1 府中市の上位計画における都市像 2-2 国や東京都の地域公共交通に関する方針
3. 府中市の地域公共交通の現状 3-1 府中市の概況 / 3-2 地域公共交通の現状 / 3-3 コミュニティバス事業の評価・検証 / 3-4 市民の移動実態
4. 府中市の地域公共交通の問題点と課題 4-1 府中市の地域公共交通の問題点と課題 (1) 市中心部への移動に関する問題点と課題 (2) 地区内の移動に関する問題点と課題 (3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題 (4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題
5. 基本的な方針 5-1 基本的な方針の意義 5-2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針 ① 誰もが自由に移動ができる ・交通弱者の移動が確保された公共交通 ・若者や子育て世代も移動しやすい公共交通 ・来訪者も円滑に移動できる公共交通 ② まちづくりと連携した ・福祉や観光などの他分野と連携した公共交通 ・まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通 ・デジタル技術の発展と連携した公共交通 ③ 持続可能な地域公共交通 ・財政負担が適正化された公共交通 ・市民、事業者等と協働でつくる公共交通 ・脱炭素社会の実現に寄与する公共交通
6. 目標・評価指標 6-1 計画目標 1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する 2 日常生活圏内における生活・移動をより便利にする 3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する 4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする 5 誰もが安心・快適に移動できるようにする 6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする 6-2 計画目標ごとの評価指標
7. 施策・事業 7-1 施策展開の基本的な考え方 / 7-2 施策一覧 7-3 目標ごとの施策の組み合わせ / 7-4 施策展開図 / 7-5 事業一覧 7-6 事業内容
8. 推進体制・評価方法 8-1 計画の推進体制 / 8-2 PDCAサイクルによる評価・検証 8-3 評価指標・数値目標

5 - 1 基本的な方針の意義

基本的な方針とは、法律上「地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針」とされており、計画が目指すべき将来像と、その中で公共交通が目指すべき役割を明確化し、取組の方向性を定めるもので、上位計画や関連計画で掲げている目標との整合や、地域の問題点や課題を踏まえて設定することとされています。

5 - 2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針

「市が目指す将来都市像及びまちづくりの方向性」や「府中市の地域公共交通の課題」を踏まえて、本市の地域公共交通計画の基本的な方針を次のとおり定めます。

地域公共交通計画の基本的な方針

＝府中市の地域公共交通のあるべき姿

誰もが自由に移動ができる



- 交通弱者の移動が確保された公共交通
- 若者や子育て世代も移動しやすい公共交通
- 来訪者も円滑に移動できる公共交通

まちづくりと連携した



- 福祉や観光などの他分野と連携した公共交通
- まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通
- デジタル技術の発展と連携した公共交通

持続可能な地域公共交通



- 財政負担が適正化された公共交通
- 市民、事業者等と協働でつくる公共交通
- 脱炭素社会の実現に寄与する公共交通

交通弱者

子育て世代

来訪者

福祉観光

まち拠点

デジタル

財政負担

協働

脱炭素

5 - 3 府中市地域公共交通のあるべき姿イメージ(仮)



6. 目標・評価指標

<p>1. 序章</p> <p>1-1 地域公共交通計画の意義 / 1-2 府中市地域公共交通計画の概要 1-3 府中市地域公共交通計画の全体像</p>	
<p>2. 上位計画と国・東京都の方針</p> <p>2-1 府中市の上位計画における都市像 2-2 国や東京都の地域公共交通に関する方針</p>	
<p>3. 府中市の地域公共交通の現状</p> <p>3-1 府中市の概況 / 3-2 地域公共交通の現状 / 3-3 コミュニティバス事業の評価・検証 / 3-4 市民の移動実態</p>	
<p>4. 府中市の地域公共交通の問題点と課題</p> <p>4-1 府中市の地域公共交通の問題点と課題 (1) 市中心部への移動に関する問題点と課題 (2) 地区内の移動に関する問題点と課題 (3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題 (4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題</p>	
<p>5. 基本的な方針</p> <p>5-1 基本的な方針の意義 5-2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針</p> <p>① 誰もが自由に移動ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通弱者の移動が確保された公共交通 若者や子育て世代も移動しやすい公共交通 来訪者も円滑に移動できる公共交通 <p>② まちづくりと連携した</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉や観光などの他分野と連携した公共交通 まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通 デジタル技術の発展と連携した公共交通 <p>③ 持続可能な地域公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政負担が適正化された公共交通 市民、事業者等と協働でつくる公共交通 脱炭素社会の実現に寄与する公共交通 	<p>6. 目標・評価指標</p> <p>6-1 計画目標</p> <p>1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する</p> <p>2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする</p> <p>3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する</p> <p>4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする</p> <p>5 誰もが安心・快適に移動できるようにする</p> <p>6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする</p> <p>6-2 計画目標ごとの評価指標</p>
<p>7. 施策・事業</p> <p>7-1 施策展開の基本的な考え方 / 7-2 施策一覧 7-3 目標ごとの施策の組み合わせ / 7-4 施策展開図 / 7-5 事業一覧 7-6 事業内容</p>	
<p>8. 推進体制・評価方法</p> <p>8-1 計画の推進体制 / 8-2 PDCAサイクルによる評価・検証 8-3 評価指標・数値目標</p>	

6 - 1 計画目標

本市の地域公共交通のあるべき姿である基本的な方針の実現を目指し、公共交通に関する課題を解決するための計画の目標を次のとおり定めます。また、各目標の細目を、行動目標として設定します。

< 目標一覧 >

目標1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する

- 行動目標 鉄道、路線バス、コミュニティバス等の連携、役割分担により中心部への移動を確保する
- 行動目標 中心部での移動のしやすさ、回遊性の向上を図る

目標2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする

- 行動目標 地区内の交流や経済活動の促進及び移動手段の充実を図る
- 行動目標 公共交通が不便なエリアにおける最適な移動手段を検討する

目標3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する

- 行動目標 交通結節点での各モード間の連携・接続を図る
- 行動目標 隣接市との連携による市外への買い物等の利便性向上を図る
- 行動目標 市内の主要拠点へのアクセス性向上を図る

目標4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする

- 行動目標 あらゆる市民への最適な交通サービスを提供する
- 行動目標 まちづくりや福祉分野との連携を図る

目標5 誰もが安心・快適に移動できるようにする

- 行動目標 公共交通におけるバリアフリー化を推進する
- 行動目標 安全・安心で分かりやすく快適な交通環境を提供する
- 行動目標 デジタル技術の活用により、公共交通サービスの利便性の向上を図る

目標6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする

- 行動目標 財政負担とサービス充実の両立を図る
- 行動目標 厳しい経営状況に置かれている地域公共交通の中長期的なサービス維持を図る
- 行動目標 脱炭素社会の実現に寄与する公共交通サービスの展開、市民の意識啓発を図る

< 計画目標体系 >

上位・関連計画

- ・第7次府中市総合計画
- ・府中市都市計画に関する基本的な方針 など

基本的な方針

誰もが自由に移動ができる
まちづくりと連携した
持続可能な地域公共交通

公共交通の問題・課題

市中心部への移動

- 鉄道・路線バス・ちゅうバスの重複解消に向けた役割分担が必要
- 移動ニーズに合わせたちゅうバスの見直しが必要
- 中心市街地内の回遊性を高めるための検討が必要

地区内の移動

- 日常生活圏内の公共交通の利便性が低い地域が存在
- 交通弱者の日常生活を支える交通サービスが必要
- 市縁辺部を中心に公共交通空白地域・不便地域が点在

地区間・市内外の移動

- 最寄り駅まで公共交通で便利に移動しにくい地域が存在
- 市縁辺部において、隣接市の商業施設までの交通サービスが不十分
- 広範囲から利用が見込まれる施設が市中心部以外にも立地

公共交通の利用環境

- 鉄道駅のバリアフリー化やバスの待合環境などの改善が必要
- 利便性向上に向けた情報集約やデジタル技術活用を検討が必要
- 脱炭素社会の実現に向けた取組の検討が必要
- 自転車の利用環境の改善に向けた取組の検討が必要

計画目標

- 1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する**
 - 行動目標 : 鉄道・路線バス・コミュニティバス等の連携・役割分担により市中心部への移動を確保する。
 - 行動目標 : 中心部での移動しやすさ、回遊性の向上を図る。
- 2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする**
 - 行動目標 : 日常生活を支える圏域内の移動手段の充実に向け、身近な生活の利便性の向上、地区内の交流・経済活動の促進を図る。
 - 行動目標 : 公共交通空白・不便エリアにおける最適な移動手段を検討する。
- 3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する**
 - 行動目標 : 鉄道駅を中心とした鉄道・バス等の交通ネットワークと交通結節点での各モード間の連携・接続を図る。
 - 行動目標 : 隣接市との連携による市外への買い物等の利便性向上を図る。
 - 行動目標 : 市内の主要拠点へのアクセス性向上を図る。
- 4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする**
 - 行動目標 : あらゆる市民へ最適な交通サービスを提供する。
 - 行動目標 : まちづくりや福祉分野との連携を図る。
- 5 誰もが安心・快適に移動できるようにする**
 - 行動目標 : 鉄道駅におけるホームドア整備などバリアフリー化を推進する。
 - 行動目標 : 安全・安心で分かりやすく快適な待合環境を提供する。
 - 行動目標 : デジタル技術の活用により、公共交通サービスの利便性の向上を図る。
- 6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする**
 - 行動目標 : 財政負担とサービス充実の両立を図る。
 - 行動目標 : 厳しい経営状況(コロナ、乗務員不足含む)に置かれている地域公共交通の中長期的なサービス維持を図る。
 - 行動目標 : 脱炭素社会の実現に寄与する公共交通サービスの展開、市民の意識啓発を図る。

6 - 2 計画目標ごとの評価指標

計画目標の達成状況を評価するための評価指標、数値目標及び目標達成のための方向性は次のとおりです。なお、数値目標の算出方法、目標値の設定の考え方は、 ページに記載しています。

目標1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する

行動目標①

鉄道・路線バス・コミュニティバス等の連携・役割分担により 中心部への移動を確保する



- ・鉄道・路線バス・ちゅうバスの重複解消に向けた役割分担が必要
- ・移動ニーズに合わせたちゅうバスの見直しが必要

目標達成後

＜基本的な方針＞
誰もが自由に移動ができるまちづくりと連携した持続可能な公共交通

交通弱者の移動が確保された公共交通
若者や子育て世代も移動しやすい公共交通
来訪者も円滑に移動できる公共交通
福祉や観光などの他分野と連携した公共交通
まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通
デジタル技術の発展と連携した公共交通
財政負担が適正化された公共交通
市民、事業者等と協働でつくる公共交通
脱炭素社会の実現に寄与する公共交通

評価指標

市中心部に接続する公共交通（鉄道・路線バス・コミュニティバス） の利用者数

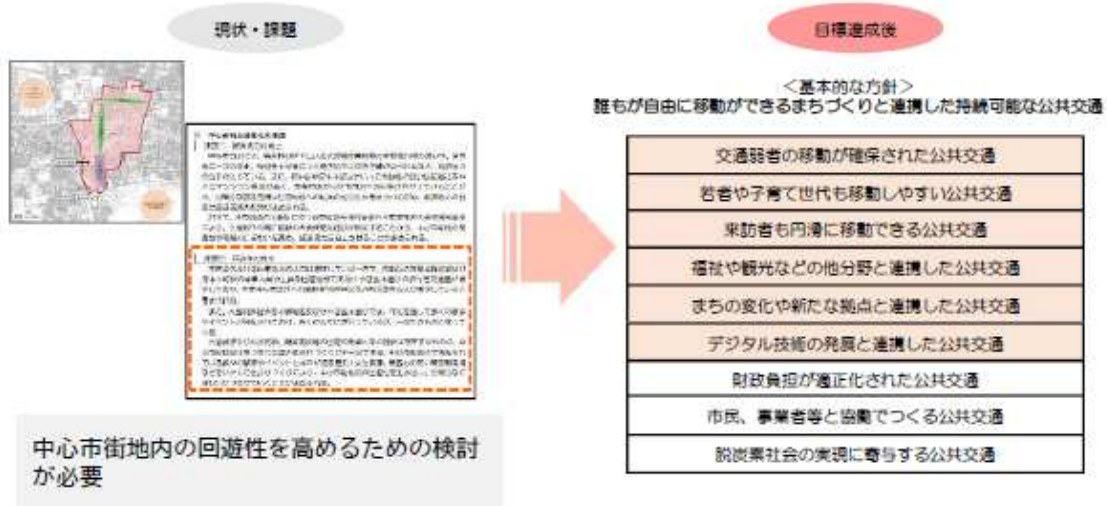


目標達成の方向性

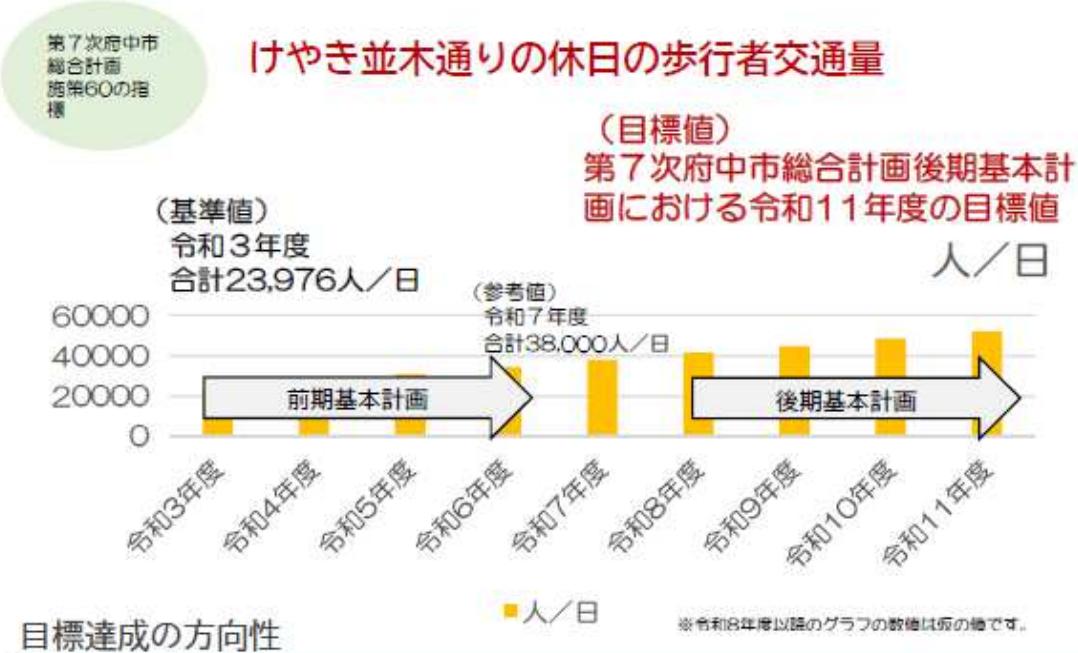
鉄道、路線バス、ちゅうバスの重複解消等によるネットワークの効率化とこれらの交通モードの接続性の向上により、効果的に市の中心部への移動を確保します。

行動目標②

中心部での移動のしやすさ、回遊性の向上を図る



評価指標



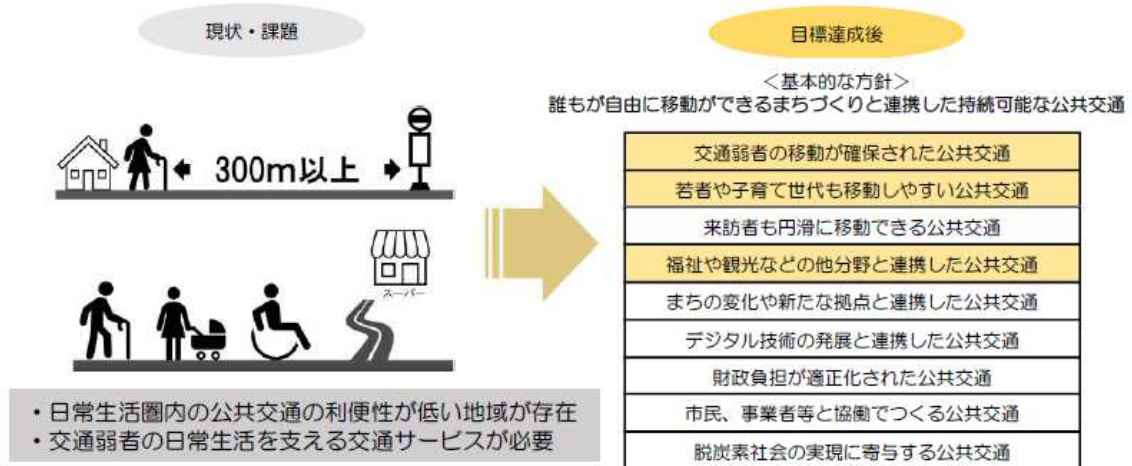
目標達成の方向性

バリアフリー環境の整備や需要に応じた移手段の検討により、誰もが市の中心部まで移動しやすい公共交通を目指すほか、府中駅などにおいて、デジタル技術を活用した交通案内、小型モビリティの整備促進やウォークラブルなまちづくりとの連携により回遊性の向上を図ります。

目標2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする

行動目標①

日常生活を支える圏域内の移動手段の充実に向け、身近な生活の利便性の向上、地区内の交流・経済活動の促進を図る



評価指標

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

65歳以上の週2回以上の外出回数

【調査方法】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問13 週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

- ・「週2～4回」(43.2%)が最も多く、次いで「週5回以上」(36.4%)、「週1回」(13.2%)、「ほとんど外出しない」(6.4%)となっている。
- ・「ほとんど外出しない」は、『65～69歳』(1.8%)、『90歳以上』(26.2%)と、年齢が高いほど割合が高く、特に85歳以上で高くなっている。また、主観的健康感が『あまりよくない』(12.3%)、『よくない』(28.1%)の割合が高くなっている。

(目標値)
令和10年度
週2回以上外出 80%

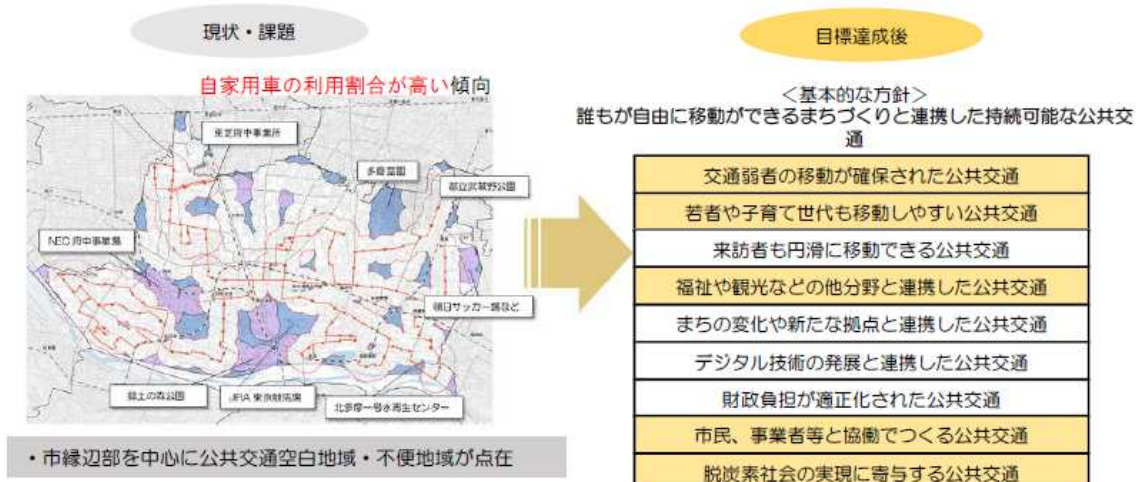


目標達成の方向性

バスネットワークの再編のほか、隣接市との連携、多様な輸送手段の活用、市民等との協働により、日常生活圏域内での移動の利便性の向上等を図ります。

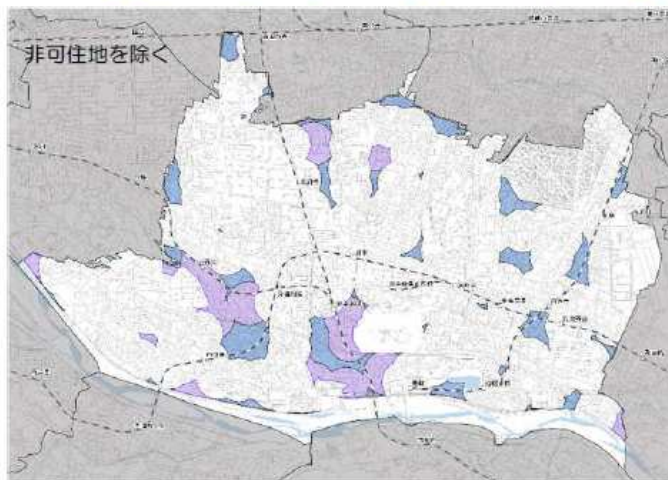
行動目標②

公共交通空白・不便エリアにおける最適な移動手段を検討する



評価指標

市全体に対するバス交通空白・不便地域の人口割合



(目標値)
令和11年度
人口割合 基準値以下



(基準値)
令和3年度
人口割合 14.6%

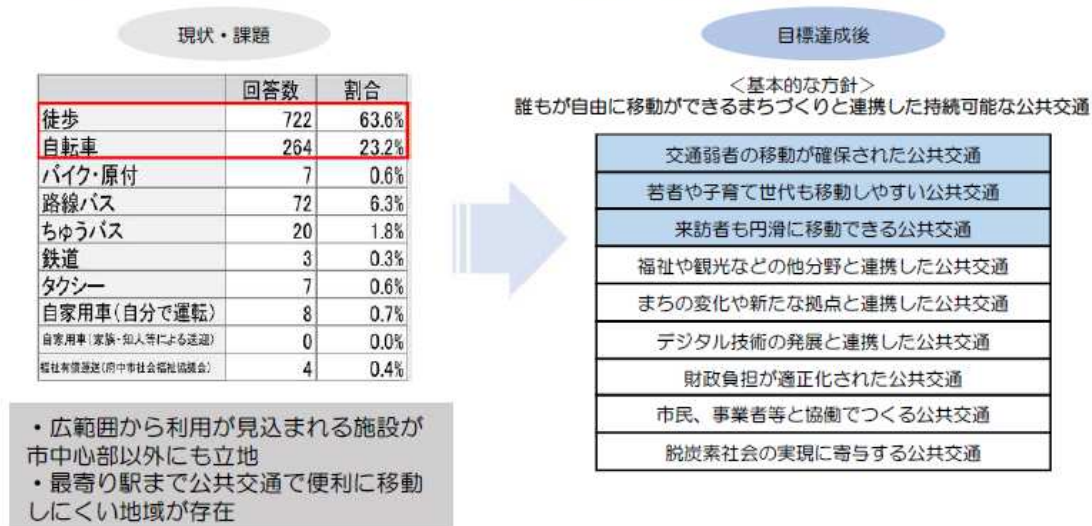
目標達成の方向性

バスネットワークの再編のほか、隣接市との連携、多様な輸送手段の活用、市民等との協働により、公共交通空白・不便エリアでの最適な移動手段を検討します。

目標3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する

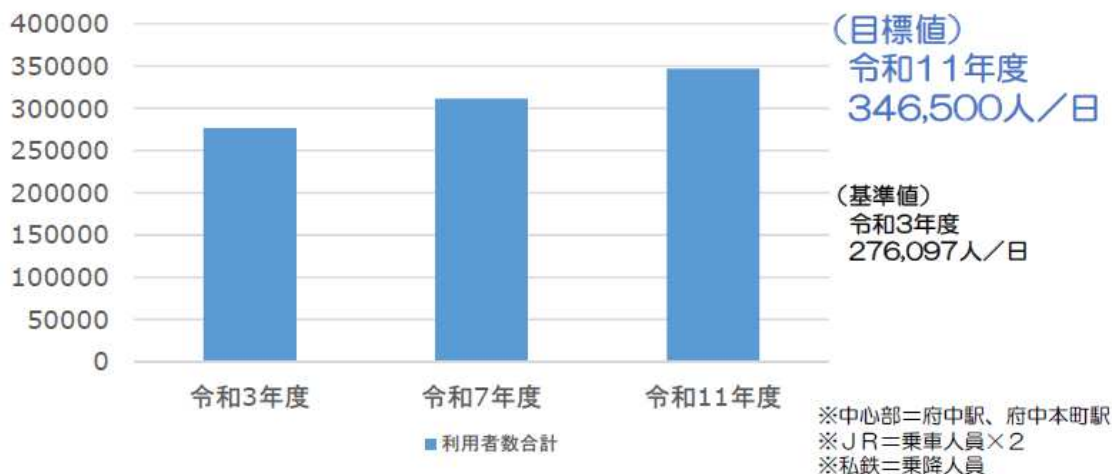
行動目標①

鉄道駅を中心とした鉄道・バス等の交通ネットワークと交通結節点での各モード間の連携・接続を図る



評価指標

中心部以外の各駅の鉄道利用者数

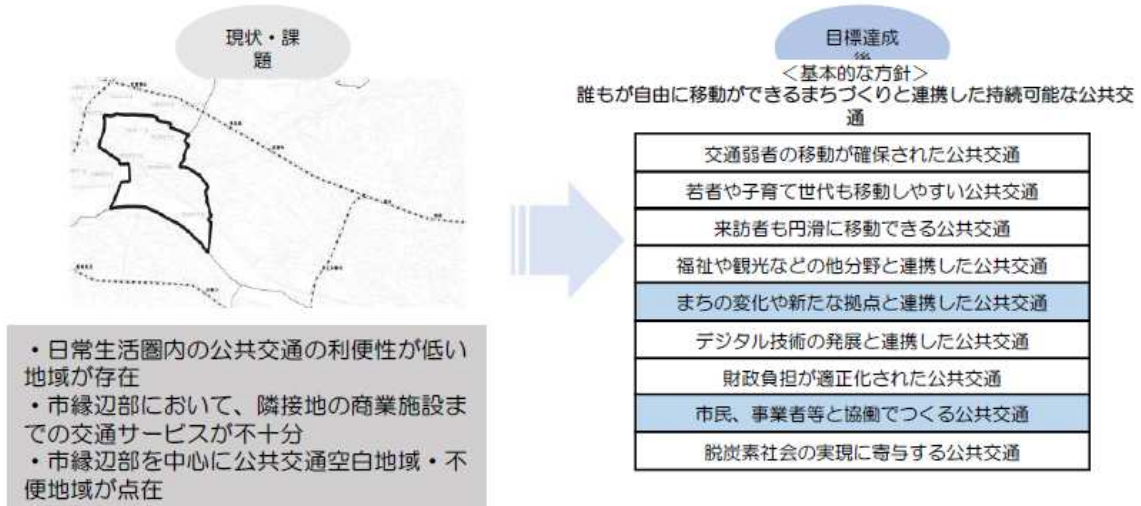


目標達成の方向性

駅、バス停での接続性を向上させるほか、モビリティハブ整備の検討を行い、交通モードの連携・接続の強化を図ります。

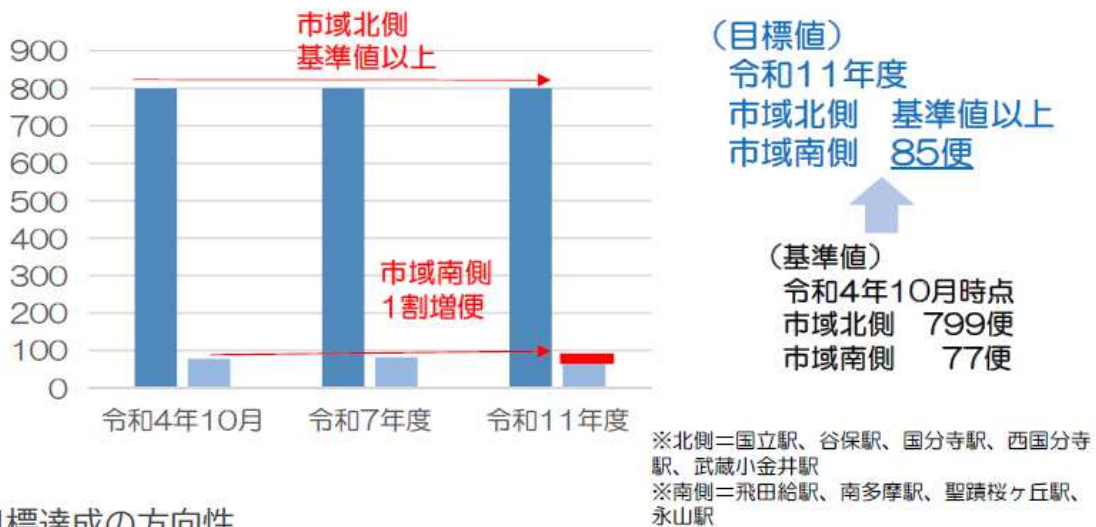
行動目標②

隣接市との連携による市外への買い物等の利便性向上を図る



評価指標

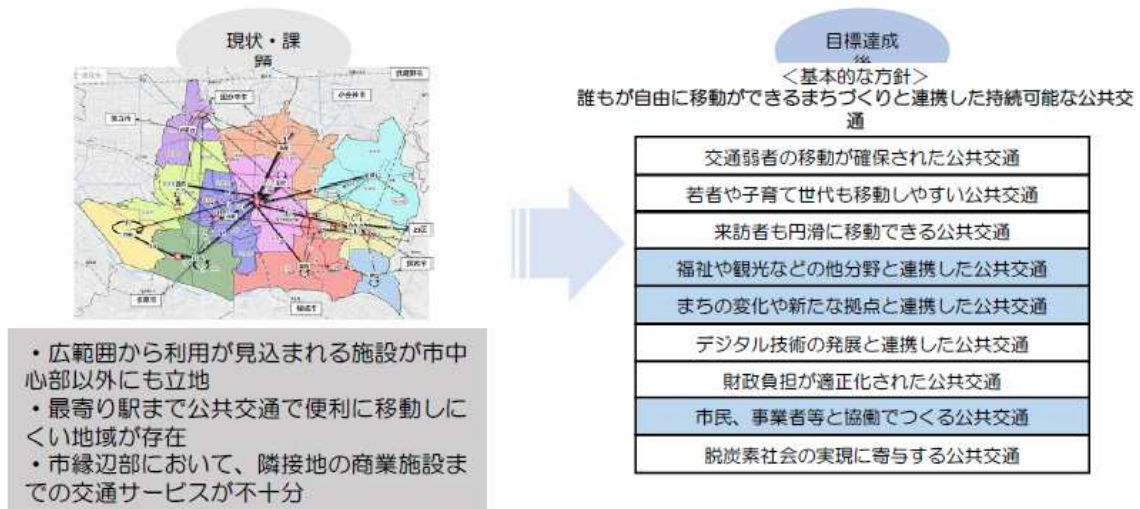
隣接市の鉄道駅への公共交通（路線バス・コミュニティバス・新たな移動手段）の接続便数



目標達成の方向性

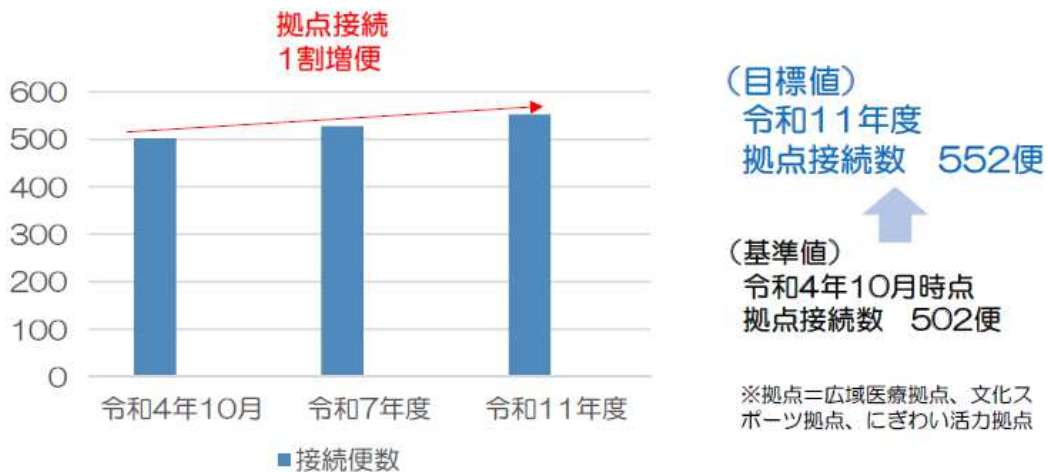
バスネットワークの再編を行い、隣接市への接続を検討するとともに、隣接市が日常生活圏域に当たる地域においては、多様な輸送手段や民間事業者との協働などを活用することで、市外への買い物等の利便性向上を図ります。

市内の主要拠点へのアクセス性向上を図る



評価指標

市内の主要拠点（駅を除く）への公共交通（路線バス・コミュニティバス・新たな移動手段）の接続便数



目標達成の方向性

バスネットワークの再編を行い、主要拠点への接続を効果的に確保するとともに、拠点周辺における多様な輸送手段の検討や民間事業者との協働を活用することで、主要拠点へのアクセス性向上を図ります。

目標4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする

行動目標①

あらゆる市民への最適な交通サービスを提供する



評価指標

第7次府中市総合計画 施策58の指標 公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合



(目標値)
令和11年度
後期基本計画の目標値



(基準値)
令和3年度
合計 66.6%

目標達成の方向性

Ma a S等の新たな技術の活用や誰もが快適に移動できる手段を検討するとともに、市民や事業者との協働や多様な輸送手段を活用することで、あらゆる市民へ最適な交通サービスを提供できるようにします。

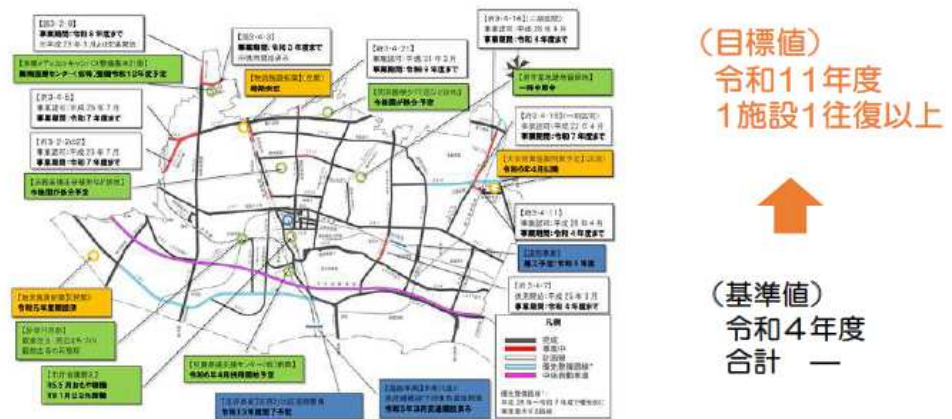
行動目標②

まちづくりや福祉分野との連携を図る



評価指標

新たに整備される施設等への公共交通（路線バス・コミュニティバス・新たな移動手段）の接続便数



目標達成の方向性

府中市都市計画マスタープランに位置付けられたまちづくりとの連携や移動等円滑化促進方針等のバリアフリー整備その他の福祉施策との連携を図ります。

目標5 誰もが安心・快適に移動できるようにする

行動目標①

鉄道駅におけるホームドア整備などバリアフリー化を推進する

現状・課題



・鉄道駅のバリアフリー化やバスの待合環境などの改善が必要

目標達成後

<基本的な方針>

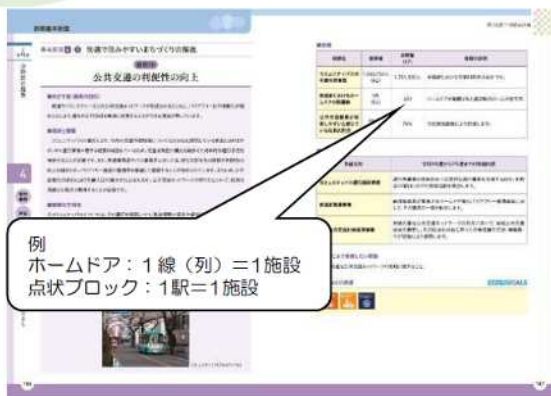
誰もが自由に移動ができるまちづくりと連携した持続可能な公共交通

交通弱者の移動が確保された公共交通
若者や子育て世代も移動しやすい公共交通
来訪者も円滑に移動できる公共交通
福祉や観光などの他分野と連携した公共交通
まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通
デジタル技術の発展と連携した公共交通
財政負担が適正化された公共交通
市民、事業者等と協働でつくる公共交通
脱炭素社会の実現に寄与する公共交通

評価指標

第7次府中市
総合計画
施策58の指標

鉄道駅におけるバリアフリー施設等の整備数



(目標値)
令和11年度 13施設



(基準値)
令和3年度 1施設

目標達成の方向性

鉄道、バスなどの車両や駅周辺等におけるバリアフリー化を進めるとともに、踏切道の安全性の向上など、公共交通を利用しやすい環境整備を促進し、安全な移動ができるようにします。

行動目標②

安全・安心で分かりやすく快適な交通環境を提供する



評価指標

バス待ち環境の改善に資する取組みの実施数



目標達成の方向性

バス、タクシーの待合環境の整備や自転車の安全利用を進めるとともに、スマートバス停などのデジタル技術を活用して公共交通を利用する環境がより安全・快適になる施策を実施します。

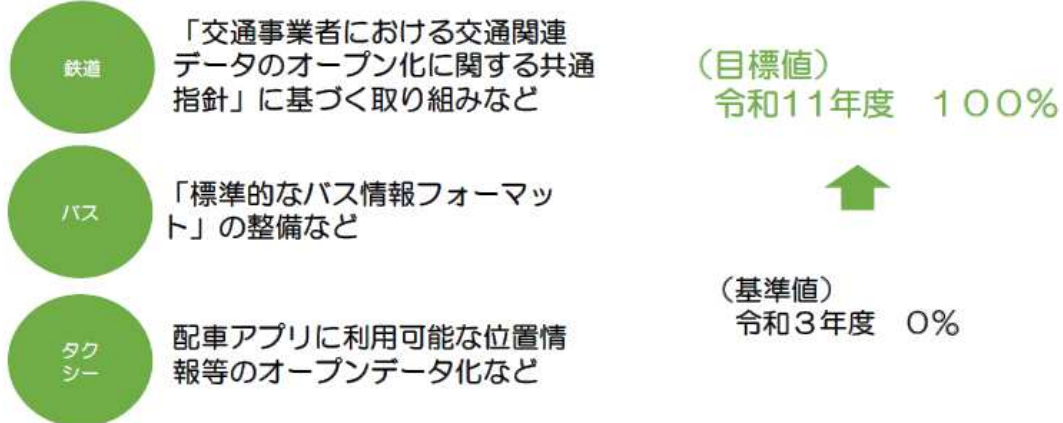
行動目標③

デジタル技術の活用により、公共交通サービスの利便性の向上を図る



評価指標

市内公共交通事業者のオープンデータ化取組者数



目標達成の方向性

各事業者のオープンデータ化や国や東京都の動向を踏まえた調査研究を進め、デジタル技術を活用した市内の公共交通の利便性向上に資する取り組みを促進します。

目標6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする

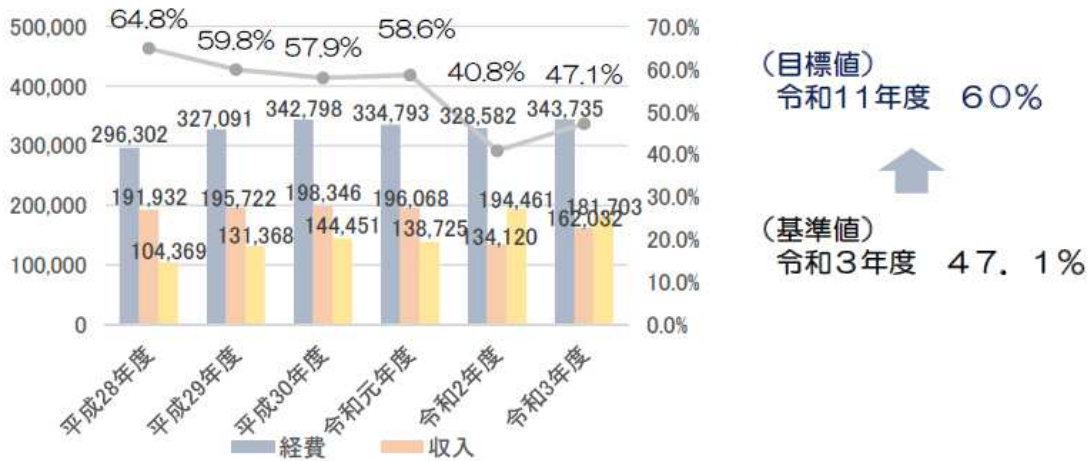
行動目標①

財政負担とサービス充実の両立を図る



評価指標

コミュニティバスの収支率



目標達成の方向性

市民ニーズを踏まえて、ちゅうバスの運行目的を見直し、**バスネットワークの再編**を行うとともに、必要に応じて、**市民協働による手法も含めて検討**することで、財政負担の低減とサービス充実の両立を図ります。

行動目標②

厳しい経営状況（コロナ、乗務員不足を含む）に置かれている
地域公共交通の中長期的なサービス維持を図る



評価指標

公共交通事業者への各種支援件数



例：バス乗務員募集広告への協力



例：タクシー燃料価格高騰への対応

(目標値)
令和11年度 基準値以上
(累積)

↑

(基準値)
令和3年度 1件

目標達成の方向性

市と公共交通関係者で継続的な情報共有を行うとともに、Ma a S や自動運転技術などのデジタル技術活用の調査研究を進め、市内でのサービス維持のための取組を進めます。

行動目標③

脱炭素社会の実現に寄与する公共交通サービスの展開、市民の意識啓発を図る

現状・課題

TOSHIBA SUNTORY NEC kewpie
TAT

府中市における2050年二酸化炭素削減率向上に向けた取組に関する協定書

株式会社東芝府中市支店、サンヨー株式会社府中市支店、株式会社NEC府中市支店、株式会社ケウピー府中市支店、株式会社TAT府中市支店、府中市が協定書に基づき、府中市における2050年二酸化炭素削減率向上に向けた取組に関する協定書の締結を目的として、協定を締結することとします。

1. 協定書に、協定書に基づき協定すること
2. 協定書に基づき協定書に基づき協定すること
3. 協定書の締結に向けた取組の進捗及び普及啓発に関すること
4. 協定書に基づき協定書に基づき協定すること
5. 協定書に基づき協定書に基づき協定すること
6. 協定書に基づき協定書に基づき協定すること
7. 協定書に基づき協定書に基づき協定すること
8. 協定書に基づき協定書に基づき協定すること

令和元年12月1日

・脱炭素社会の実現に向けた取組の検討が必要

目標達成後

<基本的な方針>

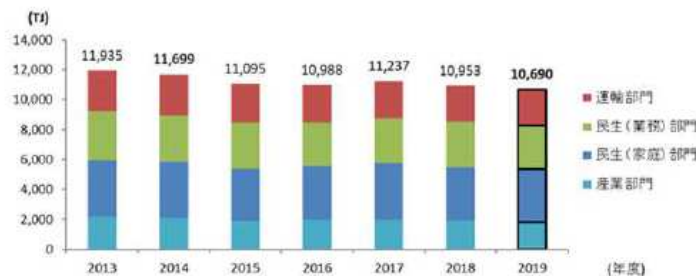
誰もが自由に移動ができるまちづくりと連携した持続可能な公共交通

交通弱者の移動が確保された公共交通
若者や子育て世代も移動しやすい公共交通
来訪者も円滑に移動できる公共交通
福祉や観光などの他分野と連携した公共交通
まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通
デジタル技術の発展と連携した公共交通
財政負担が適正化された公共交通
市民、事業者等と協働でつくる公共交通
脱炭素社会の実現に寄与する公共交通

評価指標

環境基本計画

市内のエネルギー消費量（運輸部門）



出典：「オール東京62市区町村共同事業」提供データより作成
府中市におけるエネルギー消費量の推移

(目標値)

令和12年度 1,833TJ

※目標年度は環境基本計画にあわせる。

(基準値)

令和元年度 2,428TJ

目標達成の方向性

市民に公共交通を利用してもらう取組を進めるとともに、EV車両の導入支援など、公共交通の脱炭素化を促進し、脱炭素社会の実現に寄与します。

7. 施策・事業

1. 序章 1-1 地域公共交通計画の意義 / 1-2 府中市地域公共交通計画の概要 1-3 府中市地域公共交通計画の全体像
2. 上位計画と国・東京都の方針 2-1 府中市の上位計画における都市像 2-2 国や東京都の地域公共交通に関する方針
3. 府中市の地域公共交通の現状 3-1 府中市の概況 / 3-2 地域公共交通の現状 / 3-3 コミュニティバス事業の評価・検証 / 3-4 市民の移動実態
4. 府中市の地域公共交通の問題点と課題 4-1 府中市の地域公共交通の問題点と課題 (1) 市中心部への移動に関する問題点と課題 (2) 地区内の移動に関する問題点と課題 (3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題 (4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題
5. 基本的な方針 5-1 基本的な方針の意義 5-2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針 ① 誰もが自由に移動ができる ・交通弱者の移動が確保された公共交通 ・若者や子育て世代も移動しやすい公共交通 ・来訪者も円滑に移動できる公共交通 ② まちづくりと連携した ・福祉や観光などの他分野と連携した公共交通 ・まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通 ・デジタル技術の発展と連携した公共交通 ③ 持続可能な地域公共交通 ・財政負担が適正化された公共交通 ・市民、事業者等と協働でつくる公共交通 ・脱炭素社会の実現に寄与する公共交通
6. 目標・評価指標 6-1 計画目標 1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する 2 日常生活圏域内における生活・移動をより便利にする 3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する 4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする 5 誰もが安心・快適に移動できるようにする 6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする 6-2 計画目標ごとの評価指標
7. 施策・事業 7-1 施策展開の基本的な考え方 / 7-2 施策一覧 7-3 目標ごとの施策の組み合わせ / 7-4 施策展開図 / 7-5 事業一覧 7-6 事業内容
8. 推進体制・評価方法 8-1 計画の推進体制 / 8-2 PDCAサイクルによる評価・検証 8-3 評価指標・数値目標

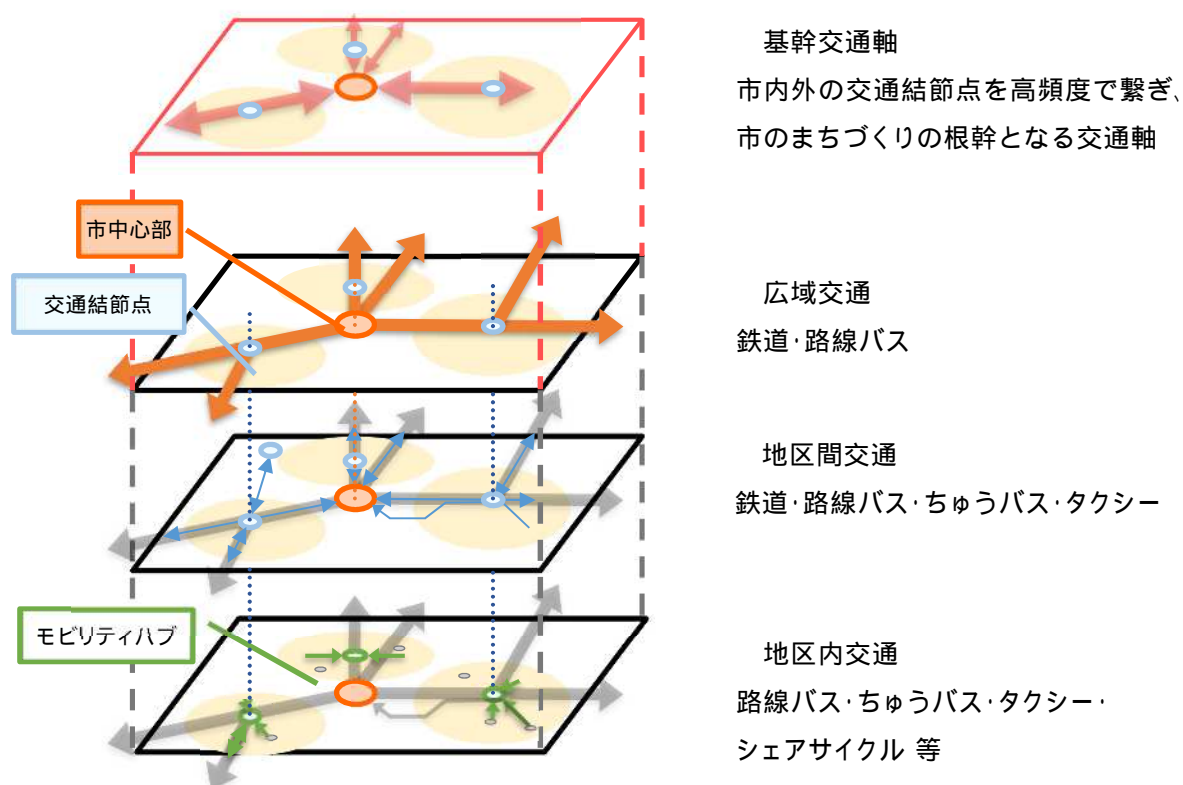
7 - 1 施策展開の基本的な考え方

計画目標を達成するための施策展開に当たっては、公共交通ネットワーク構築の基本的な考え方や、階層ごとの役割分担、交通に関する拠点の位置付け、目標達成におけるトレードオフの関係性などを考慮して、施策、事業を展開します。

【市内公共交通ネットワーク構築の基本的な考え方】

鉄道駅を中心とした利便性の高い交通ネットワークの維持・改善
市内の公共交通ネットワークは、充実した鉄道網を中心に形成されているほか、鉄道駅は、市民の日常生活の中心となっていることから、鉄道駅を中心としたネットワークを維持しつつ、ニーズに合わせてバスネットワーク等を改善することを基本的な考え方とします。

府中市の公共交通の階層的なネットワーク(イメージ図)



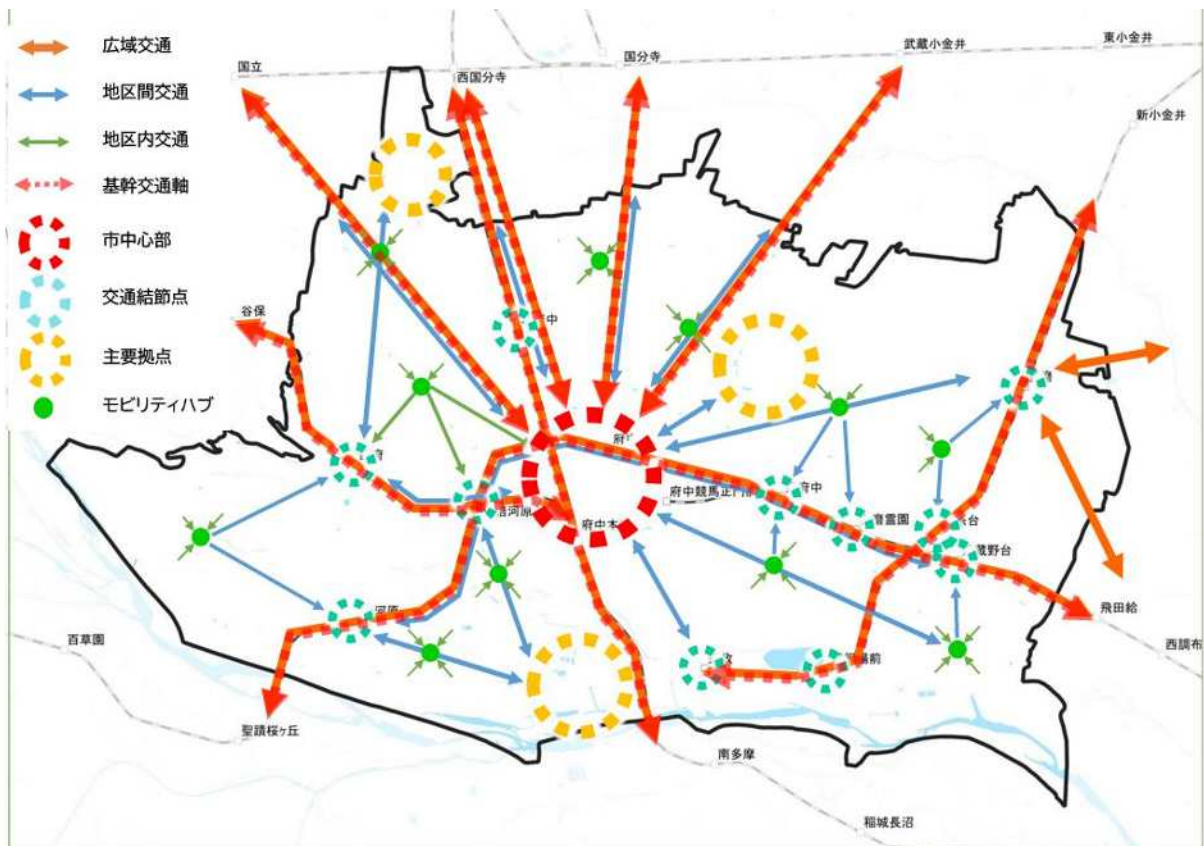
【階層による役割分担の基本的な考え方】

	位置づけ	該当する公共交通
広域交通	市内外を繋ぐ広域的な公共交通	鉄道、路線バス
地区間交通	市内の地区間、各地区と市中心部などの拠点を繋ぐ公共交通	鉄道、路線バス、ちゅうバス、タクシー
地区内交通	日常生活圏域内等の身近な生活を支える交通	路線バス、ちゅうバス、タクシー、シェアサイクル等
基幹交通軸	市内外の交通結節点を高頻度で繋ぎ、市のまちづくりの根幹となる交通軸	鉄道、路線バス

【拠点の位置付けに関する基本的な考え方】

	位置づけ	該当する箇所	都市マスとの関係性
市中心部	市内各所からのアクセス性に優れ、多様な交通モードに乗り換えることができる交通拠点	府中駅・府中本町駅周辺	「にぎわいと活力のあるまちづくり方針図」に示される「中心拠点」
交通結節点	日常生活圏内の広域交通・地区間交通・地区内交通に乗り換えることができる交通拠点	各駅周辺など	「にぎわいと活力のあるまちづくり方針図」に示される「地域拠点」、「日常生活拠点」、
主要拠点	都市計画マスタープランにおける拠点のうち、鉄道駅以外の交通拠点	多摩メディカル・キャンパス周辺、府中の森公園・府中基地跡地留保地周辺	「にぎわいと活力のあるまちづくり方針図」に示される「文化・スポーツ拠点」、「広域医療拠点」、「にぎわい活力拠点」
モビリティハブ	地区内の生活施設等を核とし、複数の地区内交通を利用することができる身近な交通拠点	例：文化センター、コンビニ、ドラッグストア、公園など	

< 役割分担された公共交通ネットワーク(イメージ図) >



【目標達成におけるトレードオフの関係性】

地域公共交通の利便性と持続可能性の両方の向上を目指そうとする場合など、ある目標の達成と別の目標の達成が両立できない関係性にある場合に留意し、施策・事業を展開する必要があります。

7 - 2 施策一覧

本市の基本的な方針の実現のための計画目標を達成するために実施する施策を次のとおり整理しました。なお、施策の整理にあたっては、目標達成の方向性から、性質に合わせて施策にまとめたほか、施策展開の基本的な考え方にに基づき、内容を検討しています。

No.	施策名
施策1	バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 持続可能な公共交通ネットワークへの再編により、市民の移動手段の確保を目指します。
施策2	複数交通モードの接続性の向上 交通結節点における移動手段の接続性を向上させ、シームレスな移動を目指します。
施策3	公共交通利用時における移動等円滑化の促進 公共交通でのバリアフリー化を促進し、安全・安心な移動の提供を目指します。
施策4	特定の需要に対応した快適な移動手段の検討 タクシーを活用して、移動ニーズへのきめ細かい対応を目指します。
施策5	地区内交通を支える最適な移動手段の検討 地区内交通での移動手段を検討し、日常生活に必要な移動の確保を目指します。
施策6	広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上 市内外の拠点へのアクセスを向上し、まちづくりや観光施策との連携を目指します。
施策7	交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進 公共交通における協働を推進し、地域社会の活力の維持・向上を目指します。
施策8	デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上 新たな技術やサービスの活用を検討し、交通サービスの利便性向上等を目指します。
施策9	公共交通を利用しやすい環境の整備促進 待合環境の改善などを通じて、公共交通を利用しやすい環境整備を目指します。
施策10	市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議 市と事業者が協議を行い、地域の実情やニーズに即した公共交通の継続を目指します。
施策11	自家用車からの段階的な転換と公共交通等による移動の促進 公共交通の利用促進を図り、自家用車に頼らずに移動できる環境を目指します。
施策12	公共交通の脱炭素化の促進 公共交通の脱炭素化を図り、環境負荷の低減を目指します。

7 - 3 施策展開図

本計画に基づく施策が、本市のどの地域や公共交通を対象としているかについて、公共交通の階層ごとに図示します。

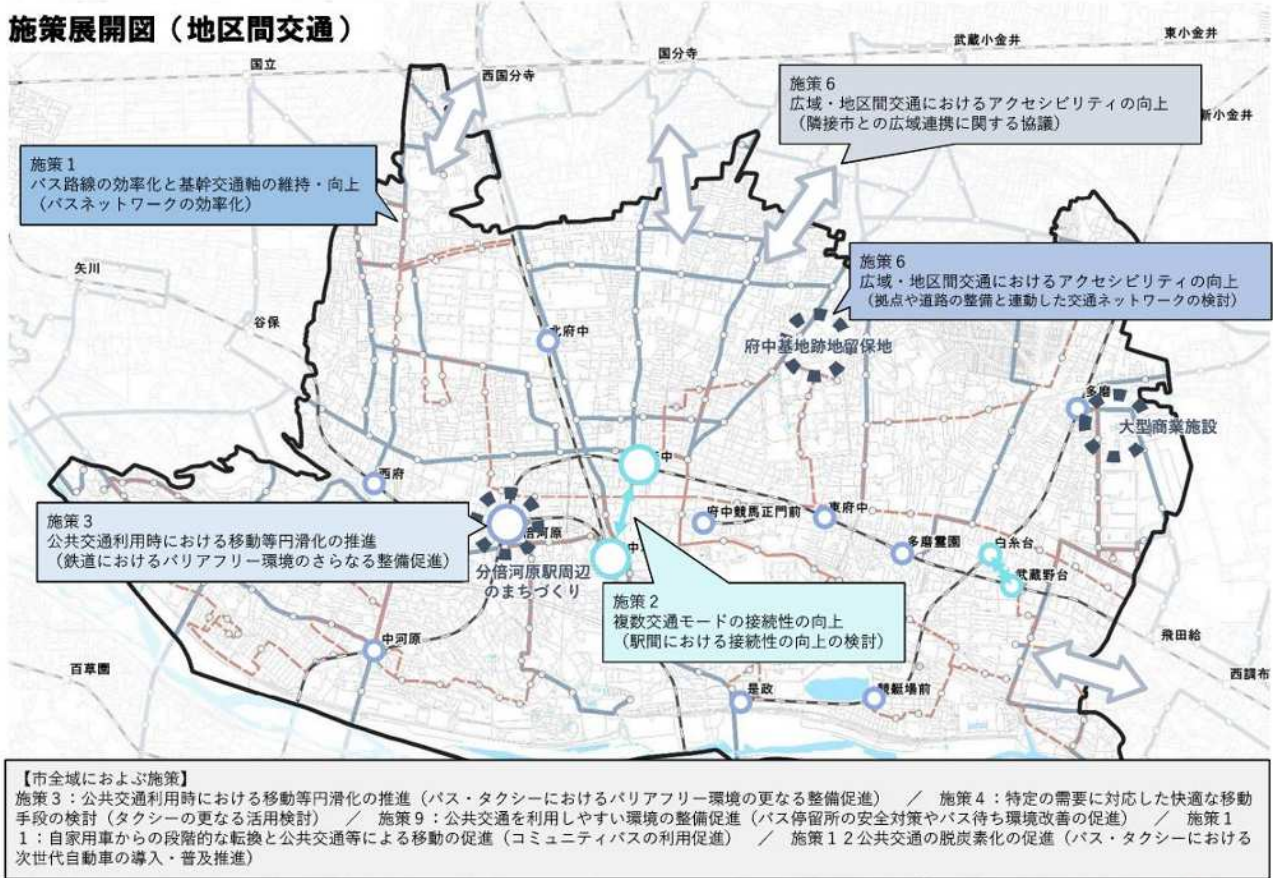
(1) 広域交通施策



対象の施策を欄外に記載予定

(2) 地区間交通施策

施策展開図（地区間交通）



対象の施策を欄外に記載予定

(3) 地区内交通施策

施策展開図（地区内交通）

地区内交通の施策は、日常生活圏ごとに検討し、推進することを予定している。

日常生活圏とは、住民が日常生活を営んでいる地域。地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、福祉・医療等の施設の立地状況などを総合的に勘案して定めたエリアである。府中市では、市内を11地区の日常生活圏に設定している。



図 日常生活圏



【市全域におよぶ施策】
 施策 3
 公共交通利用時における移動等円滑化の推進（移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想の策定）
 施策 9
 公共交通を利用しやすい環境の整理促進（自転車利用環境の総合的整備）
 施策 12
 公共交通の脱炭素化の促進（人と環境にやさしい交通手段の構築）

施策 1
 バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上（地区内交通手段の在り方検討）
 施策 5
 地区内交通を支える最適な移動手段の検討（多様な輸送資源の活用検討）
 施策 7
 交通施策における市民・企業・団体等との共同の推進（市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討）

※同様の施策を他の日常生活圏においても実施する。

対象の施策を欄外に記載予定

7 - 4 階層による施策・事業の組み合わせ

本計画では、1つの目標に対し、階層ごとに性質に合わせた施策を実施するほか、複数の施策を組み合わせた多角的な施策展開を行うため、目標達成のための施策を整理しています。

目標		目標達成の方向性	階層	施策	事業
計画目標	行動目標				
1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する	①鉄道・路線バス・コミュニティバス等の連携・役割分担により中心部への移動を確保する。	鉄道、路線バス、ちゅうバスの重複解消等によるネットワークの効率化とこれらの交通モードの接続性の向上により、効果的に市中心部への移動を確保します。	広域交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策2) 複数交通モードの接続性の向上	(事業1) 地域公共交通ネットワークの再編(鉄道ネットワークの活用) (事業4) ニーズに合わせた鉄道と二次交通の接続性の向上
			地区間交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策2) 複数交通モードの接続性の向上	(事業2) 地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化) (事業5) 駅間における接続性向上の検討
			地区内交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策2) 複数交通モードの接続性の向上	(事業3) 地域公共交通ネットワーク再編計画の策定(地区内交通手段の在り方検討) (事業6) モビリティハブ整備の検討
	②中心部での移動のしやすさ、回遊性の向上を図る	バリアフリー環境の整備やタクシーの活用検討により、誰もが市の中心部まで移動しやすい公共交通を目指すほか、府中駅などにおいて、デジタル技術の活用、小型モビリティの促進やウォークアブルなまちづくりとの連携により回遊性の向上を図ります。	広域交通	(施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業17) MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究 (事業7) 鉄道におけるバリアフリー環境の更なる整備促進
			地区間交通	(施策4) 特定の需要に対応した快適な移動手段の検討 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業10) タクシーの更なる活用検討 (事業8) 交通弱者・子育て世代等の公共交通での移動しやすさの向上
			地区内交通	(施策5) 地区内交通を支える最適な移動手段の検討 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業11) 多様な輸送資源の活用検討 (事業9) 移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想の策定
2 日常生活圏内における生活・移動をより便利にする	①日常生活を支える圏域内の移動手段の充実に向け、身近な生活の利便性の向上、地区内の交流・経済活動の促進を図る	バスネットワークの再編のほか、隣接市との連携、多様な輸送手段の活用、市民等との協働により、日常生活圏内における移動の利便性向上を図ります。	広域交通	—	—
			地区間交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上	(事業2) 地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化) (事業13) 隣接市との広域連携に関する協議
			地区内交通	(施策5) 地区内交通を支える最適な移動手段の検討 (施策7) 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	(事業11) 多様な輸送資源の活用検討 (事業15) 交通事業者との協働による地域活動の促進 (事業16) 市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討
	②公共交通空白・不便エリアにおける最適な移動手段を検討する	バスネットワークの再編のほか、隣接市との連携、多様な輸送手段の活用、市民等との協働により、公共交通空白・不便エリアでの最適な移動手段を検討します。	広域交通	—	—
			地区間交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上	(事業2) 地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化) (事業13) 隣接市との広域連携に関する協議
			地区内交通	(施策5) 地区内交通を支える最適な移動手段の検討 (施策7) 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	(事業11) 多様な輸送資源の活用検討 (事業15) 交通事業者との協働による地域活動の促進 (事業16) 市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討
3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する	①鉄道駅を中心とした鉄道・バス等の交通ネットワークと交通結節点での各モード間の連携・接続を図る	駅、バス停での二次交通との接続性を向上させるほか、モビリティハブ整備を行い、交通モードの連携・接続を図ります。	広域交通	(施策2) 複数交通モードの接続性の向上	(事業4) ニーズに合わせた鉄道と二次交通の接続性の向上
			地区間交通	(施策2) 複数交通モードの接続性の向上	(事業5) 駅間における接続性向上の検討
			地区内交通	(施策2) 複数交通モードの接続性の向上	(事業6) モビリティハブ整備の検討
	②隣接市との連携による市外への買い物等の利便性向上を図る	バスネットワークの再編を行い、隣接市への接続を検討するとともに、隣接市が日常生活圏内に当たる地域においては、多様な輸送手段や民間事業者との協働などを活用することで、市外への買物等の利便性向上を図ります。	広域交通	—	—
			地区間交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上	(事業2) 地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化) (事業13) 隣接市との広域連携に関する協議
			地区内交通	(施策5) 地区内交通を支える最適な移動手段の検討 (施策7) 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	(事業11) 多様な輸送資源の活用検討 (事業16) 市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討
③市内の主要拠点へのアクセス向上を図る	バスネットワークの再編を行い、主要拠点への接続を効果的に確保するとともに、拠点周辺における多様な輸送手段の検討や民間事業者との協働を活用することで、主要拠点へのアクセス向上を図ります。	広域交通	(施策2) 複数交通モードの接続性の向上 (施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上	(事業4) ニーズに合わせた鉄道と二次交通の接続性の向上 (事業12) 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会、多摩地域都市モブール等建設促進協議会等を通じた要請活動	
		地区間交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上	(事業2) 地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化) (事業14) 拠点・道路の整備や観光施策と連動した交通ネットワークの検討	
		地区内交通	(施策5) 地区内交通を支える最適な移動手段の検討 (施策7) 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	(事業11) 多様な輸送資源の活用検討 (事業15) 交通事業者との協働による地域活動の促進	

(備考) 本計画の目標は、移動態様を踏まえて設定していることから、例えば、市中心部への移動でも、市外への移動でも、「効率化を図る」という場合には、「ネットワーク再編に関する施策」を設定することとなります。また、「移動のしやすさの向上」という場合には、路線の最適化だけではなく、誰もが移動しやすい環境を考慮する必要があるため、1つの目標に対し、「ネットワーク再編に関する施策」と「バリアフリーに関する施策」を合わせて実施することとなります。

目標		目標達成の方向性	階層	施策	事業
計画目標	行動目標				
4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする	①あらゆる市民への最適な交通サービスを提供する	MaaS等の新たな技術やタクシーの新たな制度の活用を検討するとともに、市民や事業者との協働や多様な輸送手段を活用することで、あらゆる市民へ最適な交通サービスを提供できるようにします。	広域交通	(施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業17) MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究 (事業18) デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進 (事業19) オープンデータ化の促進
			地区間交通	(施策4) 特定の需要に対応した快適な移動手段の検討	(事業10) タクシーの更なる活用検討
			地区内交通	(施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上 (施策5) 地区内交通を支える最適な移動手段の検討 (施策7) 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	(事業17) MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究 (事業18) デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進 (事業19) オープンデータ化の促進 (事業11) 多様な輸送資源の活用検討 (事業16) 市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討
	②まちづくりや福祉分野との連携を図る	府中市都市計画マスタープランに位置付けられたまちづくりとの連携や移動の円滑化を図るためのパリアフリー整備その他の福祉施策との連携を図ります。	広域交通	(施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業12) 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会、多摩地域都市モノレール等建設促進協議会等を通じた要請活動 (事業7) 鉄道におけるパリアフリー環境の更なる整備促進
			地区間交通	(施策6) 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業14) 拠点・道路の整備や観光施策と連動した交通ネットワークの検討 (事業8) バス・タクシーにおける公共交通での移動しやすさの向上
			地区内交通	(施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業9) 移動等円滑化促進方針・パリアフリー基本構想の策定 (事業7) 鉄道におけるパリアフリー環境の更なる整備促進
5 誰もが安心・快適に移動できるようにする	①鉄道駅におけるホームドア整備などパリアフリー化を推進する	鉄道、バス、駅周辺等におけるパリアフリー化を進めるとともに、踏切道の安全性の向上など、公共交通を利用しやすい環境整備を促進し、安全な移動ができるようにします。	広域交通	(施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業7) 鉄道におけるパリアフリー環境の更なる整備促進
			地区間交通	(施策9) 公共交通を利用しやすい環境の整備促進 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業21) 踏切道の安全対策の推進 (事業8) バス・タクシーにおける公共交通での移動しやすさの向上
			地区内交通	(施策9) 公共交通を利用しやすい環境の整備促進 (施策3) 公共交通利用時における移動等円滑化の促進	(事業23) 自転車利用環境の総合的整備（府中市交通安全計画） (事業9) 移動等円滑化促進方針・パリアフリー基本構想の策定
	②安全・安心で分かりやすく快適な交通環境を提供する	バス、タクシーの待ち環境の整備や自転車の安全利用を進めるとともに、デジタル技術を活用して、公共交通を利用する環境がより安全・快適になる施策を実施します。	広域交通	(施策9) 公共交通を利用しやすい環境の整備促進 (施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業7) 鉄道駅におけるバス、タクシー待ち環境改善の促進 (事業17) MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究 (事業18) デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進 (事業19) オープンデータ化の促進
			地区間交通	(施策9) 公共交通を利用しやすい環境の整備促進 (施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業22) バス停留所の安全対策やバス待ち環境改善の促進 広域と同じ
			地区内交通	(施策9) 公共交通を利用しやすい環境の整備促進 (施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業23) 自転車利用環境の総合的整備（府中市交通安全計画） 広域と同じ
③デジタル技術の活用により、公共交通サービスの利便性の向上を図る	各事業者のオープンデータ化や国や東京都の動向を踏まえた調査研究を進め、デジタル技術を活用した市内公共交通の利便性向上に資する取り組みを促進します。	広域交通	(施策8)	(事業17) MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究 (事業18) デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進 (事業19) オープンデータ化の促進	
		地区間交通	デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上		
		地区内交通			
6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする	①財政負担とサービス充実の両立を図る	市民ニーズを踏まえて、ちゅうバスの運行目的を見直し、バスネットワークの再編を行うとともに、必要に応じて、市民協働による手法も含めて検討することで、財政負担の軽減とサービス充実の両立を図ります。	広域交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上	(事業1) 地域公共交通ネットワークの再編（鉄道ネットワークの活用）
			地区間交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上	(事業2) 地域公共交通ネットワークの再編（バスネットワークの効率化）
			地区内交通	(施策1) バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上 (施策7) 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進	(事業3) 地域公共交通ネットワーク再編計画の策定（地区内交通手段の在り方検討） (事業16) 市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討
	②厳しい経営状況（コロナ、乗務員不足を含む）に置かれている地域公共交通の中長期的なサービス維持を図る	市と公共交通関係者で継続的な情報共有を行うとともに、MaaSや自動運転技術などのデジタル技術活用の調査研究を進め、市内でのサービス維持のための取組を進めます。	広域交通	(施策10) 市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議 (施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業24) 地域公共交通協議会の定期的な開催と公共交通ネットワーク維持のための事業者支援の検討 (事業17) MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究 (事業18) デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進 (事業19) オープンデータ化の促進
			地区間交通	(施策10) 市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議 (施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業24) 地域公共交通協議会の定期的な開催と公共交通ネットワーク維持のための事業者支援の検討 広域と同じ
			地区内交通	(施策10) 市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議 (施策8) デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上	(事業24) 地域公共交通協議会の定期的な開催と公共交通ネットワーク維持のための事業者支援の検討 広域と同じ
③脱炭素社会の実現に寄与する公共交通サービスの展開、市民の意識啓発を図る	市民に公共交通を利用してもらう取組を進めるとともに、公共交通の脱炭素化を促進し、脱炭素社会の実現に寄与します。	広域交通	(施策11) 自家用車からの段階的な転換と公共交通利用に関する啓発 (施策12) 公共交通の脱炭素化の促進	(事業25) 鉄道を中心とした利便性の高い交通ネットワークの周知・利用促進 (事業28) 鉄道における脱炭素化の取組みの促進	
		地区間交通	(施策11) 自家用車からの段階的な転換と公共交通利用に関する啓発 (施策12) 公共交通の脱炭素化の促進	(事業26) コミュニティバスの利用促進 (事業29) バス・タクシーにおける次世代自動車の導入・普及促進	
		地区内交通	(施策11) 自家用車からの段階的な転換と公共交通利用に関する啓発 (施策12) 公共交通の脱炭素化の促進	(事業27) 自転車と公共交通の連携・利用促進 (事業30) 人と環境に優しい交通手段の構築（府中市環境基本計画）	

7 - 5 事業一覧

施策ごとの具体的な事業は、公共交通階層による役割分担の考え方に基づき、階層ごとに設定した結果、広域交通事業が8事業、地区間交通事業が9事業、地区内交通事業が9事業、全域対象事業が4事業の合計30事業に整理しています。

また、事業は、公共交通ネットワークの課題解決に関するものを重点事業(9事業)、本計画以外の計画等で推進するものを関連事業(3事業)と区分しており、重点事業は、取組の優先順位を高く設定し、その他の事業については、原則として、各実施主体が順次取り組むものと位置付けています。

< 事業一覧 >

施策1 バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上			区分
広域	事業1	地域公共交通ネットワークの再編(鉄道ネットワークの活用)	重点事業
地区間	事業2	地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化)	重点事業
地区内	事業3	地域公共交通ネットワークの再編(地区内交通手段の在り方検討)	重点事業

施策2 複数交通モードの接続性の向上			区分
広域	事業4	ニーズに合わせた鉄道と二次交通の接続性の向上	
地区間	事業5	駅間における接続性向上の検討	重点事業
地区内	事業6	モビリティハブ整備の検討	重点事業

施策3 公共交通利用時における移動等円滑化の促進			区分
広域	事業7	鉄道におけるバリアフリー環境の更なる整備促進	
地区間	事業8	バス・タクシーにおけるバリアフリー環境の更なる整備促進	
地区内	事業9	移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想の策定	関連事業

施策4 特定の需要に対応した快適な移動手段の検討			区分
地区間	事業10	タクシーの更なる活用検討	

施策5 地区内交通を支える最適な移動手段の検討			区分
地区内	事業11	多様な輸送資源の活用検討	重点事業

施策6 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上			区分
広域	事業12	三鷹・立川間立体化複々線促進協議会等を通じた要請活動	
地区間	事業13	隣接市との広域連携に関する協議	重点事業
地区間	事業14	拠点・道路の整備や観光施策と連動した交通ネットワークの検討	

施策7 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進			区分
地区内	事業15	交通事業者との協働による地域活動の促進	
地区内	事業16	市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討	重点事業

施策8 デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上			区分
全域	事業17	MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究	重点事業
全域	事業18	デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進	
全域	事業19	オープンデータ化の促進	

施策9 公共交通を利用しやすい環境の整備促進			区分
広域	事業20	鉄道駅におけるバス、タクシー待ち環境改善の推進	
広域	事業21	踏切道の安全対策の推進	
地区間	事業22	バス停留所の安全対策やバス待ち環境改善の促進	
地区内	事業23	自転車利用環境の総合的整備(府中市交通安全計画)	関連事業

施策10 市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議			区分
全域	事業24	地域公共交通協議会の定期的な開催と交通事業者支援の検討	

施策11 自家用車からの段階的な転換と公共交通等による移動の促進			区分
広域	事業25	公共交通サービスの利用促進	
地区間	事業26	コミュニティバスの利用促進	
地区内	事業27	自転車と公共交通の連携・利用促進	

施策12 公共交通の脱炭素化の促進			区分
広域	事業28	鉄道における脱炭素化の取組みの促進	
地区間	事業29	バス・タクシーにおける次世代自動車の導入・普及推進	
地区内	事業30	人と環境に優しい交通手段の構築(府中市環境基本計画)	関連事業

7 - 6 事業内容

施策1 バス路線の効率化と基幹交通軸の維持・向上

事業1 地域公共交通ネットワークの再編(鉄道ネットワークの活用)

重点事業

広域

内容: JR南武線、JR武蔵野線、京王電鉄京王線、西武鉄道多摩川線などの充実した鉄道ネットワークを活用し、地域公共交通ネットワークを再編します。

目標: 1 - ・6 - 対象: JR 南武線・JR 武蔵野線 京王電鉄京王線・西武鉄道多摩川線
実施主体: 府中市、鉄道事業者

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12~
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			ネットワーク再編実施・検証				次期計画
鉄道事業者	地域公共交通ネットワーク再編に係る協議			ネットワークの再編に伴う鉄道利用への効果検証				次期計画

事業2 地域公共交通ネットワークの再編(バスネットワークの効率化)

重点事業

地区間

内容: 「路線バスとコミュニティバスの重複区間の解消」や「運行距離が長大な路線の見直し」を中心としたバスネットワークの効率化に向けて、地域公共交通ネットワークを再編します。

なお、再編に当たっては、地域住民との意見交換や府中市地域公共交通協議会において協議を行います。

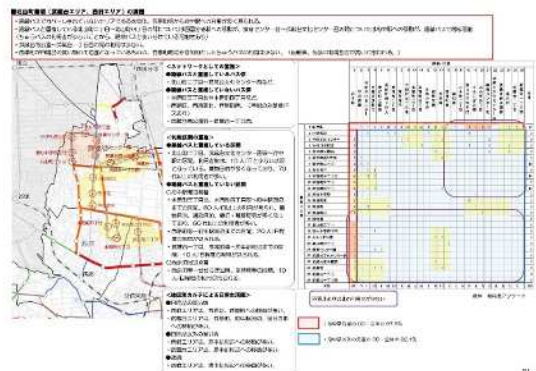
実施基準: コミュニティバスを含むバス路線等の効率的・効果的な再編の推進については、再編案の客観的な分析・シミュレーションのほか、市民や事業者との対話が必要となります。

この点については、概ね次の基準で実施する予定です。

- ・ 交通事業者と協議の上、鉄道、路線バス及びコミュニティバスの重複解消のための再編案を検討し、市民ニーズや利用状況等を踏まえているかを専門的に分析する。
- ・ 再編により交通不便地域等が発生しないよう、新たなモビリティの導入可能性等についてもシミュレーションを行い、事業化の必要性について検討を進める。
- ・ 検討過程において地域公共交通協議会のほか、利用者、市民との意見交換を行う。
- ・ 再編案等を整理し、令和7年度に計画策定、令和8年度以降に順次再編を実施。

目標: 1 - ・2 - ・2 - ・3 - ・3 - ・6 - 対象: 路線バス、コミュニティバス
実施主体: 府中市、バス事業者

イメージ写真



参考(コミュニティバス事業の評価・検証)

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12~
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			ネットワーク再編実施・検証				次期計画
鉄道事業者	地域公共交通ネットワーク再編に係る協議			ネットワークの再編に伴う鉄道利用への効果検証				次期計画

事業3 地域公共交通ネットワークの再編(地区内交通手段の在り方検討)

重点事業

地区内

内容:地域公共交通ネットワークの再編において、日常生活圏内の公共交通の利便性や交通弱者の移動に課題がある地域については、府中市地域公共交通協議会の意見を踏まえ、地区内交通手段の在り方を検討します。

なお、再編に当たっては、地域住民との意見交換や府中市地域公共交通協議会において協議を行います。

目標:1 - ・6 - 対象:
実施主体:府中市

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			ネットワーク再編実施・検証				次期計画
鉄道事業者	地区内交通手段の在り方の検討			検討結果に応じて他施策での事業実施				次期計画

ちゅうバスの財政負担
料金に関する検討内容
コミバス検討会議の内容

施策2 複数交通モードの接続性の向上

事業4 ニーズに合わせた鉄道と二次交通の接続性の向上

広域

内容: 新型コロナウイルス感染症の影響等により、通勤等の外出機会の減少や駅構内のサテライトオフィスなどの利用により、鉄道利用者の状況が変化していることから、多様化する利用者ニーズに対応するため、駅における複数交通モードの接続性の向上を図られるよう調整します。

目標: 1 - ・ 3 - ・ 3 - 対象: 京王電鉄京王線・JR 南武線・JR 武蔵野線・西武鉄道多摩川線、鉄道駅に接続するバス路線 実施主体: 府中市・交通事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	(順次)各種事業の実施							次期計画
交通事業者	(順次)各種事業の実施							次期計画

事業5 駅間における接続性向上の検討

重点事業

地区間

内容: 鉄道において、路線を乗り継ぐ際に異なる駅間(府中駅～府中本町駅、武蔵野台駅～白糸台駅)での移動が必要な地域における接続性の向上を図るための検討を進めます。

なお、これらの対応は、地域公共交通ネットワークの再編と併せて検討します。

目標: 1 - ・ 3 - 対象: 府中駅・府中本町駅間、武蔵野台駅・白糸台駅間 など
実施主体: 府中市、交通事業者ほか

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			再編に合わせて実施又は検討の継続				次期計画
交通事業者	接続性向上等の協議			再編に合わせて実施又は検討の継続				次期計画

事業6 モビリティハブ整備の検討

重点事業

地区内

内容: 効率的な地域公共交通ネットワークに必要な場合は、日常生活圏域において、人が集まるスポット(集合住宅、商業施設、文化センター、公園など)でのモビリティハブ整備を検討していきます。

モビリティハブ: 様々な交通モードの接続・乗換拠点

目標: 1 - ・ 3 - 対象: 集合住宅、商業施設、集会施設、公園、文化センターなど
実施主体: 府中市

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	ネットワークの再編と並行して調査・研究							次期計画

施策3 公共交通利用時における移動等円滑化の促進

事業7 鉄道におけるバリアフリー環境の更なる整備促進

広域

内容:高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(以下「バリアフリー法」といいます。)の基準に基づき、駅構内や車両内におけるバリアフリー環境の整備やサービスの提供を実施するとともに、各社の計画に沿って順次市内の駅にバリアフリー施設を設置します。

また、市は、ホームドア整備などの鉄道事業者の取組に対し、補助金の交付などの支援や市民への周知等を行います。

目標:1 - ・4 - ・5 - 対象:京王電鉄京王線・JR南武線・JR武蔵野線・西武鉄道多摩川線 実施主体:府中市・鉄道事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
鉄道事業者	(順次)各社の計画に沿ったバリアフリー環境の整備							次期計画
府中市	(順次)補助金の交付、市民周知等の協力							次期計画

事業8 バス・タクシーにおけるバリアフリー環境の更なる整備

地区間

内容:バリアフリー法の基準に基づき、交通弱者、子育て世代等が利用しやすいバス、タクシー車両の導入などの環境整備を進めます。

また、市は、必要に応じて、事業者の取組への支援、市民への周知等を行います。

なお、ちゅうバスにおいては、運行事業者と協議のうえ、車内環境の向上を検討します。

目標:1 - ・4 - ・5 - 対象:路線バス、ちゅうバス、タクシー 実施主体:府中市、バス事業者、タクシー事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
バス・タクシー事業者	(順次)各社の計画に沿ったバリアフリー環境の整備							次期計画
府中市	(順次)市民周知等の協力・ちゅうバスにおける検討							次期計画

事業9 移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想の策定

関連事業

地区内

内容:まちなかにおける移動等の円滑化を目的として、建築物や道路等の連続性を確保した「面的・一体的なバリアフリー化」を図るため、バリアフリー法に基づき、移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の作成を行います。

また、移動等円滑化促進方針等を策定後は、これに基づく特定事業を推進していきます。

目標:1 - ・4 - ・5 - 対象:生活関連施設、生活関連道路など 実施主体:府中市・特定事業者

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	移動等円滑化促進方針等の策定		特定事業の推進					次期計画
特定事業者	移動等円滑化促進方針等の策定		特定事業の実施					次期計画

施策4 特定の需要に対応した快適な移動手段の検討

事業10 タクシーの更なる活用検討

地区間

内容: タクシーにおける相乗りサービスや事前確定運賃など新たな制度の動向を踏まえながら、通院や子育てなど、移動に快適性が求められるニーズに、より柔軟に対応できるよう検討を進めます。

また、市は、タクシーの新たな制度に関する調査研究を進めるとともに、タクシー利用者の増加につながるよう、市民の移動ニーズへの対応について事業者と協議します。

目標: 1 - ・ 4 - 対象: タクシー 実施主体: タクシー事業者・府中市

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
タクシー事業者	新たな制度の活用・実装の検討							次期計画
府中市	新たな制度の活用検討・協議							次期計画

施策5 地区内交通を支える最適な移動手段の検討

事業11 多様な輸送資源の活用検討

重点事業

地区内

内容: 日常生活圏内の公共交通の利便性や交通弱者の移動に課題がある地域については、市内で提供されている施設送迎バスや福祉有償運送のほか、ボランティアによる輸送など、既存の交通サービス以外の活用を検討します。

なお、地域公共交通ネットワークの再編における地区内交通の在り方を踏まえて検討します。

目標: 1 - ・ 2 - 1・ 2 - ・ 3 - ・ 3 - ・ 4 -
対象: 既存公共交通以外の輸送サービス
実施主体: 府中市

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			ネットワークの再編実施・検証				次期計画
	地区内交通手段の在り方の検討			検討結果に応じて事業実施				次期計画

施策6 広域・地区間交通におけるアクセシビリティの向上

事業12 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会等を通じた要請活動

広域

内容: JR中央線の三鷹・立川間の複々線化の実現に向け、三鷹・立川間立体化複々線促進協議会を通じて、関係機関に要請します。

目標: 4 - 対象: JR中央線、多摩都市モノレール 実施主体: 府中市

京王電鉄及び小田急電鉄の多摩センター駅と西武鉄道多摩川線の是政駅を結ぶ広域交通ネットワークの実現のため、多摩都市モノレールを是政方面へ延伸する構想路線の具体化に向けた検討を促すよう多摩地域都市モノレール等建設促進協議会を通じて、関係機関に要請します。

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	協議会を通じた要請活動							次期計画

事業13 隣接市との広域連携に関する協議

重点事業

地区間

内容: 東京都では、行政区を超える移動需要への対応が課題となるなか、本市においても、市民が日常生活で最も利用する鉄道駅は、市内に限らず各地域の最寄りの駅である実情を踏まえ、地域公共交通ネットワークの再編に当たっては、隣接市とのバス交通等における連携を協議します。

イメージ写真

東京における地域公共交通の基本方針(令和4年3月東京都)13頁参照

目標: 2 - ・2 - ・3 - ・3 - ・4 -
対象: 路線バス、コミュニティバス、新たな移動手段 実施主体: 府中市、バス事業者ほか

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			ネットワークの再編実施・検証				次期計画
	隣接市との協議							次期計画

事業14 拠点・道路の整備や観光施策と連動した交通ネットワークの検討

地区間

内容: 府中基地跡地留保地、分倍河原駅周辺などのまちづくりの動向や、都市計画道路等の整備のほか、観光施策の展開など、移動需要の変化を踏まえた交通ネットワークを検討します。

目標: 3 - ・4 - 対象: 路線バス、コミュニティバス、新たな移動手段 実施主体: 府中市、東京都、鉄道事業者、バス事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	(順次) 拠点や道路の整備状況に合わせたネットワークの検討							次期計画

施策7 交通施策における市民・企業・団体等との協働の推進

事業15 交通事業者との協働による地域活動の促進

地区内

内容: 地区内の交流や経済活動の促進のため、駅等における地域貢献活動など、市民、市内事業者と交通事業者の協働による各種取り組みを促進します。

目標: 2 - ・ 2 - ・ 3 - 対象: 交通結節点
実施主体: 府中市、市民、市内事業者、鉄道事業者
など

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	取組の支援体制の検討・実施							次期計画
その他	各種取組の実施							次期計画

事業16 市民の日常生活や社会活動を支える交通施策の検討

重点事業

地区内

内容: 買い物、通院、市民活動などを行う場合に、地区内において、きめ細かい交通へのニーズが高い地域で、コミュニティバスでは当該ニーズに対応できない場合は、交通事業者以外の多様な主体との連携を含め、フィーダー交通を支える移動手段を検討します。

なお、地域公共交通ネットワークの再編における地区内交通の在り方を踏まえて検討します。

目標: 2 - ・ 2 - ・ 3 - ・ 3 - ・ 4 -
6 - 対象: 実施主体: 府中市・市民ほか

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	地域公共交通ネットワーク再編計画の策定			ネットワークの再編実施・検証				次期計画
	地区内交通手段の在り方の検討			検討結果に応じて事業実施				次期計画

施策8 デジタル技術活用による交通サービスの効率性・利便性の向上

事業17 MaaS、自動運転、新たな移動手段等に関する調査研究

重点事業

全域

内容:全国的に、デジタル技術や新たな技術を活用した公共交通の利便性向上や運行効率化を図る取組が推進されていることを踏まえ、本市の地域課題・交通課題の解決に資するMaaS、自動運転、オンデマンド交通、グリーンスローモビリティ等の導入について調査研究を進めます。

また、他施策を進める場合は、ICTの活用や次世代モビリティの実証実験などを積極的に進めていきます。

目標:1 - ・4 - ・5 - ・5 - ・6 -

対象: 実施主体:府中市・交通事業者

イメージ写真

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	調査研究				実装に向けた取組促進			次期計画
交通事業者	市の事業への協力等							次期計画

事業18 デジタル技術を活用した情報収集や誰にでも分かりやすい情報発信の促進

全域

内容:デジタル技術を活用した利用状況等の収集及び分析や、利用者向けの情報発信を行うことにより、公共交通に関する情報を多様な利用者に分かりやすく発信するよう努めます。また、市は、事業者の取組の支援や必要な情報提供を行います。

目標:4 - ・5 - ・5 - ・6 -

対象:

実施主体:交通事業者・府中市

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
交通事業者	(順次)各社の計画に沿った情報発信等							次期計画
府中市	(順次)事業者の取組の支援、情報提供							次期計画

事業19 オープンデータ化の促進

全域

内容:GTFS-JP・GTFS-RTなど公共交通に関する情報のオープンデータ化を促進することで、利用者の利便性向上につながる施策や異なる交通機関の一体的な情報発信などの活用に向けて、国等の動向を見据えた検討を行います。

また、市は、事業者の取組の支援や必要な情報提供を行います。

目標:4 - ・5 - ・5 - ・6 -

対象:鉄道、

路線バス、コミュニティバス、タクシー

実施主体:交通事業者・府中市

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
交通事業者	(順次)オープンデータ化の取組							次期計画
府中市	(順次)事業者の取組の支援、情報提供							次期計画

施策9 公共交通を利用しやすい環境の整備促進

事業20 鉄道駅におけるバス、タクシー待ち環境改善の推進

広域

内容：鉄道駅において、バスやタクシーを安全・快適に待つことができるよう、一定の基準を設けたうえで、ベンチ等の待合環境の整備を進めます。
 なお、待合環境改善の基準については、地域公共交通ネットワークの再編に合わせて検討します。

目標：5 - 対象：鉄道駅のバス停留所及びタクシー乗り場
 実施主体：交通事業者・府中市

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	待合環境改善基準の策定等			基準に基づき実施又は支援				次期計画
交通事業者	上記基準の策定に関する協議			市の取組みへの協力				次期計画

事業21 踏切道の安全対策の推進

広域

内容：踏切道における交通安全を確保するため、踏切道改良促進法に基づく「改良すべき踏切道」を中心として、鉄道事業者や市の道路管理部門・交通安全部門と協力し、ソフト・ハード両面から可能な対策を検討し、踏切道の安全対策を推進します。

目標：5 - 対象：鉄道
 実施主体：府中市・東京都・鉄道事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	踏切道改良促進法に基づく対策の検討・実施							次期計画
東京都・鉄道事業者	踏切道改良促進法に基づく対策の検討・実施							次期計画

踏切資料

事業2.2 バス停留所の安全対策やバス待ち環境改善の促進

地区間

内容: バス停留所周辺の交通安全を確保するため、交差点や横断歩道付近のバス停をはじめとして、バス事業者、公安委員会や市の道路管理部門・交通安全部門と協力し、バス停留所の安全対策を促進します。

また、バスを安全・快適に待つことができるよう、一定の基準を設けたうえで、ベンチ等の待合環境の整備を進めます。なお、待合環境改善の基準については、地域公共交通ネットワークの再編に合わせて検討します。

目標: 1 - ・ 4 - ・ 5 - 対象: バス
実施主体: 府中市・バス事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	順次実施・待合環境改善基準の策定等			基準に基づき実施又は支援				次期計画
バス事業者	上記基準の策定に関する協議			市の取組みへの協力				次期計画

バス停資料

事業2.3 自転車利用環境の総合的整備(府中市交通安全計画)

関連事業

地区内

内容: 日常生活圏域内の移動の多くは自転車であることから、府中市交通安全計画に基づき、交通ルール、マナーの啓発を行うとともに、自転車通行空間や自転車駐車場の整備を促進します。

目標: 5 - ・ 5 - 対象: 自転車
実施主体: 府中市・東京都・府中警察署

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	府中市交通安全計画(令和5年度～12年度)の推進							
関係機関	府中市交通安全計画(令和5年度～12年度)の推進							

施策10 市・公共交通関係者間の継続的な情報共有及び協議

事業24 地域公共交通協議会の定期的な開催と交通事業者支援の検討

全域

内容：府中市地域公共交通協議会などを活用して、バス路線の再編や事業進捗等に関する情報共有、協議、調整を行っていきます。

協議会では、各交通事業者の抱える問題等を共有し、各事業者に対して、市が実施できる支援策の検討を行います。

目標：6 - 対象：

実施主体：府中市・交通事業者ほか

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	協議会の開催・協議・支援内容検討							次期計画
交通事業者ほか	協議会における協議・各社の情報共有							次期計画

記事

施策11 自家用車からの段階的な転換と公共交通等による移動の促進

事業25 公共交通サービスの利用促進

全域

内容：市縁辺部の地域では自家用車の利用率が高い状況も見られることから、高齢等により自ら車を運転できなくなった場合でも移動ができるよう、市内公共交通の利便性を周知し、公共交通サービスの利用方法を周知することで、公共交通の利用促進を図ります。

目標：6 - ・6 - 対象：鉄道、路線バス、タクシーなど
実施主体：府中市・交通事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	市民周知等							次期計画
交通事業者	市への情報提供等							次期計画

事業26 コミュニティバスの利用促進

地区間

内容：府中市コミュニティバス「ちゅうバス」の利用を促進するため、各種イベントへの参加や乗車案内の作成、わかりやすい運行路線図の検討など、市民協働も視野にソフト面における利用促進事業を実施します。

目標：6 - ・6 - 対象：コミュニティバス
実施主体：府中市・バス事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	周年事業	イベント参加等						次期計画
バス事業者	事業協力	事業協力・協働						次期計画

事業27 自転車と公共交通の連携・利用促進

地区内

内容：自転車を折りたたまずにそのまま電車内に持ち込めるサイクルトレインの活用や、サイクル&バスライドの検討など、自転車と公共交通の組み合わせにより自家用車に依存しない移動を促進します。

目標：6 - 対象：自転車、鉄道など
実施主体：府中市・交通事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	(順次)促進方法の検討・実施							次期計画
交通事業者	(順次)各社の事業の実施							次期計画

施策12 公共交通の脱炭素化の促進

事業28 鉄道における脱炭素化の取組みの促進

広域

内容： 国は、鉄道分野からのCO₂排出削減のための取組を進めることのほか、鉄道の特性を踏まえた再生可能エネルギーの活用をこれまで以上に加速させることや、代替燃料の可能性を模索することなどを推進しており、鉄道事業者は、各社において脱炭素化に資する取組みを推進・検討しています。

市は、国や事業者の動向を踏まえながら、事業者による取組みの支援を検討します。

目標：6 - 対象：鉄道
実施主体：府中市・鉄道事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	支援方法の検討・実施							次期計画
鉄道事業者	(順次)各社の事業の実施							次期計画

事業29 バス・タクシーにおける次世代自動車の導入・普及推進

地区間

内容： 国は、次世代自動車の普及、燃費性能の向上、自動車の電動化に対応したインフラの社会実装などを推進しており、バス・タクシー事業者は、各社において、次世代自動車の導入など脱炭素化に資する取組みを推進・検討しています。

市は、国や事業者の動向を踏まえながら、事業者による取組みの支援を検討します。

目標：6 - 対象：路線バス、コミュニティバス、タクシーなど
実施主体：府中市・バス事業者・タクシー事業者

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	支援方法の検討・実施							次期計画
バス・タクシー事業者	(順次)各社の事業の実施							次期計画

事業30 人と環境に優しい交通手段の構築(府中市環境基本計画)

関連事業

地区内

内容： 温室効果ガス排出量の削減に取り組むため、市は、第3次府中市環境基本計画に基づく取組みを進めます。

また、市民に対して、徒歩や自転車での移動、シェアサイクルや公共交通機関の利用を促進します。

目標：6 - 対象：自転車
実施主体：府中市、交通事業者、市民

スケジュール	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12～
府中市	府中市環境基本計画(令和5年度～12年度)の推進							
交通事業者ほか	府中市環境基本計画(令和5年度～12年度)の推進							

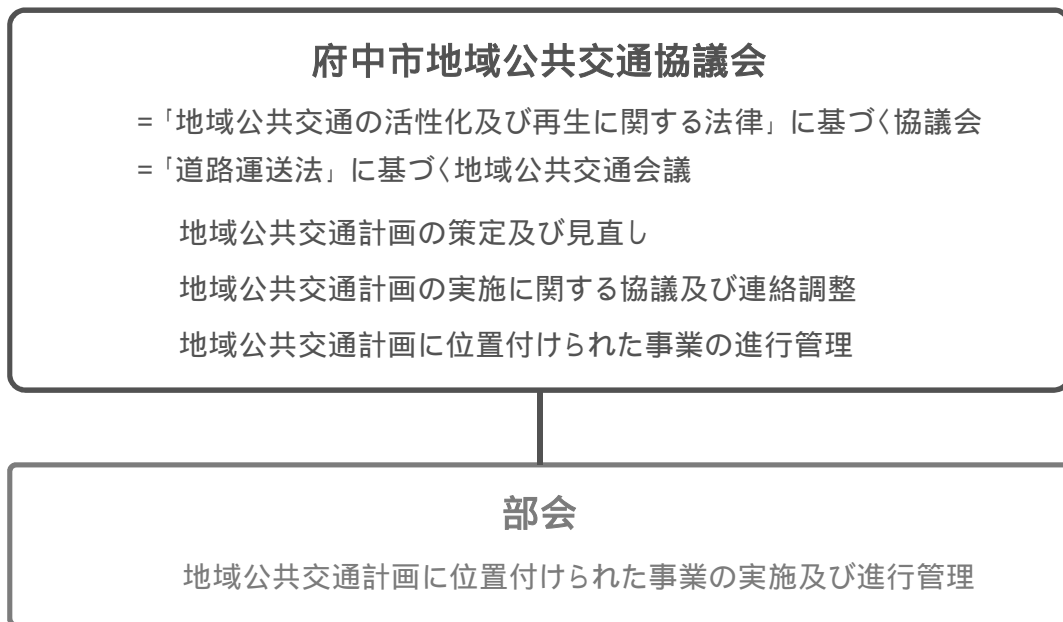
8. 推進体制・評価方法

1. 序章 1-1 地域公共交通計画の意義 / 1-2 府中市地域公共交通計画の概要 1-3 府中市地域公共交通計画の全体像	
2. 上位計画と国・東京都の方針 2-1 府中市の上位計画における都市像 2-2 国や東京都の地域公共交通に関する方針	
3. 府中市の地域公共交通の現状 3-1 府中市の概況 / 3-2 地域公共交通の現状 / 3-3 コミュニティバス事業の評価・検証 / 3-4 市民の移動実態	
4. 府中市の地域公共交通の問題点と課題 4-1 府中市の地域公共交通の問題点と課題 (1) 市中心部への移動に関する問題点と課題 (2) 地区内の移動に関する問題点と課題 (3) 地区間・市内外の移動に関する問題点と課題 (4) 公共交通の利用環境に関する問題点と課題	
5. 基本的な方針 5-1 基本的な方針の意義 5-2 府中市地域公共交通計画の基本的な方針 ① 誰もが自由に移動ができる ・交通弱者の移動が確保された公共交通 ・若者や子育て世代も移動しやすい公共交通 ・来訪者も円滑に移動できる公共交通 ② まちづくりと連携した ・福祉や観光などの他分野と連携した公共交通 ・まちの変化や新たな拠点と連携した公共交通 ・デジタル技術の発展と連携した公共交通 ③ 持続可能な地域公共交通 ・財政負担が適正化された公共交通 ・市民、事業者等と協働でつくる公共交通 ・脱炭素社会の実現に寄与する公共交通	6. 目標・評価指標 6-1 計画目標 1 市内各所から市中心部へのアクセスを効率的・効果的に確保する 2 日常生活圏内における生活・移動をより便利にする 3 地区間や市外への移動の利便性を維持向上する 4 年齢やライフステージ・身体状況等によらず、市民が必要な移動ができるようにする 5 誰もが安心・快適に移動できるようにする 6 交通サービスを将来に渡り提供できるようにする 6-2 計画目標ごとの評価指標
7. 施策・事業 7-1 施策展開の基本的な考え方 / 7-2 施策一覧 7-3 目標ごとの施策の組み合わせ / 7-4 施策展開図 / 7-5 事業一覧 7-6 事業内容	
8. 推進体制・評価方法 8-1 計画の推進体制 / 8-2 PDCAサイクルによる評価・検証 8-3 評価指標・数値目標	

8 - 1 計画の推進体制

本計画を進めるにあたっては、「地域(住民・民間事業者等)」「交通事業者」「行政」の3者が連携し、一体となり、計画目標の達成に向け取り組むとともに、それぞれの役割を確認しながら持続可能な交通体系の構築を目指します。

このため、本計画は、「府中市地域公共交通協議会」において進捗管理を行いながら推進します。

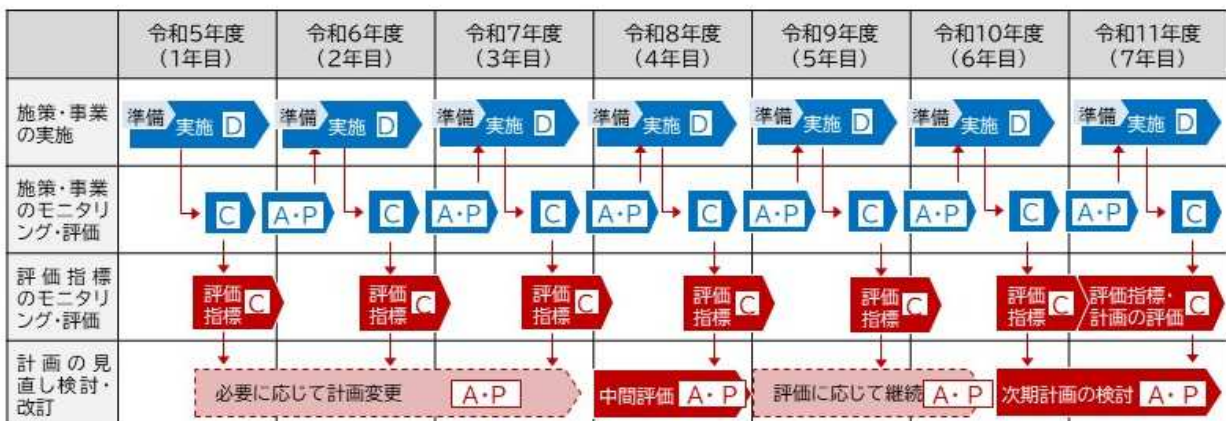


8 - 2 PDCA サイクルによる評価・検証

本計画は、計画策定(Plan)、施策・事業の実施(Do)、モニタリング・評価(Check)、見直し・改善(Action)を繰り返すPDCAサイクルの考え方により推進していきます。

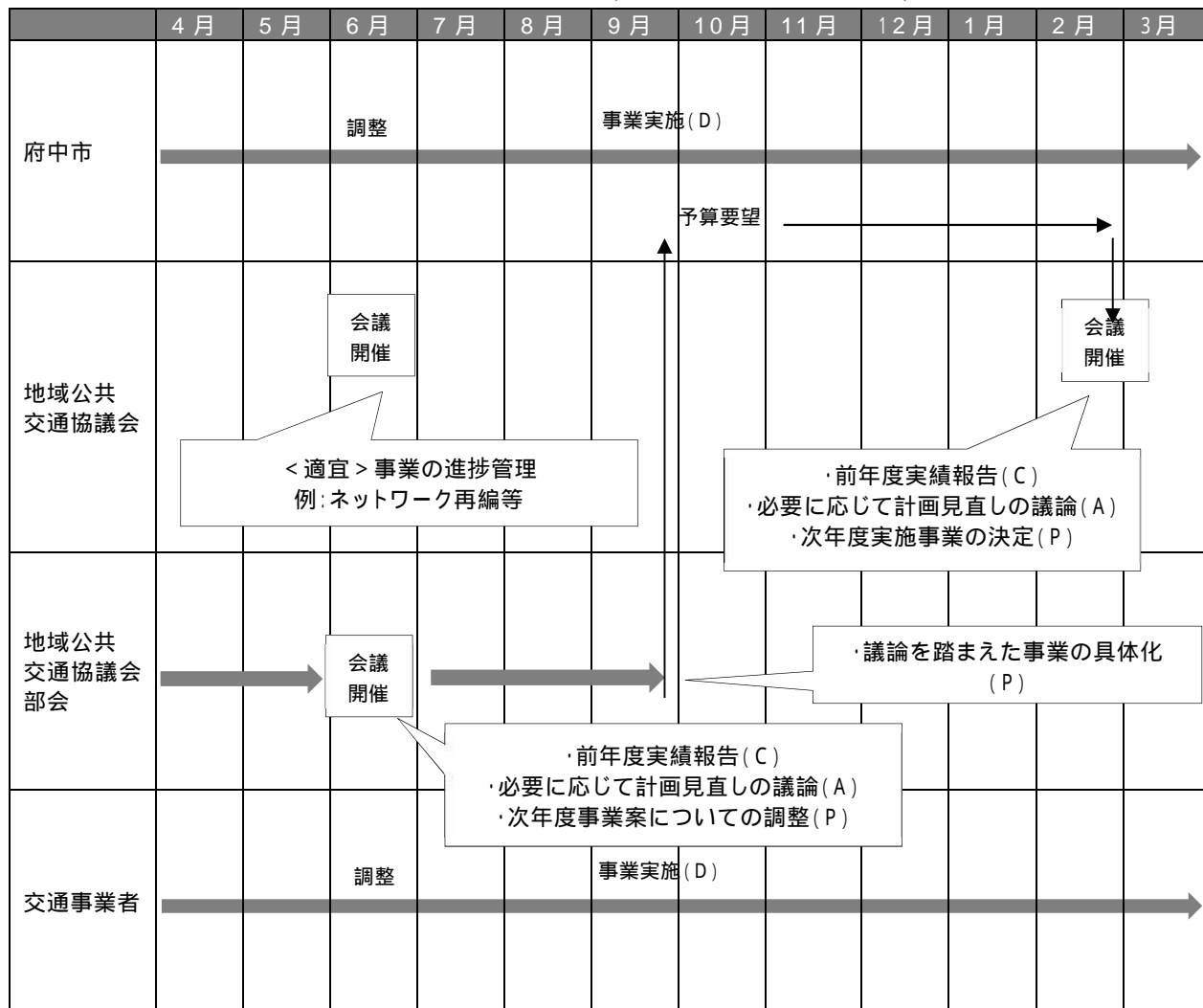
毎年度の施策・事業の実施・評価・見直しという短期のPDCAサイクルと、計画期間を通しての長期のPDCAサイクルにより、計画の推進及び進捗管理を行っていきます。

【毎年度の短期のPDCAサイクル及び、計画期間を通しての長期のPDCAサイクル】



毎年度の短期のPDCAサイクルとして、年度ごとに部会と協議会を各1回開催し、前年度実績報告や次年度事業案についての調整等を行います。ただし、地域公共交通ネットワークの再編など重点事業の実施にあたっては、より高頻度に推進及び進捗管理を行います。

【基本的な年間スケジュール(短期のPDCAサイクル)】



上記のほか、地域公共交通会議は、適宜必要に応じて開催するものとします。

調整中

8 - 3 評価指標・数値目標

各評価指標の算出方法や目標値設定の考え方は、次のとおりです。

指標 市中心部に接続する公共交通(鉄道・路線バス・コミュニティバス)の1日当たりの利用者数	
指標の算出方法	<p><u>算出式</u> (鉄道の1日当たりの利用者数) + (路線バスの1日あたりの利用者数) + (コミュニティバスの1日当たりの利用者数)</p> <p><u>鉄道の1日当たりの利用者数</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市中心部に位置する駅(府中駅・府中本町駅)を算出対象とする。 ・ 鉄道事業者のホームページに公表されている数値を計上する。私鉄は「一日平均乗降人員」を計上する。JRは「一日平均乗車人員」に2を乗じた数値を計上する。 </p> <p><u>路線バスの1日当たりの利用者数</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府中駅に接続するすべての系統を算出対象とする。 ・ 路線バス事業者から提供される利用者数を計上する。 <参考:令和3年度時点の算出対象> 武71、武73、寺92、府02、国17、府42、府46、西国44、西国45、寺91、 国02、国03、府21、府52、府61 </p> <p><u>コミュニティバスの1日当たりの利用者数</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府中駅に接続するすべての系統を算出対象とする。 ・ 運行事業者から提供される利用者数を計上する。 <参考:令和3年度時点の算出対象> 多磨町ルート/北山町循環/是政循環/よつや苑西ルート/押立町ルート/朝日町ルート </p>
現況値・目標値	<p>【基準値】 119,158人/日 令和3年度(2021年度)実績の合計</p> <p>【目標値】 159,400人/日 令和11年度(2029年度)実績の合計</p>
目標値設定の考え方	<p>平成28年度から令和3年度までの推移をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度から令和2年度にかけて利用が落ち込み、令和3年度には利用が回復している。令和4年度以降も利用の回復がみられる可能性はあるが、生活様式の変化が生じていることを勘案すると、このままではコロナ前の利用状況の回復することは難しいと考えられる。</p> <p>一方で、令和12年度まで府中市の人口は減少しないと推計されており、令和4年度以降に実施する交通施策によって、コロナ前(H28-H30)の水準まで利用を回復させることを目指して、目標値として設定する。</p>

指標 けやき並木通りの休日の歩行者交通量	
指標の算出方法	担当課からの情報提供(委託事業者からの報告)
現況値・目標値	【基準値】 23,976人/日 令和3年度(2021年度)実績の合計 【目標値】 第7次府中市総合計画後期基本計画における令和11年度の目標値
目標値設定の考え方	第7次府中市総合計画施策60の指標は、令和7年度目標値が38,000人/日となっており、令和11年度までの目標は示されていない。 このことから、令和7年度までは、前期基本計画の指標に沿って進捗管理を行い、後期基本計画策定後は、同計画における令和11年度の目標値を、本計画の目標値に設定する。 参照:第7次府中市総合計画 191頁
参考指標	平日や他の周辺道路における歩行者交通量

指標 65歳以上の市民の週2回以上の外出回数	
指標の算出方法	担当課からの情報提供(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)
現況値・目標値	【基準値】 79.6% 令和元年度(2021年度)週2回以上の外出割合 【目標値】 80% 令和10年度(2029年度)週2回以上の外出割合
目標値設定の考え方	平成27年時点の高齢者人口を100とした場合の令和12年における後期高齢者(75歳以上)人口の推計値は143.3となっており、移動制約者となりうる後期高齢者人口は増加傾向が続く。 この場合であっても、現在の外出回数を維持するよう概ね基準値と同数の80%を目標値とする。 参照:府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第8期)9頁
参考指標	前期高齢者・後期高齢者など年齢別の割合

指標 バス公共交通空白・不便地域の人口割合	
指標の算出方法	国勢調査における府中市の人口に対する、バス停から300m以上・路線バスが1日片道30本未満の地域に居住する人口の割合(コミュニティバスに係るものを除く。)
現況値・目標値	【現況値】 14.6% 令和3年度(2021年度)人口割合 【目標値】 基準値以下 令和11年度(2029年度)人口割合
目標値設定の考え方	令和2年国勢調査における府中市の人口262,790人に対し、バス停から300m以上・路線バスが1日片道30本未満の地域に居住する人口38,402人の割合である14.6%が増加しないよう、基準値以下を目標値に設定する。 なお、地域公共交通ネットワークの再編により、新たな移動手段等が導入される場合は、状況に応じて公共交通空白・不便地域の定義を再検討する。 参照:第7次府中市総合計画 15頁

指標 中心部以外の各駅の鉄道利用者数	
指標の算出方法	<p>市中心部以外に位置する駅(JR 南武線分倍河原駅、京王線分倍河原駅、中河原駅、多磨霊園駅、武蔵野台駅、東府中駅、競馬場正門前駅、多磨駅、白糸台駅、競艇場前駅、是政駅、西府駅、北府中駅)を対象とし、鉄道事業者のホームページに公表されている数値を計上する。</p> <p>なお、私鉄は「一日平均乗降人員」を計上し、JR は「一日平均乗車人員」に2を乗した数値を計上する。</p>
現況値・目標値	<p>【基準値】 276,097 人/日 令和3年度(2021年度)</p> <p>【目標値】 346,500 人/日 令和11年度(2029年度)</p>
目標値設定の考え方	<p>合計値の平成28年度から令和3年度までの推移をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に利用が落ち込み、令和3年度にはやや利用が回復している。令和4年度以降も利用の回復がみられる可能性はあるが、生活様式の変化が生じていることを勘案すると、このままではコロナ前の利用状況の回復することは難しいと考えられる。</p> <p>一方で、令和12年度まで府中市の人口は減少しないと推計されており、令和4年度以降に実施する交通施策によって、コロナ前(H28-H30)の水準まで利用を回復させることを目指して、目標値を設定する。</p>

指標 隣接市の鉄道駅への日中の公共交通(路線バス・コミュニティバス・新たな移動手段)の接続便数	
指標の算出方法	<p>隣接市の鉄道駅に接続する市内に停留所がある路線の平日日中(8時~20時)における接続便数の合計</p> <p><u>市域北側対象駅(停留所名)</u> 国立駅(国立駅南口)、谷保駅(谷保駅)、国分寺駅(国分寺駅南口)、西国分寺駅(西国分寺駅)、武蔵小金井駅(武蔵小金井駅南口)</p> <p><u>市域南側対象駅(停留所名)</u> 飛田給駅(飛田給駅北口・南口)、南多摩駅(南多摩駅)、聖蹟桜ヶ丘駅(聖蹟桜ヶ丘駅)、永山駅(永山駅)</p>
現況値・目標値	<p>【基準値】 市域北側:799 便/日 令和4年10月 市域南側:77 便/日 令和4年10月</p> <p>【目標値】 市域北側:基準値以上/日 令和11年度(2029年度) 市域南側:85 便/日 令和11年度(2029年度)</p>
目標値設定の考え方	<p>目標値は、バス交通が充実している北側は、現状維持を原則としつつ基準値以上を、南側は現状の1割増を目標とする。</p> <p>対象とする時間の設定は、ちゅうバスの運行時間を基準として8時から20時までとする。</p> <p>新たな移動手段については指標 と同様に順次検討する。</p>

指標 市内の主要拠点(駅を除く)への日中の公共交通(路線バス・コミュニティバス・新たな移動手段)の接続便数	
指標の算出方法	<p>都市計画マスタープランにおける駅以外の拠点周辺に発着する、市内に停留所がある路線の平日日中(8時～20時)における接続便数の合計 なお、対象の停留所のうち他の停留所と路線が重複する便は除外する。</p> <p><u>対象停留所</u> ・広域医療拠点(総合医療センター)、 ・文化スポーツ拠点(郷土の森正門前、郷土の森総合体育館、芝間稻荷神社、郷土の森)、 ・にぎわい活力拠点(府中市美術館、府中の森公園、天神町二丁目、生涯学習センター、市民聖苑前、芸術劇場)</p>
現況値・目標値	<p>【基準値】 502 便/日 令和 4 年 10 月 【目標値】 552 便/日 令和 11 年度(2029 年度)</p>
目標値設定の考え方	<p>目標値は現状の 1 割増とする。 対象とする時間の設定は、ちゅうバスの運行時間を基準として 8 時から 20 時までとする。 新たな移動手段については指標 と同様に順次検討する。</p>

指標 公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合	
指標の算出方法	担当課からの情報提供(市民意識調査)
現況値・目標値	<p>【基準値】 66.6% 令和 3 年度(2021 年度)の割合 【目標値】 後期基本計画の目標値 令和 11 年度(2029 年度)の割合</p>
目標値設定の考え方	<p>第 7 次府中市総合計画施策 58 の指標は、令和 7 年度目標値が 70%となっており、令和 11 年度までの目標は示されていない。 このことから、令和 7 年度までは、前期基本計画の指標に沿って進捗管理を行い、後期基本計画策定後は、同計画における令和 11 年度の目標値を、本計画の目標値に設定する。</p> <p>参照:第 7 次府中市総合計画 187 頁</p>
参考指標	前期高齢者・後期高齢者など年齢別の割合

指標 新たに整備される施設等への公共交通(路線バス・コミュニティバス・新たな移動手段)の接続便数	
指標の算出方法	新たに整備される施設に接続する公共交通の往復の便数の合計
現況値・目標値	【基準値】 なし 【目標値】 1施設1往復以上 令和11年度(2029年度)実績の合計
目標値設定の考え方	令和11年度までに新たに整備される公共施設等について1施設1往復以上を目標値に設定する。

指標 鉄道駅におけるバリアフリー施設等の整備数	
指標の算出方法	市内鉄道駅におけるバリアフリー施設等整備数の合計
現況値・目標値	【現況値】 1施設 令和3年度(2021年度) 【目標値】 13施設 令和11年度(2029年度)
目標値設定の考え方	全てのバリアフリー施設を対象とするが、目標値は市が望むホームドアの整備数(1線=1施設)とする。 内訳 (R3)西武鉄道多摩川線競艇場前駅ホーム内方線付き点状ブロック1施設 (R4)JR南武線府中本町駅ホームドア2線 (R5)西府駅ホームドア2線(予定) (市の要望対象)京王線府中駅ホームドア整備4線、分倍河原駅ホームドア2線、南武線分倍河原駅ホームドア2線

指標 バス停における待合環境改善の取組数	
指標の算出方法	市内停留所におけるベンチの設置など待合環境改善に資する取組数の合計
現況値・目標値	【基準値】 3件 令和3年度(2021年度) 【目標値】 19件 令和11年度(2029年度)
目標値設定の考え方	毎年2件程度を累積でカウントする。

指標 市内公共交通情報のオープンデータ化取組者割合	
指標の算出方法	市内交通事業者のオープンデータ化取組者の割合
現況値・目標値	【基準値】 0% 令和3年度(2021年度)の割合 【目標値】 100% 令和11年度(2029年度)の割合
目標値設定の考え方	市内事業者のオープンデータ化に取り組み状況を把握する。 鉄道事業者3社・バス事業者2社・タクシー事業者6社 オープンデータ化取組みの想定 鉄道:「交通事業者における交通関連データのオープン化に関する共通指針」に基づく取組みなど。 バス:「標準的なバス情報フォーマット」の整備など

	タクシー:配車アプリに利用可能な位置情報等のオープンデータ化など
--	----------------------------------

指標 コミュニティバスの収支率	
指標の算出方法	各年度実績におけるコミュニティバスの運行経費に占める運行収入の割合
現況値・目標値	【現況値】 47.1% 令和3年度(2021年度) 【目標値】 60% 令和11年度(2029年度)
目標値設定の考え方	新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度実績 58.6%を踏まえ、60%を目標値と設定する。

指標 公共交通事業者への各種支援件数	
指標の算出方法	市内公共交通事業者に対して実施した市の支援件数の合計
現況値・目標値	【参考値】 1件 令和4年度(2022年度) 【目標値】 基準値以上 令和11年度(2029年度)
目標値設定の考え方	地域公共交通協議会における経営状況に関する情報共有や国の動向等を注視し、支援が必要となった際に実施を検討することから、基準値以上を目標と設定する。 (令和4年度実績) 乗合バス・タクシー事業者原油価格・物価高騰臨時対策補助金

指標 市内のエネルギー消費量(運輸部門)	
指標の算出方法	担当課からの情報提供(環境基本計画)
現況値・目標値	【参考値】 2,428TJ 令和元年度(2019年度) 【目標値】 1,833TJ 令和12年度(2030年度) 目標年度は府中市環境基本計画にあわせる。
目標値設定の考え方	第3次府中市環境基本計画(令和5年度策定予定)を踏まえた目標値を設定する。 参照:第3次府中市環境基本計画
参考指標	市内の温室効果ガス排出量、市内のエネルギー消費量、平日・休日ごとの道路交通量、登録自動車台数(乗用車)、自転車駐車場利用台数等

参考資料

1 策定の経緯

(1) 策定体制

(2) 策定までの経緯

2 実態・ニーズ調査の実施概要

(1) 市民アンケート調査

(2) 路線バス利用者アンケート調査

(3) ちゅうバス利用者アンケート調査

(4) タクシー利用者アンケート調査

(5) 民生委員アンケート調査

3 データ分析結果

4 用語解説